



秘

昭和三年  
税關長會議議事要錄



別存  
昭和財政史資料  
第一六四號

国立公文書館	
分類	財務省
	平成15年度
排架番号	つくば書庫5
	5-59
	487

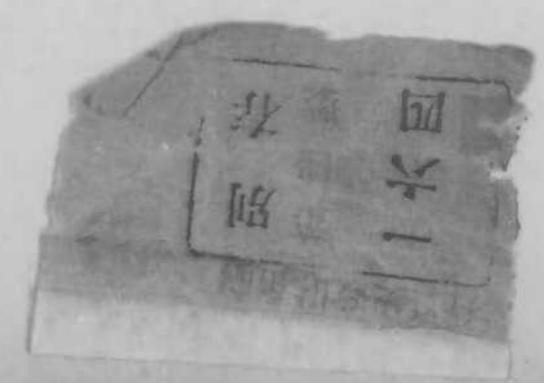
42

0000 0531

昭和三年税關長會議議事要録

本會議ハ六月四日開會セラレ 劈頭三土大藏大臣ノ訓示アリ、引續キ主税局長司會ノ下ニ諮問事項ニ對スル答申並各關提出ニ係ル協議事項ノ審議及他省關係事務ノ打合ヲ了シ同月七日閉會セリ、其ノ間出席シタル高等官左ノ如シ

横濱税關長	井上 徳太郎
神戸税關長	篠 崎 昇
大阪税關長	中 島 鐵平
長崎税關長	金 光 秀文
門司税關長	泉 至 剛
函館税關長	西 森 猷太郎
<small>朝鮮總督府事務官</small>	内 海 幹 一
仁川税關長	渡 邊 秀 雄
釜山税關長	宮 崎 又 治 郎
<small>臺灣總督府税關長</small>	大 竹 勇
本省高等官	
主税局長	藤 井 真 信



關稅課長	飯田九州雄
大藏事務官	入間野武雄
同	谷口恒二
大藏技師	矢部規矩治
同	栗山正雄
關係省高等官	
農林技師	間部彰
同	横堀善四郎
同	藤卷雪生
農林事務官	橋本實斐
商工事務官	宮木廣大
逓信技師	鈴木七郎

### 大藏大臣ノ訓示

茲ニ稅關長會議ノ開催ニ當リ、諸君ト會同シテ所見ヲ述ブルノ機會ヲ得タルコトハ、私ノ欣幸トスル所デアリマス。

御承知ノ如ク、我邦ノ經濟界ハ多年不況ノ域ヲ脱セズ、殊ニ昨春ノ金融恐慌ニ依リ更ニ多大ノ打撃ヲ蒙ツタノデアリマス。政府ニ於テモ之ガ對策ニ付大ニ努力シタルコトハ勿論、又國民一致ノ協力ニ依リ、幸ニシテ其ノ整理モ順潮ニ進捗シ、財界ノ情勢ハ漸次良好ニ向ヒツツアルノデアリマス。就中外國貿易ニ於テハ、昨年來著シク入超額ヲ減少シ、本年ニ入ツテハ一層其ノ趨勢ヲ強メ、五月末迄ノ実績ニ依リマスレバ、前年同期ニ比シ實ニ八千餘萬圓ノ入超減ヲ示シ、此ノ狀況ヲ以テ進メバ今後一層國際貸借ノ改善ヲ期待シ得ルコトト思ハレマス。併シナガラ尙我經濟界ノ前途ハ遠ニ樂觀ヲ容サザルモノガアリマス。今ヤ國際間ノ經濟競争ハ日ニ益熾烈ヲ加ヘ來ツテ居リマス。故ニ、我國運ノ進展ヲ期スルガ爲ニハ、特ニ産業貿易ノ振興ヲ圖ルコトガ緊要デアリマシテ、政府ニ於テモ、此ノ點ニ付テハ最モ意ヲ用ヒテ居ル所デアリマス。

抑稅關ノ職務ハ、關稅ノ徵收、稅關設備ノ管理、防疫、交通警察等頗ル多岐廣汎ニ涉リ、主要開港ニ於ケル港灣行政事務ノ大半ヲ占ムル關係上、其ノ執務方ノ如何ハ、當該開港ノ盛衰ニ係ハルノミナラズ、我國産業貿易ノ消長ニ影響スル所ガ決シテ少クナイノデアリマス。諸君ハ課

稅事務又ハ關稅警察事務ノ如キ、常ニ執行ノ嚴正公平ヲ旨トスベキモノニ付テモ、當該行政ノ目的ヲ害セザル限り、深ク一般ノ利便ヲモ考慮シ、且執務ノ敏活簡捷ヲ期セネバナラヌノデアリマスガ、港灣設備ノ管理並戻免稅及保稅地域制度ノ如キハ、主トシテ產業貿易ノ助長ヲ趣旨トスルモノデアリマスルカラ、之ガ運用ニ當ツテハ、常ニ一般ノ利便ヲ主眼トシ、以テ適實ナル執行ヲ講ズルノ要アルノミナラズ、設備及制度ノ改善方ニ付テモ、平素克ク攻究ヲ遂ゲ、進ンデ適當ノ施設ヲナシ、或ハ當局ニ獻策スル等、積極的措置ニ出デラレムコトヲ望ミマス。尙近來國際間ニ通商貿易ノ障除去等ニ關シ、論議セラルル所多ク、種々國際條約モ締結セラルル情況デアリマスルカラ、諸君ニ於カレテモ、宏ク内外ノ事情ヲ研究シテ常ニ執務ノ刷新改善ヲ圖リ、時代ノ要求ニ適應シテ以テ國運ノ發展ニ貢獻セラレムコトヲ冀望スル次第デアリマス。官紀ノ振肅ニ付テハ、機會アル毎ニ申述ベテ居ル次第デアリマスルガ、動モスレバ面白カラザル思想ノ瀰漫スルガ如キ傾向ノ觀取セラルル今日ノ社會狀態ニ於テハ、特ニ此ノ點ニ付注意ヲ要スルノデアリマス。諸君ハ常ニ實踐躬行、自ラ範ヲ示シテ黨督ノ任ニ膺リ、部下ヲシテ質實剛健ノ氣風ヲ養ハシムルト共ニ、能率ノ増進ヲ圖リ而モ一旦非違ノ所行アル者ニ對シテハ、斷乎タル處置ヲ講ジ、以テ嚴正ナル綱紀ノ維持ニ努メラレムコトヲ切ニ希望致シマス。會議ノ諮問事項ニ關シテハ、別ニ主稅局長ヨリ説明ヲ致サセマスガ、諸君ニ於カレテハ、剴切適實ナル意見ヲ披瀝セラレ、以テ稅關行政ノ改善ニ資セラレンコトヲ望ム次第デアリマス。

### 神戸稅關長答辭

稅關長一同ヲ代表シテ一言御挨拶ヲ申上ゲマス。本日大臣閣下ニハ吾々一同ヲ御召集ノ上親シク御懇篤ナル御訓示ヲ賜リマシテ、一同洵ニ感激ニ堪ヘザル次第デアリマス。惟フニ昨春ニ於ケル我國財界未曾有ノ混亂モ、閣下ノ非常ナル御苦心ト御努力トニ依リマシテ、漸ク安定ノ域ニ達シマシタコトハ國家ノ爲慶賀ニ堪ヘザル所デアリマス。又我が外國貿易モ昨年來著シク好調ニ向ヒ、國際貸借關係モ年ヲ逐フテ改善セラレツツアルコトハ是又國家ノ爲洵ニ御同慶ニ存ズル次第デアリマス。

吾々ノ職責ハ只今御訓示アリマシタ如ク、我が產業貿易ノ消長ニ重大ナル關係ヲ有シマスガ爲、稅關行政ニ付テ嚴正公平ナル執行ヲ爲スベキハ勿論、港灣利用者ノ利便、事務ノ簡捷及港灣ノ設備等ニ就テハ平素ヨリ深甚ノ注意研究ヲ怠ラヌノデアリマスルガ、今後ハ更ニ政府ノ産業立國ノ大方針ニ則リ、積極的ニ一層適切ナル方法ヲ講ズル爲努力センコトヲ期スル覺悟デアリマス。尙吾々ノ職務ハ海外ノ事情ニ精通スルノ必要アルハ言ヲ俟タザル所デアリマスルカラ、將來ハ稅關ノ職員ヲ海外ニ派遣シ視察セシムルコトニ御考慮ヲ煩ハシ度イノデアリマス。又港灣行政ノ統一ハ尙未ダ不徹底ナルモノアリ、港灣利用上不便尠クナイノデアリマス。此ノ點ニ付テモ十分御考慮ヲ仰ギ度イノデアリマス。

官紀ノ振肅ニ就キマシテハ御趣旨ノ存スル所ヲ十分ニ體得シ、實踐躬行範ヲ下僚ニ示シ、其

ノ弛廢ヲ未前ニ防止シ、仍テ以テ綱紀ノ維持伸張ヲ圖ラシメト期スル次第デアリマス。  
終ニ本會議ノ諮問事項ニ對シテハ腹藏ナキ卑見ヲ開陳致シマシテ折角御召集ノ趣旨ニ副ヒ  
度イ所存デアリマス。之ヲ以テ御挨拶ト致シマス。

### 主税局長挨拶

税關長會議ハ毎年四月若クハ五月ノ初メ開クヲ例トシテ居リマシタガ、今年ハ特別議會其  
ノ他事務上種々支障ガアリマシテ、少シク後レタ次第デアリマス。諮問事項ニ付キマシテハ既  
ニ夫々御研究ヲ願ツテアリマスルガ、簡單ニ其ノ要旨ヲ申シマス、第一ノ開港ノ利用増進ニ  
就キマシテハ經濟上、産業上慎重ニ攻究スベキ問題デアリマシテ、貿易ノ改善ト國際交通ノ發  
達ヲ圖ランガ爲ニハ斯ノ開港ノ利用ニ竣タネハナラヌデアリマシテ、先年港灣行政ノ一部  
ヲ統一スル爲、官制ノ改正ガ行ハレマシテ、港務部及植物検査所ノ事務ヲ税關ニ合一致サレマ  
シタノモ、事務ノ簡捷ト當業者ノ利便ヲ圖リ、以テ港灣ノ利用ヲ増進スルトイフ趣旨ニ外ナラ  
ナカツタノデアリマス。其ノ後諸君ノ御努力ニ依リマシテ、關係事務ガ圓滿ニ遂行セラレ、官制  
改正ノ趣旨ノ達成セラレツツアリマスルコトハ、御同慶ニ存ズル次第デアリマス。併シナガラ  
港灣行政ノ統一ニ付キマシテハ尙殘サレタ問題モアリ、統一スベキ方面モアリマシテ、官廳方  
面ニ於キマシテモ、又民間ニ於テモ港灣協會其ノ他種々ノ方面ニ於テ論議サレテ居リマスガ、  
要スルニ制度ハ其ノ運用ヲ人ニ竣ツノデアリマシテ、其ノ運用宜シキヲ得ナケレバナラヌノ  
デアリマスト共ニ物的方面ニ於キマシテモ、出來得ル限り各種ノ施設ヲ充實スルトイフコト  
ガ肝要デアルト思フノデアリマス。即チ今日ノ状態カラ見マシテ此ノ制度ノ方面ニ於キマシ  
テモ又人的物的ノ例カラ見マシテモ、幾多改善ヲ要スベキ方面ガアリマシヨウ、其ノ他取扱上

ニ就キマシテモ、諸君ノ事實上ノ御經驗ニ基キマシテ御意見ガアリマシヨウカラ腹藏ナク伺ヒ度イト思ヒマス。

次ニ贅澤品關稅ノ問題デアリマスガ、此ノ關稅ハ實施後既ニ數年ヲ經過シテ居リ、制定當時ト今日トハ各般ノ事情モ異ツテ居リマスルノデ、其ノ改廢トカ或ハ内容ニ就キマシテ改正ヲ加フル等相當考慮スル必要ガアリマスノデ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒ度イト思ヒマス。第三ノ貿易豫想ニ就キマシテハ諸君ガ實際貿易ノ衝ニ當ツテ居ラレル關係上、又各關特殊ノ事情ガアリマスルノデ、此ノ際御意見ヲ伺ツテ豫算編成上ノ參考ニ資シ度イト存ジマス。

尙今回ノ會議ハ三日ノ豫定デアリマスルガ、大藏省以外ニ打合ヲ要スルコトモアリマシヨウシ、切リ詰メタル時日ヲ以テ會議ヲ進メテ行キタイト思ヒマス、折角御精勵アラシコトヲ希望致シマス。

### 諮問事項

- 一、開港ノ利用増進方ニ關スル意見如何
- 二、贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律實施ノ狀況竝之ニ對スル意見如何
- 三、各關ニ於ケル本年ノ貿易豫想如何

## 答申要領

### 諮問第一

#### 横濱税關長答申

本諮問事項ハ之ヲ一般的ニ各開港ヲ通シテ觀レハ根本問題トシテ論スヘキモノ尠カラズ  
港灣行政ノ組織系統問題ノ如キ其ノ最タルモノタリ其ノ他群小港灣ノ建設主義ト重要港灣  
ノ改良主義何レヲ採ルヘキヤノ問題ノ如キハ政治上財政上重要ナル事項ト思惟ス  
然レトモ斯ノ如キ一般的事項ハ別トシ以下少シク横濱港及管内諸港ニ付キ設備ト運用ト  
ニ分チテ述フル所アラムトス

#### 第一海上設備

港灣ノ利用ヲ増進スル爲ニハ海上設備トシテハ船舶ノ航行、碇泊ノ安全ヲ保障シ得ルモ  
ノタラサルヘカラス今横濱港船舶出入ノ狀況ヲ觀ルニ第二期築港ノ完成シタル大正六年入  
港ノ外國貿易船ハ千貳百八拾參隻登簿噸數參百四拾五萬五千七百貳拾四噸ニシテ昭和二年  
ノ隻數貳千四百五拾八、噸數九百六拾五萬九千八百六ニ對シ隻數ニ於テ二倍、噸數ニ於テ二  
倍七ニ達シタルカ海上設備ニ於テハ其ノ當時ト今日トハ殆ト何等ノ差異ナシ元來横濱ハ最

終港ニシテ碇泊期間ノ長キモノ多數ヲ占メ在港船舶合ニ多キニ拘ハラズ收容力ハ之ニ伴ハ  
ス屢々港外ニ假泊スルノ已ムヲ得サルコトアリ少シク風波アルトキハ荷役不可能ニシテ又  
天候平穩ノトキト雖港外荷役ハ費用概シテ三割高トス船舶ノ修理ノ如キモ工費徒ニ嵩ムヲ  
以テ已ムヲ得ス他港ニ持越スコトアリ船主、貨主側ニ不便ヲ與フル而已ナラス繫船ノ指定  
其ノ他港内整理困難ヲ極ム

#### (1) 有効水面ノ擴張

依テ横濱港ノ利用ヲ増進スル爲ニハ先ツ港内ノ有効面積ヲ擴張スルコト必要ニシテ目  
下計劃中ノ大防波堤ヲ速ニ完成スルヲ要ス

#### (2) 水深ノ維持

港ノ生命ハ水深ニ關係スルコト勿論ニシテ其ノ深キ程理想的ナルモ之ヲ浚渫スルニハ  
巨額ノ經費ヲ要ス而シテ我國ニ來往スル我國内外船舶ハ「スエズ運河」バナム運河及揚子  
江ノ水深ニ左右セララルルニ依リ必要ナル水深ニハ自ラ限度アルモ横濱港ハ岸壁拾壹ヶ所  
ノ内第一號ハ拾六呎、六號、七號ハ貳拾五呎、八號ハ貳拾七呎、拾壹號ハ貳拾參呎、拾貳號ハ  
貳拾呎ニシテ明治三十八年既定水深ヨリモ貳呎乃至參呎餘ヲ減シ時代ノ要求ニ逆行シ居  
ル現狀ナリ貳拾參個ノ浮標中水深參拾呎ノモノ一、五個ハ貳拾四呎以下ニシテ錨地拾六  
（鶴見ヲ含ム）モ概シテ貳拾呎乃至貳拾四呎ナリ之カ爲著シク運用ヲ阻害シ官民共ニ苦痛  
トスル所ニシテ浚渫ハ急務トスル所ナルカ少クモ其ノ維持ハ絶エス之ヲ爲ス必要アリ港

内浮流ノ材木其ノ他ノ障害物ハ船舶ノ安全ヲ害シ又市内水路ヨリ吐出ス塵芥ハ港内ノ衛生状態ヲ脅カスモノナルヲ以テ開港ノ利用増進上絶エス掃海除却ヲ爲ス必要アリ而シテ之レカ爲ニ少ナカラサル經費ヲ要スルヲ以テ特ニ御考慮ヲ煩ハシタシ

(3) 安全ナル繫船浮標ノ必要

岸壁ヲ築造シテ船車連絡ノ設備ヲ完備スルコトハ時代ノ要求ニ應スル施設トシテ勿論必要ナレトモ我國ノ開港ニ於ケル貨物集散ハ今猶解荷役ヲ要スルコト多キヲ以テ浮標ノ完備ハ益々其ノ必要ヲ増加スル傾向アリ横濱港ニ出入スル航洋船ハ概シテ七千噸以上トス然ルニ貳拾參個ノ浮標中之等ノ船舶ヲ拾五米突ノ風ニ對シ安全ニ繫留シ得ルモノハ僅ニ七個ニ過キス其ノ他ハ何レモ錨ハ輕ク錨鎖ハ製造年月不詳ノ古物ニシテ支持力非常ニ弱ク船舶繫留中屢々危險ニ陥リシコトアリ依テ港ノ安全ト便益トヲ圖ル爲之レヲ修繕スルノ必要アリ尠クモ五個ハ事實取換ノ必要ニ迫ル

(4) 解舟及木材筏ノ整理

解舟ノ溜場ハ何レノ港ニ於テモ閉却セラル傾向アリ解沖荷役ヲ主トスル我國ニ於テハ當初ヨリ之レニ對スル設備ヲ忽ニスルヲ得サルカ殊ニ狹隘、繁劇ナル港ニ於テ然リトス横濱港ニ於テハ先年來問題トナリテ大岡川河口ニ之ヲ設ケタルモ完全ナル状態トハ言ヒ難シ材木大物ノ取扱ハ水面ヲ利用スルヲ便宜トスルハ勿論ナルカ横濱港ノ實況ニ依レハ大正五年ニ水卸シタル木材ノ量ハ百八拾萬石ニ過キサリシカ震災後俄ニ激増シ拾五年ニ

ハ四百萬石昨年ハ少シク下リテ參百八拾萬石今後ノ推定ハ四百萬石ヲ下ラサルヘシ然ルニ從來之ヲ收容スヘキ設備ナキ爲己ムヲ得ス港内ノ一部約五萬坪ヲ之ニ使用シ居ルカ一朝風波ノトキハ港内ニ散亂シテ船舶ノ航行碇泊ニ多大ノ障害ヲ來タセリ大正拾五年以來朝野之レカ設備ノ實現ニ努力中ナリ

(5) 航路標識ヲ完備スルコト

東京灣内ニ於ケル濃霧又ハ暗夜ノ爲展望ヲ妨ケラレ航海遲延又ハ海難ニ遭遇スル船舶尠カラス帝都ノ玄關タル横濱港ニ安全ニ出入シ得ル様東京灣口第一、第三海堡荒洲及本牧挂燈浮標ニ完全ナル霧笛ヲ設ケ子安浮標鶴見防波堤南方入口ノ浮標ニ完全ナル點燈裝置ノ必要アリ

(6) 曳船ノ修繕

第二陸上設備

(1) 陸上設備ノ現状

横濱港海陸連絡設備ニシテ震災復舊ニ係ルモノノ工事ハ既ニ豫定ノ八割方竣功ヲ告ケ即チ建物トシテ拾貳號上屋壹棟ノ改築煉瓦倉庫貳棟ノ補修工事及西波止場旅具検査場ヲ剩スノミ其ノ他ニ於テ今後施工スヘキモノハ主トシテ道路及鐵道工事ノ一部トス廳舎ノ新築及物揚場(上屋)ノ工事ハ至急著手スルニ至ラムコトヲ希望ス

(2) 物揚場ノ經營ニ付テ



物揚場ハ震災後(イ)號及(ハ)號ヲ除キ私設上屋ヲ經營セシメ居レルカ之ニ對スル今後ノ處置如何ハ考慮ヲ要スヘキ問題タリ之ト同時ニ稅關構内工作物建設ノ制限カ今日橫濱ノ實狀ニ適スルヤ否ヤモ慎重ニ考察スルヲ要ス

(3) 旅客設備

多數外人客ヲ招致スルコトハ國家經濟ノ消長ニ重大ナル關係ヲ有ス而シテ之ヲ爲スニハ入國第一步ニ好印象ヲ與フル様爲ササルヘカラス幸ヒ橫濱港ニ於テハ適當ナル設備ヲ有スルモ之ヲ十分ニ利用スルニハ尠カラサル經費ヲ要スルヲ以テ遺憾ノ點ナシトセス此點ニ關シテハ御考慮煩ハシ度シ

(4) 各種海陸連絡設備ノ維持

設備ノ大部分ハ既ニ竣功シ之ヲ利用シ居ルモ今後其ノ運用及維持ニ多額ノ經費ヲ要スルコトヲ覺悟セサルヘカラス運用費ハ勿論修繕費ノ如キモ年々一定ノ計劃ノ下ニ漸次全般ニ及ボス様致シタキモノナリ今其ノ重ナルモノヲ擧レハ

- (イ) 岸壁及棧橋ノ「ガーダー」ヲ修繕 三年毎ニ塗替ヲ要スルコトハ施工者タル内務省土木出張所ヨリ屢々注意アリ
- (ロ) 防舷材ノ修繕 浸蝕甚タシク其ノ用ニ堪ヘサルモノ尠カラズ猶將來ノ施設ニ付テハ經驗上防舷材ノ取付ニ付キ研究ヲ要スル點アリ
- (ハ) 上屋ノ修繕 鐵造上屋ハ三年毎ニ塗替ヲ必要トス上屋雨漏ニ付テハ遺憾ノ次第ナ

ルカ目下技術者ヲシテ防止方法ヲ講セシメ居レリ

- (ニ) 自動起重機ノ運用費 使用上便利ナルト共ニ其ノ運用修繕ニ尠カラサル經費ヲ要ス

(5) 第三期擴張工事

内務省ニ於テ施工ニ係ル該埋立地ハ略ホ完成セリ引續キ相當陸上設備ヲ爲ス必要アリ其ノ利用開始セラルル曉混雜セル橫濱港内ノ整理及隔地發送貨物ハ多大ノ便宜ヲ得ルニ至ラン

第三設備ノ運用

(1) 海陸運送業者、ステヴェ、船業者等ノ取締方法ヲ講スルコト

本件ハ何レノ港ニ於テモ必要ト考ヘラルルモ殊ニ橫濱港ニ於テハ群小多數ノ海陸運送業者等アリ運賃ハ概シテ高ク又競争ニ依リ安キ場合ニモ薄資、不信用ノ者多ク又信用アルランデングエーゼント間ノ協定ノ如キモ不當ナルモノナキニアラス

就中岸壁荷役賃ト沖荷役賃ト同一ナル如キハ岸壁ノ効用ヲ一沒却スルモノナリ又多數ノ船本船ニ密集シ貨物ノ奪合ヲ爲スカ如キハ關稅取締上及港内整理上不都合トスル所ナリ之等ヲ特許業トシテ稅關ニ監督權ヲ有スルコトトナレハ自ラ淘汰セラレテ少數ノ信用アル組織ノモノト爲シ得ヘク從來開港場ニ於テ最モ不統制ナリシ此種業體ノ情弊除去セラレ合理化セラルルコトト信ス

(2) 港灣利用調査會ヲ設クルコト

事實上税關ハ開港ノ管理經營者ニシテ其施設ノ適否ハ關係スル所大ナルノミナラス内務省ノ所管タル港灣工事ニ付テモ税關當局ノ意見ハ重キヲ爲ササルヘカラス之ヲ以テ税關ハ常ニ細密ノ調査研究ヲ爲スヲ要スト雖船舶貨物ノ取扱及之ニ對スル施設ノ適否ハ實際的智識ニ俟タサルヘカラサルモノアルヲ以テ實際家ノ意見ヲ聽取シ之ヲ參考トスルノ便宜ヲ得ムトスル所以ナリ

(3) 支署長ニ高等官ヲ増置スルコト

比較的大ナル開港又ハ發達ノ著シキ開港ニ於テハ高等官ヲ以テ支署長ニ充テ地方開發設備ノ利用、増進ニ資セラルル様致シタシ管内ニ於テハ清水ハ貿易參千萬圓ヲ超ユルノミナラス現ニ將來ノ發達ニ應スル爲其ノ設備ヲ擴張シツツアリ又新潟港ハ貿易額ニ於テハ巨額ト言フヲ得サルモ港灣修築工事並海陸連絡設備完成シ其ノ利用ニ對シ相當計劃ヲ有スルモノアリ且ツ五港ノ一トモ數ヘラルル處ナルヲ以テ其ノ地位ヲ向上セシムルノ必要アリト信ス支署廳舍モ近ク移築計劃アリ

尙鶴見ニ於テハ近來入港船多キヲ以テ税關出張所ヲ設クルノ要アリ御考慮ヲ乞フ

(4) 内國貨物集散狀況ノ調査

開港ニ於テハ内國貿易ヲ閉却スルノ傾アルモ開港ノ利用上並産業狀態調査上此ノ種貨物ノ集散狀態ヲ知ルノ必要アリト思惟ス仍テ内國貨物ノ統計ヲトリタシ

横濱税關長

税關構内取締ノ爲入場券ヲ發行シテハ如何

主税局長

無用者ノ出入ヲ禁スルカ爲ニハ一方法ナランモ料金ヲ成ルヘク小額ニスル等實行上考慮ヲ要スル點アルヘシ

神戸税關長答申

由來領土狹少ニシテ天然資源ニ乏シク而モ四面環ラスニ海ヲ以テスル我邦ニ於テ産業貿易ノ振興發展ヲ圖ラントセハ一ニ海陸交通ノ關門タル開港ノ利用ヲ増進シ其ノ機能ヲ發揮シ開港本來ノ任務ヲ達成セシムルノ方途ヲ講センコト實ニ刻下ノ一大急務ナリト謂ハサルヘカラス

宜ナル哉近時朝野ヲ擧ケテ港灣政策ノ確立及港灣利用ノ増進ニ銳意努力シ今ヤ到ル所著著設備ノ充實ヲ見能ク白熱的世界商業戰ノ前線ニ伍シテ雄飛シ得ルノ良港灣ヲ加ヘツツアルコトハ實ニ幸慶ニ堪エサル所ナリ

然レトモ具ニ開港利用ノ現況ヲ顧ルトキ開港ヲシテ能ク其ノ本然ノ機能ヲ發顯シ之カ利用上間然スルナキノ域ニ到達セシメンニハ猶積極的施設改善ヲ要スト認ムヘキモノ多々伏

在スルヲ惟ハサルヘカラス唯等シク開港ト稱スルモ各自夫々特異ノ事情ヲ存シ從テ其ノ之ニ對スル利用ノ方法ヲ求メンカ固ヨリ各様各體ニシテ頗ル多岐ニ渉ルヘシト雖茲ニハ主トシテ廣ク開港利用上ノ共通問題ニシテ特ニ考慮ヲ要スト認ムル諸事項ヲ便宜左ノ項目ニ大別シ卑見ヲ開陳セント欲ス

- 一、開港設備ニ關スル事項
  - 二、開港諸費ニ關スル事項
  - 三、開港行政ニ關スル事項
  - 四、貿易助長ニ關スル事項
- (一) 開港設備ニ關スル事項

開港設備ニ關シテハ昨年稅關長事務打合せニ於テ相當論議セラレタル所ナリト雖設備ノ充實完備カ開港利用ノ第一義的要件タル以上其ノ攻究ハ須臾モ之ヲ忽緒ニ附スヘカラサルヲ以テ茲ニ重ネテ其ノ概說ヲ贅スル所アラントス即チ

- イ、船舶ニ關スル設備
  - ロ、貨物ニ關スル設備
  - ハ、旅客ニ關スル設備
- ニ區分考察スルニ

イ、船舶ニ關スル設備

臺灣ノ第一要素カシテ即チ港内ノ安全ニ存スル以上其ノ設備ハ先ツ船舶ニ關スルモノヲ完備スルヲ以テ出

發點トスヘク而シテ現在我國大多數ノ開港ニ於テ此ノ種設備上重ナル共通缺陷ト目セラレル點ハ

1. 船用炭船用油其ノ他船用品ノ貯藏及供給設備ノ不備ナルコト  
(例ヘハ重油貯藏船又ハ冷藏船ノ如キ保稅船ノ設ケナキコト)
2. 給水設備ノ完備セサルコト
3. 船陸通信設備ノ不完全ナルコト
4. 岸壁又ハ浮標ノ設備不充分ナルコト
5. 危險品搭載船舶ニ對シ安全ナル荷役場所ナキコト
6. 全ク曳船ヲ缺クカ又ハ其ノ數不足ナルコト
7. 防波堤設備ノ不完全ナルコト
8. 水路投錨區域等港内水深維持上ノ浚渫設備整ハサルコト
9. 艀船溜其ノ他艀船及小蒸汽船ニ對スル設備ノ輕視セラレ居ルコト
10. 塵船ノ供給圓滑ナラサルコト
11. 船員ノ慰安娛樂設備例ヘハ海員寄宿所、海員俱樂部、海員病院旅館、料理店、劇場等ノ見ルニ足ルモノナキコト

右ハ神戸港ノ如キ第一流ノ開港ニ於テスラ屢々當業者ヨリ其ノ不便苦痛ヲ慄フル所ナルカ此等ハ關係各方面ト協議レ適當ノ方法ヲ以テ速ニ之カ解決ヲ講スヘキ喫緊事ナリト信ス

ロ、貨物ニ關スル設備

貨物ハ實ニ臺灣ノ血液ニシテ其ノ生命ハ之カ吞吐ニ依リテ維持セラルト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘク畢竟臺灣設備ハ貨物ニ關スル設備ヲ以テ主位ト爲スヘレ從テ開港ニ於ケル各種貨物ノ荷役、荷捌及保管ニ必要且適

當ナル設備ヲ有スルコトハ開港利用増進上ノ根本條件ニシテ此ノ點ニ於テハ我邦開港中其ノ設備比較的完備レ  
タリト目セラルル神戸港ニ於テスラ改善ヲ要スヘキ幾多ノ缺陷ヲ有スルモノニシテ今右ニ關シ考慮ヲ用フヘキ  
主要事項ヲ例示セハ

1. 特種倉庫即チ危險品倉庫、冷蔵庫、散積品倉庫ノ設備極メテ不十分ナルコト
2. 重量貨物ノ積卸設備殆ト備ハラサルコト
3. 官設上屋及倉庫ニ於テハ防火及消防設備著シク不完全ナルコト
4. 官設上屋及倉庫内ニ於ケル機械設備全ク備ハラサルコト
5. 突堤及物揚場起重機ノ能率貧弱ナルコト
6. 竹木筏收容ニ適當ナル設備ヲ有セサルコト
7. 簡單ナル加工作業上必要ナル動力及機械設備ヲ備フル保税工場ナキコト
8. 陸揚貨物ノ解積設備等ノ等閑視セラレ居ルコト
9. 收容倉庫ノ設備不完全ナルコト
10. 鐵道小口扱貨物ノ取扱設備不便ナルコト

等ト爲スヘク而シテ開港ノ貨物設備ハ其ノ管理經營ノ主體或ハ國ナルアリ地方自治團體ナルアリ會社又ハ個人  
ナルアリ而モ其ノ榮營ハ相當巨額ノ經費ヲ要スルヲ以テ貨物設備充實ノ事固ヨリ容易ナラストスルモ尠クトモ  
各開港ノ特殊相ニ適應シ的確ナル計劃ノ下ニ將來設備ノ新設改造ヲ行フヲ以テ肝要ト爲スヘク神戸港ノ如ク既  
ニ相當大規模ナル官設貨物設備ヲ有シ而モ其ノ利用カ今日殆ト飽和點ニ達セル一方之カ維持修繕ニ尠カラサル  
經費ヲ支出シテツアル狀況ニ在ル開港ニ於テハ向後貨物設備ノ一部ハ專ラ之ヲ民間會社ニ委シテ適當ナル施設  
ヲ爲サシムスヲ以テ却ツテ利用上ノ圓滑ヲ期スルヲ得ヘシトノ見解ヲ生スルニ至ルモ怪ムニ足ラサルヘク貨物

設備ノ經營方針ニ關シテハ開港ノ實勢ニ照シ慎重決定ヲ要スヘキコト言フ俟タサル所ナルヘシ

#### ハ、旅客ニ關スル設備

旅客ニ關スル設備ハ一二開港ヲ除キ殆ト閉セラレ居ルノ觀アリ開港カ外國往來旅客ノ發著所タル點ヨリ見  
特ニ近時大規模ノ觀光團ノ寄港スルモノ連リニシテ今後愈々國際交通ノ繁劇ヲ加ヘ來ルノ傾向ニ鑑ミ適當ナル  
旅客設備ヲ爲サンコトハ開港利用増進上ノ一要諦タルヲ失ハス  
今神戸港ヲ目標トシ旅客設備トシテ必要ト認ムヘキ諸事項ヲ列示セハ左ノ如シ

1. 旅客ノ本船乗降及船車連絡ヲ完全ナラシムルコト
2. 旅具検査設備ヲ完備スルコト
3. 旅客案内ノ諸設備ヲ便利ナラシムルコト
4. 旅客携帶品及旅具ノ保管設備ヲ完全ナラシムルコト
5. 旅客及送迎客ノ待合設備ヲ完備スルコト
6. 信用アル兩替機關ヲ税關構内ニ設クルコト
7. 税關構内ニ於ケル公衆電信電話設備ヲ増加スルコト
8. 税關構内ニ郵便電信局ヲ設クルコト
9. 通船設備ヲ充分ナラシムルコト
10. 旅館設備ヲ完備スルコト

#### (二) 開港諸費ニ關スル事項

開港利用者ノ負擔ヲ輕減シ之カ合理的統制ヲ爲サンコトハ開港利用促進上最モ喫緊事項ナルコト固ヨリ多言ヲ須  
ヒス

港灣諸費ノ問題ハ之ヲ港灣利用者タル船舶貨物及旅客ノ三者ニ關スルモノニ區分觀察スルヲ便トスヘク而テ諸費ノ中(1)法規ニ基キ所定額ノ納付ヲ強制セラルルモノト(2)設備若ハ勞務提供者ニ於テ料率ニツキ當該官廳ノ認可ヲ要スヘキモノト(3)全ク當事者間ノ自由協定ニ基クモノトノ別アルヲ以テ此ノ點ニ於テモ統制ノ方法ヲ異ニスルヲ要スヘシト雖差當リ右ノ中(2)及(3)ニ就テハ左記ニ依リ可成諸費ノ低減ヲ圖リ以テ輸出入貨物ノ原價ニ有利ナル影響ヲ及ボシシメシコトヲ期スルヲ要アリ

- イ、當業者ヲシテ自制的ニ低減ヲ圖ラシムル途ヲ講スルコト
- ロ、税關長ノ認可ニハ一層調査ヲ嚴密ニスルコト
- ハ、税關長ハ當時之ニ關スル各般ノ攻究調査ヲ爲スコト

### (三) 開港行政ニ關スル事項

港灣就中開港内ニハ各種行政ノ客體混在シ而モ同一客體ニシテ諸般行政ノ對象タルモノ多ク所謂開港行政ハ異種系統ノ事務交錯接觸シ其ノ執行上ノ不便ハ當務者及民間共ニ甚シク苦痛ヲ感シツツアル所ナリ其ノ然ル所以ハ一ニシテ足ラズト雖

- A. 關係諸法規ノ不統一
- B. 管理組織ノ不統一

ニ大別スルヲ得ヘク從テ港灣行政ノ統一ハ此ノ二者ヲ對象トシテ其ノ根本方針ノ樹立ニ努メサルヘカラス夫ノ大正十三年末ニ於ケル税關官制ノ改正ハ著シク如上ノ支障ヲ緩和シ得タリト雖而モ猶現狀ヲ以テシテハ開港行政事務ノ運用上圓滑ヲ缺クノ甚キモノ多キヲ憾ム此ノ點ニ關シテハ近時港灣協會等ノ頻リニ策動スルアリト雖其ノ主張スル所ノ如キハ固ヨリ國家産業貿易政策ノ上ヨリ見テ輕キニ斷スルヲ容ササルノ大問題ニシテ且又今日ニ於ケル港灣ノ實情ヲ無視シ徒ニ形式ノ末ニ拘泥シテ必要ノ程度ヲ逸脱セントスルカ如ク到底實行シ得ヘキニ非ス

港灣行政ノ統一ニ就テハ屢次各關ヨリ意見ノ上申セラレ常ニ考慮ヲ進メラレツツアリトハ信スルモ先ツ諸多ノ事情ニ鑑ミ比較的可能性アルモノヨリ始メテ逐次税關本位ニ其ノ整理統一ヲ圖ランコトハ開港利用増進上喫緊ノ事ナリト信ス

今其ノ比較的急務ヲ要スト認メラルルモノヲ例示セハ左ノ如シ

1. 法令ニ關スルモノ
  - イ、開港港則ハ三十餘年前ノ制定ニ係リ現時ノ港務行政ニ適セサルノ條項頗ル多キヲ以テ之ヲ改正シ尙開港港則未施行ノ開港中重要ナルモノニ對シ速ニ之ヲ實施スルコトトシ港務檢疫等ノ事務ヲ税關港務部ニ移管スルコト
  - ロ、税關官制中府縣港務部當時ノ組織ヲ踏襲シ來レルモノニシテ官職名、權限、待遇等安當ナラサルモノアリ此ノ際一般のニ税關官制並其ノ分課ヲ整理統一スルコト(昭和三年二月二十六日神發第四二六號稅關分課規程ノ改正方ニ對スル當國提出意見参照)
  - 2. 行政組織ニ關スルモノ
    - イ、港内行政警察事務ニ就テ税關港務部ト府縣警察部トノ分擔ヲ明確ナラシムルコト
    - ロ、食肉輸入手續ヲ税關ニ統一スルコト
    - ハ、税關港務部官吏ヲシテ燈臺局職員ヲ兼ネシメ港内航路標識ノ管理ヲ掌ラシムルコト

### (四) 貿易助長ニ關スル事項

開港ノ利用増進ニ對スル根本要素カ外國貿易ノ進展ニ在ルコト言フヲ俟タサル所ニシテ之カ助長ニ關スル卑見ヲ逐一述フルコトハ事ノ範圍餘リニ廣汎ニレテ容易ニ盡スコト能ハス且大正十二年ノ税關長會議ニ於テ本問題ニ關スル答申アリタルヲ以テ茲ニ再說ヲ省キ

1. 保税工場ノ趣旨ヲ宣傳シ其ノ利用ヲ更ニ圓滑ナラシムルコト

2. 輸出戻免稅制度ノ利用ヲ促進スルコト
  3. 輸入取締品ヲ植物專賣品等ノ爲メ特別倉庫ヲ指定シ其ノ仲繼ニ便ナラシムルコト
  4. 通關検査ヲ敏捷ナラシムルコト
  5. 輸出貨物通關手續ヲ取扱フニハ稅關貨物取扱人ヲ免許ヲ要セサルコト
  6. 稅關執務時間ヲ延長スルコト
- 等ハ我カ稅關事務ノ範圍内ニ屬スルヲ以テ關係法規ノ改正ト相俟テ比較的實行容易ナル助成方法ナリト思料ス  
就中執務時間ニ就テハ朝九時出勤ヲ一時間早メ晝飯休憩時ヲ交替ニスル等實行容易ナルヘシ

橫濱稅關長

朝一時間早メ退廳時ヲ一時間繰上ケテハ如何

主稅局長

勤務時間ノ改正ハ影響スル處廣カルヘシ各關一致ノ希望ナラハ考慮スヘキモ之カ爲關係官廳及民間業者ノ意嚮ヲ確ムルノ要アルヘシ現在ノ勤務時間ニテ一般業者側ニ不便ヲ感スルモノアリトセハソハ現行ノ時間ヲ勵行スルコト即朝ハ所定時間ヨリ執務シ得ルヤウ吏員ヲ督勵セハ其ノ不便ヲ緩和シ得ルヤウ思惟スルカ如何

大阪稅關長

稅關ニテ主動的ニ之カ改正ヲ爲ス必要ナカルヘシ一般會社就中銀行業者等稅關關係機關ニテツノ必要ヲ認メ且民間業者間ニ之カ改正ヲ必要トスル事情發生セサル限り之ヲ改正ス

ルノ要ナキモノト認ム

大阪稅關長答申

本問ハ其ノ内容極メテ複雜多岐ニ互レルモ畢竟開港ノ外國貿易上ニ於ケル機能ヲ増進發揮セシムル方策如何ヲ要綱トシテ諮問セラレタルモノナルヘク、從テ此ノ趣旨ニ於テ簡明ニ卑見ヲ陳述セムトス。

大阪稅關管内ノ開港ハ表日本方面ニ於テハ大阪、名古屋、四日市及武豐ノ四港、裏日本方面ニ於テハ敦賀、七尾、伏木及宮津ノ四港ナルカ此等諸港ノ開港トシテノ利用狀況ハ固ヨリ同日ノ談ニ非ス。昭和元年ニ於ケル大阪港ノ外國貿易額ハ六億九千九百萬圓ナルカ、宮津港ノ貿易額ハ其ノ千分ノ一ニモ足ラサル六拾九萬四千圓ナリ。又外國貿易額ト內國貿易額トノ比率ヲ見ルモ宮津、七尾及伏木ノ諸港ニ在リテハ貿易總額ノ九割以上ハ內國貿易額ナルニ、大阪及敦賀ノ二港ニ在リテハ其ノ約三割、武豐、名古屋及四日市ノ諸港ニ在リテハ其ノ約半額ハ外國貿易ノ占ムル所ナリ。又大阪港ハ開港トシテ六十年ノ歴史ヲ閱シタルニ拘ラズ名古屋港ハ僅ニ二十年ノ沿革ヲ有スルニ過キスシテ其ノ間ニ於ケル盛衰ノ狀況亦一ナラス。更ニ外國貿易ニ關スル輓近ノ趨勢ヲ見ルニ大阪港ノ躍進的發展ハ敢テ贅セス。四日市及武豐ノ兩港ニ漸衰ノ兆アルト共ニ名古屋港ニ鬱然タル新興ノ勢アリ。尾大振ハサル敦賀港ヲ睥睨シテ新進侮ルヘカラサル七尾港及伏木港等ノ擡頭セルアリ。十人十色、一言以テ蓋フ

ヘカラサル所ニ開港利用狀況ノ特色アリトスヘキカ如シ。

惟フニ開港ノ利用増進方ニ關シテハ之ヲ諸般ノ方面ヨリ考究スルヲ要スヘク、或ハ開港ノ開設及閉鎖等ヲ策セムトスル開港政策上ノ問題モアルヘク又ハ現存セル個々ノ開港ヲ對象トシテ其ノ設備、制度及行政事項等ヲ整備改善シ以テ其ノ利用増進ヲ圖ラムトスル方面モ存スヘク、畢竟本間ハ(一)開港政策(二)開港設備(三)開港制度及(四)開港行政等ノ各般ノ事項ニ跨リ其ノ關スル所極メテ廣汎ナルカ、茲ニハ主トシテ税關行政ノ見地ヨリシテ右ノ諸事項ニ關シ考察スルニ止メムトス。

(一) 開港政策上ノ問題

開港政策上開港ノ集中即チ開港ノ整理ヲ方針トスヘキヤ否ヤハ容易ニ斷定シ難シト雖左ノ如キ諸點ハ特ニ考慮ノ要アルヘシト思料セラル。

(イ) 開港閉鎖ニ關スル貿易價額ノ制限額ヲ相當程度ニ引上ケ開港ノ整理ヲ爲スハ内國貿易ト外國貿易トノ分業ヲ圖ル所以ナルト共ニ開港ノ利用増進ヲ策スル方途ナルコト

(ロ) 特定ノ港ニ關シ不開港出入ノ常例の特許ヲ與フルカ如キハ一種ノ開港開設ト目スヘキモノナルヲ以テ此ノ種事項ニ付テハ開港政策ノ根本ニ觸レテ其ノ方針ヲ一定スヘキコト

(ハ) 特定ノ港ヲ既ニ開港トシテ指定シタル以上ハ檢疫其ノ他ノ事項ニ關シテモ充分ノ

機能ヲ發揮セシムルコト

(二) 開港設備上ノ問題

茲ニ所謂「開港設備」トハ防波堤、航路、水深、棧橋、繫船岸壁及繫船浮標等ノ泊船設備、起重機其ノ他ノ荷役設備、軌道、鐵道、上屋及倉庫等ノ海陸連絡設備其ノ他開港ノ利用ニ必要ナル一切ノ設備ヲ指稱スルモノニシテ換言スレハ開港ノ物的方面ニ外ナラス。而シテ開港利用増進策ノ最重要ナル方面ハ此等物的設備ノ完成ヲ圖リ以テ其ノ能率ヲ増進スルニ在ルヘシト雖、大阪税關管内ニ於テハ税關所管ニ屬スル物的設備トシテハ殆ント擧クヘキモノナク、此ノ點ニ付テハ大阪税關ハ第三者タルノ觀ヲ呈スルノミナラス此等廣汎ナル物的設備上ノ問題ニ付意見ヲ陳述スルコトハ其ノ所ニ非スト信スルヲ以テ、茲ニハ唯設備問題ニ關聯シテ考慮ノ要アリト認ムヘキ左ノ諸項ヲ擧示スルコトトセリ。

(イ) 開港ノ利用増進ハ開港ノ外國貿易上ニ於ケル能率ヲ増進スルニ外ナラサルヲ以テ其ノ物的設備方面ニ在リテモ外國貿易の見地ヨリシテ之ヲ統制スルノ要アルヘキコト言フ俟タス。從テ其ノ一端トシテ開港ノ修築ニ關シ設ケラルヘキ調査委員會等ニハ總テ所轄税關長ヲ參與セシムヘキハ當然ノ事理ナルノミナラス進ムテ開港設備ノ管理及利用等ニ關スル方面ニ於テモ外國貿易上ノ見地ヲ代表スル所轄税關長ヲ關與セシムルノ要アリト認ム。

(ロ) 開港ノ利用ニ必要ナル地域ヲ「開港地域」トシテ一定ノ法律上ノ性質ヲ帶ハシムルコトハ開港ノ利用増進上必要ノ措置ト認ム。但シ「開港地域」ナル觀念ハ市街地建築物法ニ依リ認ムヘキ地域又ハ所謂港灣法案中ノ「臨港地域」トシテ認ムルハ妥當ナラス。寧ロ現在ノ「保稅地域」ノ觀念ニ類似スルモノトシテ關稅法中ニ規定スルヲ可トス。

(ハ) 繫船浮標ハ開港港則ノ施行セラルル開港ニ在リテハ稅關ヲシテ設備管理セシムルヲ開港ノ利用増進上必要ト認ム。

### (三) 開港制度上ノ問題

茲ニ所謂開港制度トハ開港ノ修築、經營及管理等ニ關スル制度ヲ指稱スルモノナルカ、開港ニ關スル工事ノ施行、經費ノ支辨及開港設備ノ利用ニ伴フ使用料ノ決定及徵收等ニ關スル現在ノ制度ニ關シテハ開港ノ利用増進上改善スヘキ事項多々アルヘキモ此等事項ハ複雜ナル沿革ト利害關係ト有スルモノナルカ故ニ結局現在ノ制度ヲ基礎トシテ漸ヲ逐フテ統一的制度ノ樹立ニ努ムルノ外ナカルヘク、之ニ關シ左記ノ點ハ特ニ考慮ノ要アリト認ム。

(イ) 重要ナル開港ニ關シテハ總テ國費國營ノ方針ニ出ツヘキコト

(ロ) 國費國營港ニ非サル開港ニ在リテモ開港ノ公共的利用ニ重要ナル關係ヲ有スル管理事項ハ漸次外國貿易所管廳ニ移管セシムルコト

### (四) 開港行政上ノ問題

開港ニ關聯スル行政事務ハ關稅行政、港務行政、海事行政及警察行政等極メテ廣汎ナル範圍ニ互リ各々獨自ノ立場ヲ有スルモノナルカ、就中稅關ノ管掌ニ屬スル行政事務ニ關シ考慮ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ。

(イ) 開港ニ關聯スル稅關所管ノ行政事務ハ總テ其ノ「設備」ヲ基礎トスルモノナリ、從テ例ヘハ「稅關構内」ヲ有セスシテ關稅行政ノ充分ナル執行ヲ期スルコト難カルヘク又「繫船浮標」ヲ有セスシテ港務行政ノ實效アル運用ヲ望ムコト難カルヘク更ニ又「檢疫船」及「消毒船」等ノ充分ナル設備ナクシテ檢疫行政ノ完全ナル施行ヲ欲スルコト亦難カルヘシ。開港ノ利用増進ノ爲此等行政事務ノ改善ヲ期セムトセハ常ニ其ノ物的設備ノ方面ヲ考慮セサルヲ得ス。

(ロ) 開港ニ關聯スル諸般ノ行政事務ノ連絡統一ヲ圖ルコトハ所謂港灣行政問題ノ直面スル所ニシテ大正十三年以來稅關ヲ中心機關トシテ實行セラレツツアルカ今後ニ於テモ亦港灣利用者側ノ實際的要求ニ順應スルト共ニ行政事務ノ能率ヲ増進スル爲緩急ヲ愆ラス實行ノ歩ヲ進ムルノ必要アリト認ム。

### 長崎稅關長答申

一、開港ヲ利用スヘキ各種ノ産業貿易ノ振興ニ努ムルコト



開稅行政カ徵稅技術乃至關稅取締ノ消極的方面ニノミ拘泥スルハ非ナリ内國ノ産業、貿易ノ趨勢、海外ノ商況ニ對シ積極的ニ研究ノ歩ヲ進メ資力乏シキ中流以下ノ商工業者カ斯業發展ニ資スヘキ指導的方策ヲ實行スルコトハ目下ノ急務ナリ大藏省カ内國稅ノ方面ニ於テ稅源涵養ノ趣旨ヲ以テスルト同様ノ手段ヲ以テ開港利用ノ基調ヲナス貿易ノ振興ヲ企劃スルハ不能ニアラサルヘシ

一、港灣行政ノ擴充ヲ完フスルコト

稅關カ港務部、植物檢査課ヲ合併シ港灣行政統一ノ體裁ヲ備フト雖モ更ニ範圍ノ擴大ヲ要スヘキモノアリ適當ノ機會ニ之ヲ實行スルコトハ開港利用者ノ利便ヲ増進スルコト更ニ大ナルモノアルヘシ又港灣行政統一ノ第一義ハ港灣各關係機關ヲ合併集合セシムルニアラスシテ融和合體セル一ツノ有機體ヲラシムルニアリ乃稅關ノ内容ヲ充實スル意味ニ於テ關係法規ノ整理、各種手續ノ簡易化等幾多ノ改善刷新ヲ爲スヘキナリ

一、外國貿易設備ハ沿岸貿易ニモ出來ルタケ利用セシムルコト

稅關ハ外國貿易、貿易貨物本位ノ施設ヲ行フニ急ニシテ内國貿易乃至内國貨物ヲ輕視シ開港ノ利用上甚ダシク差別待遇ヲ與フルモノアリ然共外國貨物ト謂ヒ内國貨物ト謂フモ當業者ノ立場ニ於テハ單一ナル商品ノ異名ニ過キス全部ノ沿岸貿易船ヲ管理スル港灣行政統一後ノ稅關カ内國貿易助長ノ方策ヲ講スルハ畢竟開港ノ能率ヲ増進スルモノニ外ナラス例ヘハ外國貿易地帯ニ施設セラレタル岸壁ヲ重要ナル沿岸航路船ニモ利用セ

シムルコト外國貿易ニ妨ケナキ範圍ニ於テ倉庫上屋起重機等ヲ使用セシムルカ如シ

一、稅關設備ノ各種ノ使用料手数料ハ使用價值ニ應シテ定ムルコト

現今ノ使用料手数料ハ形式的杓子定規ニ過ク例ヘハ坪當地價數千圓以上スヘキ神戸橫濱稅關構内ノ土地建物使用料カ其ノ賃貸價格ニモ相當セサル他關保稅地域ノ使用料ト同一ナルカ如シ

一、開港ニ於ケル荷役、海陸小運送ノ管理ヲ行フコト

荷役料、海陸小運送費ノ低下ハ港ノ利用上至大ノ關係ヲ有ス鐵道省カ運輸當業者ニ對シ積極的改善ヲ加ヘツツアルト同意義ノ管理ヲ行フコトハ特ニ必要ナリト認ム

一、輸出貨物ニシテ稅關竝ニ他官廳ヨリ二重ノ檢査、許可ヲ受クルモノノ中稅關構内ニ施設スルノ結果場所、時間、失費等ノ點ニ於テ當業者ノ負擔ヲ輕減シ得ルモノハ進ンテ利用セシメ得ル方法ヲ採ルコト

門司稅關長答申

開港ノ利用増進ハ 一、港灣設備ノ完備及利用方 二、諸手續ノ簡易化及統一 三、諸掛費ノ輕減ニアルハ言フ俟タズ茲ニ當港ノ實際ニ考ヘ其ノ緊切ナル事項ヲ述フヘシ

一、港灣設備ノ完備及利用方

(一) 港灣設備

- イ、燈臺、挂燈浮標、立標等ノ航路標識ヲ完備スルコト
- ロ、關門地方ノ潮流風位觀測機關ヲ設クルコト
- ハ、上屋屋上ニ倉庫(ストレージ、セツド)ヲ設クルコト
- ニ、上屋及倉庫内ニ使用セラルル「トヲクター」手車其他運搬具ヲ統一スルコト
- ホ、背後地域トノ交通機關ヲ完備シ之トノ連絡ヲ圓滑ニスルコト特ニ各工場トノ連絡及貨物自動車ニ依ル連絡ヲ計ルコト
- ヘ、舢船ノ改良及舢船溜ノ改善ヲ計ルコト
- ト、無軌道「クレーン」ヲ使用スルコト
- チ、燃料(炭、油)給水供給設備ヲ完備スルコト
- リ、冷藏貨物、礦油、鑽石、散穀、棉花等ノ如キ特殊貨物ニ對スル陸揚及藏置設備ヲナスコト
- ヌ、旅客交通ニ關スル設備ヲナスコト特ニ移民、三等船客等ニ對スル施設ニ意ヲ用ユルコト
- ル、海陸無線電話ノ普及ヲ計ルコト
- ヲ、瓦斯船ヲ増配スルコト
- ワ、船具供給船ヲ發達セシムルコト
- カ、内航船ノ爲ニ泊地及繫船岸壁ノ設定竝ニ内國貨物ノ荷捌設備ヲ完備スルコト

(二) 利用方

- ヨ、危險物搭載船及帆行舢船ノ取締ヲ勵行スルコト
- タ、海員「ホーム」ノ設立ヲ促スコト
- レ、「ホテル」、公園、病院、遊覽地ヲ改善シ以テ港灣都市ノ文化設備ヲナスコト
- イ、繫船浮標及繫船岸壁ノ豫約ヲナスコト
- ロ、入出港船ノ豫報及碇泊船ノ位置等ヲ天氣豫報及暴風雨豫報ト共ニ公示スルコト
- ハ、上屋内ニ於テ單純ナル保存行爲ヲ認ムルコト
- ニ、上屋ノ状態ニ應シ收容期日ヲ短縮又ハ延長スルコト
- ホ、差支ナキ限リ内航船及内國貨物ニ對シ税關諸設備ヲ利用セシムルノ途ヲ講スルコト
- ヘ、港灣設備ノ宣傳ヲナスコト

二、諸手續ノ簡易化及統一

- 税關諸手續ニ付テハ銳意之カ簡捷ヲ計リ來レルモ尙他ニ幾多ノ管海官廳アリテ諸手續ノ簡易化普カラサルヲ以テ港灣行政統一ノ徹底ヲ期スルコト而シテ差當リ
- イ、地方廳ノ食肉検査ヲ税關ニ移管スルコト
- ロ、花筵及生絲ノ検査ハ植物検査同様之ヲ税關ニ移管スルコト
- ハ、重要開港内土木工事ヲ内務省ヨリ大藏省ニ移管スルコト
- ニ、水上警察署事務中沖商、渡船等ノ營業ニ關スル事務ヲ税關ニ移管スルコト

ホ、燈臺局事務中開港ニ出入スル船舶ノ爲ニスル航路標識ヲ税關ニ移管スルコト

ヘ、海事部事務中水先人ノ管理監督ニ關スル事項、海員ノ雇入雇止ニ關スル事項ヲ税

關ニ移管スルコト

三、諸掛費ノ輕減

イ、船卸貨物ナクシテ積荷ノミヲナスカ又ハ石炭其他ノ船用品積込ノミノ爲又ハ單ニ旅

客郵便物ノ積卸ノ爲ニ入港スル船舶ニ對シテハ噸稅ヲ輕減又ハ免除スルコト

ロ、起重機ノ使用ニ付キ

一、使用料計量單位ヲ三十分ニ短縮スルコト

一、輸入原料品、輸出貨物又ハ検査ニ供スルカ爲ノミニ使用スル場合ニハ使用料ヲ輕

減又ハ免除スルコト

ハ、原料品、食料品ノ上屋使用料ヲ輕減スルコト

ニ、曳船使用料ヲ免除スルコト

ホ、開廳仕役ノ特許手數料ヲ改正前ノ通り低減スルコト

ヘ、傳染病患者入院費用ヲ免除スルコト

ト、「ステベドアー」、「ランジングエーゼント」等開港内ニ於ケル外國貨物取扱業者ニ對シ

保稅地域内ノ荷扱業者ニ對スルト同様費率其他ニ關スル取締ヲナシ得ルノ途ヲ講ス

ルコト

チ、沖商、渡船營業「ガイド」等ニ對スル一般的取締ヲナシ得ルノ途ヲ講スルコト  
リ、人夫ノ供給ヲ潤澤ニスルコト

以上卑見ノ大要ヲ述ヘタルモ港灣諸施設ハ國家的、地方的ヨリ見テ最モ適切ニ之カ利用  
方法ヲ講セサルヘカラサルカ故ニ主要港灣ニ港灣利用委員會ノ設置ヲ要ス而シテ委員會ハ  
港灣ニ關スル諮問機關トシ組織ヲ左ノ通りトスルコト

一、委員長 税關長

一、委員 鐵道局長、內務省土木出張所長、市長、市會議長、商工會議所會頭、主ナル船會  
社、貿易業者、倉庫業者

尙港灣施設中或物ニ付テハ其ノ設定經營ヲ公共團體又ハ民間ニ委スルヲ便宜トナスコト  
アルヘシ

函館税關長答申

凡ソ開港ノ利用増進ヲ企圖センニハ港灣施設ヲ完備セシムルト共ニ後背地域ニ於ケル諸  
種産業ノ獎勵助長、鐵道運輸系統ノ整備、貿易ノ振興等有ユル積極的方策ニ俟タサルヘカラ  
サルハ勿論ナリ、而シテ港灣ヲシテ克ク其ノ機能ヲ發揮セシメンカ爲ニハ殊ニ其ノ管理並  
利用方法極メテ經濟的ニ宜シキヲ得ルヲ要スルヤ必セリ、今回ノ諮問ハ是等港灣機能ニ關  
スル限リ擧ケテ之ヲ考量スヘキモノトハ信スレトモ、斯クテハ其ノ範圍頗ル廣汎ニ失スル

ヲ以テ茲ニハ貿易中心主義ヲ基調トシ對外通商交通機關トシテノ利用改善ニ關スル方面ヲ主トシ漸次之ニ關聯スル事項ニ言及セント欲ス以下(一)開港ノ管理經營(二)開港ノ施設(三)稅關行政上ノ施設ノ三項ニ分チテ卑見ヲ陳述セントス

(一) 開港ノ管理經營

(イ) 管理者ヲ大藏大臣トシ稅關長ヲシテ事務ヲ掌理セシム

對外貿易ノ關門トシテ國家經濟上重要職能ヲ有スル開港ニ於テハ總テ對外貿易中心主義ニ基キ擧ケテ外國貿易ニ便スル開港本來ノ使命ヲ發揮セシムル爲之ニ對スル管理經營ハ對外貿易中心ノ一管理廳ニ依リ統一管理セシメ開港ノ有機的作用ヲ遺憾ナク發現セシムルノ必要アリ之レ對外貿易ノ監督官廳タル大藏大臣ヲシテ開港管理ヲ爲サシメ稅關長ヲシテ直接其ノ衝ニ當ラシメントスル所以ナリ

即チ之ヲ稅關ニ於ケル主管行政トシ從來ノ稅關行政ノ外開港ノ設置閉鎖、開港區域及臨港地域ノ決定、港灣計畫並同工事施行等ノ行政ヲ打ツテ一丸トシタル開港管理ニ關スル行政ノ執行ニ任セシメ別項提案ノ開港管理委員會ヲシテ諮問機關タラシムルト共ニ臨港地域ヲ創設シ以テ統制アル開港行政ヲ執行シ完全ニ開港機能ヲ發揮セシメントス

尙本項ノ管理開港ハ之ヲ稅關本關所在地ニ於ケル開港並小樽港名古屋港ノ如キ主要開港ニ限リ其ノ他ノ開港ニ對シテハ貿易ノ進展ニ隨ヒ漸次之ヲ管理港ニ編入スルモ

ノトス

(ロ) 開港管理委員會ノ設置

開港管理ニ關スル根本方針ハ一國經濟上重要ナル使命ヲ有シ獨リ管理者ノ專行ニ委スルコトヲ得ス依テ管理大臣ノ諮問機關トシテ學者、實業家乃至關係官廳ノ官吏等ヲ以テ組織スル中央開港管理委員會ヲ設置シ開港ニ關スル制度、計畫、設備其ノ他重要事項ヲ審議調査セシメ開港管理ノ直接執行ニ當リテハ管理港ノ經濟的地理的情況ニ依リ獨自ノ關係ヲ有シ之ヲ全國劃一的ニ統一管理セシムルコト至難ナル關係アルヲ以テ稅關長ヲシテ之カ管理ノ衝ニ當ラシムルト共ニ尙稅關長諮問機關トシテ開港所在地ノ船舶業者、貿易業者、海運業者、倉庫業者乃至關係官公署ノ首班等ヲ以テ組織スル地方開港管理委員會ヲ設置シ開港並臨港地域管理ニ關スル計畫、設備其ノ他重要事項ノ調査ヲ爲サシメ地方開港特種ノ事情ニ適應セル管理經營ニ資セントス、管理港ニアラサル爾餘ノ開港ニ付テハ現行港灣工事施行前地方廳ヨリ稅關ニ協議スル取扱ノ外更ニ陸上水陸連絡設備ノ計畫ニ付テモ之ヲ稅關ニ協議セシムルノ程度ニ止メ置カントス

(二) 開港ノ施設

開港本來ノ機能ヲ遺憾ナク發揮セシムル要件トシテ開港ノ管理經營ト共ニ必須缺クヘカラサルハ開港利用上ノ障礙タル現在ノ主因ヲ爲ス港内施設ノ不備ヲ排除スルニ

在リ、開港ノ有スル有效水域ノ利用如何ハ直ニ以テ臨港地域ノ利用ニ影響スヘク臨港地域利用ノ適否ハ又以テ有效水域利用障礙ノ原因トナルヲ以テ彼此何レカ其ノ運用ヲ誤ラシカ開港全般ニ及ホス影響蓋シ甚大ナルモノアリ、然ルニ現行法制竝港灣利用ノ現勢ヲ顧ルニ限アル港灣水域竝臨港地域ノ利用ニ對シ未タ完全ナル行政監督ヲ執行ヲ見ルニ至ラス遺憾頗ル多シ之レ港灣能率ヲ阻害スル主因カ多ク此ノ點ニ存スルヲ看ル所以ナリ以下之カ對策トシテ一ニノ提案ヲ爲サントス

(イ) 管理開港ニ臨港地域ノ創設

開港機能ノ中心ヲ爲ス水陸連絡設備即チ岸壁、棧橋、繫船標、上屋、倉庫、鐵道、特殊貨物(散荷、危險物其ノ他特殊貨物)ノ收容地及貨物ノ積替、改装、仕分、加工、製造等ニ使スル敷地等ノ施設ヲ爲ス港灣ノ水陸連絡上最モ樞要ナル地域ニ對シテハ統制アル特殊行政ヲ執行スヘキ所謂臨港地域ヲ設ケ以テ雜然タル現狀ヲ整理シ完全ナル水陸連絡ノ使命ヲ果サシメントス

(ロ) 外國貿易ニ關スル水陸設備ノ施行連進

本邦開港ニ於ケル水陸連絡設備ハ二三ノ開港以外ハ孰レモ殆ト見ルヘキモノナク、開港利用上憂慮ニ堪エサルモノアリ延テ貨物積卸ノ遲延若クハ通關事務ノ滯留ヲ招キ貨主ヲシテ不測ノ損失ヲ蒙ラシムルコト尠シトセス、是レ開港本來ノ機能ヲ障礙スルノ大ナルモノナリトス、仍テ主要開港ニ於ケル防波防砂設備ヲ爲スト共ニ

常ニ海底ノ浚渫ヲ行ヒ尙進シテ埠頭、棧橋、繫船岸壁、浮標、繫船標、上屋、倉庫、臨港鐵道引込線竝船溜物揚場、旅客昇降場及起重機、計量器等諸般ノ水陸連絡設備ヲ速ニ完備セシムルヲ要ス

(三) 稅關行政上ノ施設

(イ) 開港港則實施港ノ範圍ヲ擴張スルコト

開港港則實施港ハ現在僅ニ港務部ノ設置アル橫濱、神戸、大阪、門司、長崎ノ五港ニ過キス其ノ他ノ開港ハ之カ實施ヲ見サル爲開港水域内ノ交通警察ハ徹底スルニ至ラス開港機能ヲ阻害スルコト少シトセス、依テ主要開港ニ之カ實施ヲ計リ開港水域ノ利用ニ資セントス

(ロ) 開港行政上貨物ノ性質ニ依リ之カ藏置ニ關シ水域利用ヲ適當トスルモノ少カラサルヲ以テ開港水域ニ對スル保稅制度ヲ採擇スルノ途ヲ拓クコト

(ハ) 制限擔保ノ擴張竝對人擔保制度ノ採用

開港内ニ於テ貨物移動ノ遲速ノ原因ハ動モスレハ通關手續ノ難易ニ基因スル場合多キカ如シ是レ本邦現行關稅制度カ免許制ヲ採用シ嚴格ナル取扱ヲ爲スニ基ク結果ナリト思料セラルルヲ以テ之カ通關ヲ容易ナラシムル爲關稅法第三十四條ノ制限擔保ヲ擴張シ金錢ノ外、國債ノ提供ヲ認メ傍ヲ對人擔保即チ保證制度ヲ採擇利用セントス(本項ノ實施ニ伴ヒ國稅徵收法ヲ準用スルノ必要アリ)

(二) 開港内ニ於ケル諸掛輕減並關係業者ノ取締法規ヲ制定スルコト

開港内ニ於ケル陸上税關設備ハ税關ノ經營ニ屬スルヲ以テ必要ニ應シ利用改善ヲ計リ得レトモ仲仕、船通船、曳船、タリーマン等ニ對シテハ單ニ警察行政上取締規程ヲ存スルニ過キササルヲ以テ往往不當ノ賃金ヲ要求シ港灣經濟ニ惡影響ヲ及ホスコト鮮シトセス故ニ是等港内營業者ヲ取締ルヘキ法規ヲ制定シ税關ノ監督ノ下ニ置キ開港内ニ於ケル諸掛ノ整理統一ヲ計リ以テ開港ノ利用増進ニ資セントス

(ホ) 開港ニ關スル智識ヲ普及シ之カ利用ノ民衆化ヲ計ルコト

港灣ノ觀念ニ乏シキ我國ノ現状ニ於テハ開港ノ意義使命等ニ關スル智識ヲ普及シ之カ利用ノ民衆化ヲ計ルハ又開港利用増進ノ一策タルヲ失ハス。

## 諮問第二

### 横濱税關長答申

#### 一、贅澤品等ノ關稅實施ノ狀況

##### (イ) 贅澤品等ノ輸入狀況

當港ニ於ケル贅澤品等ノ輸入價額ハ、實施以來大ナル消長ナク、平均一ケ年五百三十七萬

圓ヲ算シ、其内從價十割ヲ課シタルモノノ輸入價額ハ、平均一ケ年三百九萬圓ニシテ、前者ニ對スル歩合五割八分ニ相當ス。而シテ實施前ト實施後ノ狀況ヲ對照スルニ、實施前七ケ月ノ平均一ケ月ノ輸入額百二十七萬圓ヲ示セルニ、實施後七ケ月ノ平均一ケ月ノ輸入額七十一萬圓ト成リ、其後本年四月ニ至ル平均一ケ月ノ輸入額三十八萬圓ニシテ、實施前ニ比シ著シク減退セリ。次ニ之カ内容ヲ檢スルニ、實施以來平均一ケ年十萬圓以上ノ輸入額ヲ示セルハ、蔬菜果實核子、茶、ココロ、酒類、香水、齒磨粉、齒洗藥、化粧粉、菓子、植物性揮發油、天薺絨、ブラツシユ、蓄音器部分品、同附屬品、寫眞用フイルム及ヒ小包郵便物ニシテ、就中蔬菜果實核子ノ輸入額ハ平均一ケ年百十七萬圓ニ上リ最多額ヲ占メ、酒類ノ三十四萬圓、ココロノ二十六萬圓等其主ナルモノナリ。而シテ輸入増加ノ趨勢ヲ示セルハ、ココロ、酒類及ヒ香水等ニシテ、退勢ヲ示セルモノニ、菓子、植物性揮發油、天薺絨、ブラツシユ等アリ。其他實施以來本年四月ニ至ル迄ノ輸入額合計一萬圓以下ノモノ及ヒ全然輸入ナキモノヲ擧クレハ、マーテ其他ノ茶代用物外五十一品目アリ。

尙贅澤品等ノ輸入額ハ、大體ニ於テ實施前ニ比シ減退ヲ示セルカ、其最モ著シキハ貴石、植物性揮發油及ヒ寫眞用フイルム等ナリ。即チ貴石ハ、其輸入額實施前多キハ一ケ年三百萬圓以上ニ達シ、少ナキモ五十萬圓ヲ下ラサリシカ、實施後平均一ケ年五萬五千圓ヲ算スルニ過キス。又植物性揮發油ハ、實施前百六十萬圓乃至九十萬圓ヲ示シタルニ、實施後ハ平均一ケ年二十四萬圓ト成リ、寫眞用フイルムハ、實施前活動寫眞用ノモノヲ含ミ、三百七十萬圓乃至二

百十八萬圓ニ上リタルニ、實施後平均一ヶ年活動寫眞用ノモノヲ除キ十三萬圓ヲ算スルニ過キス。

(ロ) 贅澤品等ノ課税狀況

贅澤品等ノ關稅ニ關スル法律制定ノ趣旨ハ、一般ニ諒解スル所ナルモ、其品目ニ就テハ種種ノ議論行ハレ、之カ取扱業者ニ於テモ課稅上異存ヲ挾ムモノアリ。大正十四年四月一部ノ改正ヲ見、爾來相當緩和セラレタルモ、尙工業用常食用等ニ供スルモノ、或ハ毛綿製レース窓掛ハ從價三割五分ヲ課セラルルニ反シ、之カ原料タル毛綿製レース窓掛地ハ從價十割ヲ課セラルルカ如ク、兩者ノ權衡ヲ得サルモノ等ニ就テハ其撤廢ヲ希望スルモノアリ、其他ノ申出中相當理由アリト認ムルモノハ、從來ノ分類ヲ變更スル等關稅法規ノ定ムル範圍ニ於テ考慮ヲ加ヘ、關稅行政ノ施行其ノ宜シキヲ得ンコトヲ期セリ。而シテ贅澤品等ノ關稅カ引續キ施行セラルルヤ、漸次對策ヲ講スル者ヲ生シ、之カ連脱ヲ圖リ又ハ圖ラントスルモノ、増加ヲ見ルニ至レリ。即チ小銃及ヒ置時計ノ如キハ、之ヲ分解シテ部分品ト爲シ、船便、輸入港或ハ輸入者等ヲ異ニシ輸入ヲ爲スモノアリ。又乾果ノ如キハ、從來ノ容器ヲ變更シテ罐入トシ、日伊協定稅率ノ便益ニ浴シ、通關後更ニ從來ノ容器ニ改ムルモノアリ。或ハ肩掛ヲ連製トシ布帛トシテ輸入ヲ圖ラントスルモノ、其他價格ヲ引下クルモノ等種種ノ方法ヲ講スルモノアリテ、課稅上及ヒ取締上實施前ニ比シ、一層慎重ヲ要スル次第ナリ。

二、贅澤品等ノ關稅改正意見

贅澤品等ノ關稅ニ就テハ、實施以來各方面ニ於テ種種ノ議論行ハレタルモ、要スルニ輸入品ニノミ禁遏的重稅ヲ賦課スルモ、國內ニ於ケル奢侈品ニ對シ何等施ス所ナクシテハ、到底其目的ヲ達シ得ヘキニ非スト難スルモノ、或ハ品目ノ選定妥當ヲ缺キ、原料品ニ重稅ヲ課スルカ如キハ、輸出ノ源泉ヲ塞カントスルノ虞アリト爲スモノ等其主ナルモノナリ。然レトモ實施以來贅澤品等ノ輸入額ハ、實施前ニ比シ著シク減退ヲ示セルハ、即チ國民ノ消費節約ヲ示スモノニシテ、奢侈ノ抑制、輸入ノ防遏ニ資スル所尠カラサルノミナラス、精神的ニ及ホシタル好影響ハ蓋シ大ナルモノアリト信ス。尙從來外國品ノ供給ニ俟チタルモノニシテ、贅澤品關稅實施ノ結果内地ニ於テ之カ製造ヲ爲スニ至リタルモノ、目下其研究中ニ屬スルモノ等アリ。其他直接間接ニ保護的恩惠ニ浴セルモノアリテ、内地産業ノ發達ヲ促ス所亦決シテ尠カラス。故ニ我國現下ノ經濟的情勢ニ鑑ミ、尙繼續施行スルノ要アルヘク、而シテ之カ品目ニ就テハ、制定ノ當時ト今日トハ經濟事情ヲ異ニスルモノアル外、實施以來ノ成績ニ鑑ミ相當改廢スヘキモノアリト信ス。其ノ要領左ノ如シ。

(一) 贅澤品等ノ關稅品目ヨリ削除スルヲ可トスルモノ

稅表番號	品	目	理	由
三二ノ一	紅茶			〔咖啡ト同様殆ト日用品ニシテ其權衡上撤廢スルヲ可トス〕
三三	マテ其ノ他ノ茶代用物			元來輸入殆トナキモノナルヲ以テ存置ノ要ナシ
三六ノ一	ココロノ種子			本邦ニ生産ナク、原料品ナルヲ以テ撤廢スルヲ可トス
五四	チーズ			主トシテ外人ノ常食品ナルヲ以テ撤廢スルヲ可トス

六〇 〔礦水、曹達水其ノ他砂糖又ハ酒精ヲ含マサル諸飲料〕

六九 〔毛皮ノ内屑毛皮〕

七二ノ一ノ甲 〔革類 塗リタルモノ〕

七二ノ二 〔羚羊草〕

七二ノ四 〔鱒魚草〕

七二ノ五 〔リザード、レザード〕

九四 〔皮毛骨角齒牙甲殼類製品(別號ニ掲ケサルモノ)ノ内運動具用ノモノ〕

九五ノ一 〔植物性揮發油〕

二〇五 〔龍腦、艾片及人造龍腦〕

二二一 〔ヴァニリン、クマリン、ヘリオトロピン、其他別號ニ掲ケサル類似ノ芳香性化學藥〕

二二九 〔別號ニ掲ケサル藥材、化學藥及製藥ノ内人造香料〕

三六ノ一乙 〔窓掛地ノ内毛綿レース製ノモノ〕

三三ノ一丙ロ 〔トリムミンダノ内工業用ノモノ〕

三九一 〔寫眞〕

三九三 〔カードカレンダ―及プロックカレンダ―〕

四三九ノ二乙 〔陶磁器ノ内工業用ノモノ〕

四五七ノ二乙 〔硝子製品ノ内工業用ノモノ〕

四一ニ 〔黃石〕

六三六 〔寫眞用フイルムノ内製版用ノモノ〕

六四 〔ビリヤード、デニス、ブリック、象棋其ノ他ノ遊戯具及同附屬品ノ内運動具〕

藥用的ニ用セラレルモノ多シ

〔殆ト廢物ニ近キ裁屑アリ除外スルヲ要ス〕

〔軍人學生用帽子ノ底及頸革ニ使用セラレルモノ多シ〕

〔元來輸入殆トナキノミナス、近年輸入ニ係ルモノハ自動車ノ雜巾トスルモノ多シ〕

〔元來輸入貯ク存置ノ要ナシ〕

〔本號ニ分類セラレルモノノ内デニスラケツト用ノガット等運動具用ニ使用スルモノハデニス具ノ稅率ヲ引下ケタル權衡上除外スルヲ可トス〕

〔化粧品ノ原料ニ供セラレルモノニシテ輸出化粧品ニモ使用セラレルヲ以テ專口撤廢スルヲ可トス〕

〔同上〕

〔同上〕

〔之カ製品タル毛綿製窓掛ハ三割五分ナルヲ以テ其權衡上撤廢ヲ可トス〕

〔工業用ニ供セラレルモノ多シ除外スルヲ可トス〕

〔大量ニ輸入セラレルモノコトナク、廣告用ニ供スルモノ多シ除外スルヲ可トス〕

〔工業用ニ供スルモノハ除外スルヲ可トス〕

〔同上〕

〔密輸入ノ取締困難ナルヲ以テ專口撤廢スルヲ可トス〕

〔近來寫眞製版用ノモノアリ、除外スルヲ可トス〕

〔デニス、野球、フットボール具ハ除外セラレタルモノ、尙其他ノ運動具モ除外スルヲ可トス〕

〔本品ノ輸入ハ自ラ限度ヲ有シ、主トシテ美術觀賞用ニ供セラレ國際感情上ニモ惡影響アルヲ以テ專口撤廢スルヲ可トス〕

(二) 從量稅ニ改ムルヲ可トスルモノ

三九二 書畫

三六ノ二 品 目

六二二 支那酒釀造シタルモノ

六三 麥酒

六六 別表ニ掲ケサル酒類

(三) 追加スルヲ可トスルモノ

五三〇ノ五 品 目

五六〇ノ三 銚砲及同部分品ノ内小銃用ノモノ

五三〇ノ五 品 目

五六〇ノ三 銚砲及同部分品ノ内小銃用ノモノ

〔低價ノモノ多ク、從來ノ從量稅率ヨリモ安キモノアリ、適當ノ從量稅ニ改ムルヲ可トス〕

〔同上〕

〔同上〕

〔ラム、ブランデー等ノ下等品ノ輸入多シ、專口從量稅ニ改ムルヲ可トス〕

〔本號ニ分類セラレルモノノ内、貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、大理石等ヲ用ヒタル、置時計ノケースハ、他ノ貴金屬等ヲ用ヒタルモノカ、十割ヲ課セラレル權衡上追加スルヲ可トス〕

〔部分品トシテ分解輸入スルヲ防止スルヲ要メ〕

三、關稅警察上ヨリ觀タル贅澤品關稅實施ノ狀況並之ニ對スル意見

贅澤品關稅實施以降之ニ關スル犯則ノ増加著シク當關ニ於テ取扱ヒタル件數ハ概テ別紙第三表ノ如クニシテ之レカ取締ニ關シテハ當關ハ外國貿易船入港ノ都度積荷目録及船客船員携帶品目録ノ檢閲ヲ嚴密ニシ特種ノ船内檢査ヲ行フ等極力其防止ニ力メツツアルモ尙往



往脱税品ニシテ市内ニ販賣セラルルモノアルノ實況ニシテ其ノ檢舉頗ル困難ナリ從ツテ將來此種犯則ヲ根絶センニハ先ツ市場ニ於ケル之等贅澤品ノ輸入經路ト其ノ販路ヲ明確ナラシムル爲メ各税關相協力シテ徹底セル調査ヲ遂クルヲ必要トス

特ニ内地ニ一定ノ住居ヲ有セサル外國人ノ犯則ニ就テハ調査頗ル困難ニシテ外國汽船ニテ入港スルト共ニ犯則物件ヲ身邊ニ隠匿脱税シ之ヲ内地ニ於テ販賣スルヤ直チニ國外ニ向テ出發セル如キ場合ニハ假令脱税ノ事實明瞭トナルモ犯則者自身ニ對シ處罰ノ方法ナキハ勿論内地ニ於ケル買手ニ對シテモ故買ノ犯意ヲ確認スルコト甚タ難キモノアリ此點ニ就イテハ調査上苦心困難ヲ感シツツアル次第ナリ

又所謂合法的脱税方法例ヘハ小銃ノ如キハ之ヲ完成品トシテ輸入スルトキハ本法ニ依リテ從價十割ノ關稅ヲ課セラルヘキヲ以テ殊更ニ之ヲ數箇ノ部分品ニ分割シ輸入ノ時期、場所等ヲ異ニシ以テ本法ノ適用ヲ免レントスルモノ頗ル多ク稅關ニ於テハ昨年三月稅關長會議打合ノ主旨ニ依リ專ラ關稅ノ差益ヲ不當ニ利得センカ爲メニ分割輸入スト認メラルル限リハ嚴重ニ之ヲ取調ノ上或ハ犯則トシテ處分シ或ハ十割關稅ヲ賦課シツツアルモ尙之カ理論的根據ニ付テハ聊カ疑義ナキ能ハサル次第ナルヲ以テ本法ニ右ノ如キ場合ノ取扱方ニ付キ適當ナル條文ヲ追加セラルルヲ可ナリト思料ス

第一表

横濱港贅澤品等輸入價額表

年次	贅澤品等ノ輸入總額	十割ヲ課シタル輸入總額	後者ノ前者ニ對スル割合
大正十三年自八月至十二月	四、六三八、一七八	一、四一五、一三七	〇・三二
大正十四年	四、四八五、九一六	三、〇二四、五三二	〇・六七
昭和元年	四、九四三、九五九	三、〇七三、〇七六	〇・六二
昭和二年	四、六五七、八九七	三、〇六〇、七三二	〇・六六
昭和三年自一月至四月	一、四三七、五四二	一、〇五〇、八九八	〇・七三
平均一ケ年ノ輸入額	五、三七六、九三一	三、〇九九、八三三	〇・五八

第二表

横濱港主要贅澤品等輸入價額表

稅表番號	品名	大正十三年自八月至十二月	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年自一月至四月
三一	蔬菜、果實及核子	五六一、二三一	九九二、一四六	一、五一〇、〇四一	一、二五六、九二	二一七、三六〇
三二	茶	二〇九、二四四	一七七、九八四	一七六、九四四	一九一、一九二	四五、三一〇
三三	茶	三六、九三〇	八八、一三二	一九七、四〇〇	一六六、〇二九	六九、三三四
三四	茶	二二、一七七	八八、一三二	一九七、四〇〇	一六六、〇二九	六九、三三四

備考

一、單位圖

二、左側ノ數字ハ十割ヲ課シタルモノノ價格

第三表

大正十三年法律第二十四號「贅澤品等ノ輸入税ニ關スル法律」別表記載物件ニ關スル犯則處分表（※部分品通關）

犯則月日	犯則者氏名	物件	件	數量	種目番號	處分
大正一三 八二二	茅野モト	寶石入金指輪 支那製箱袖	一個	一反	三五九 三〇三三A-a	物件沒收 罰金一四一圓
大正一四 八二六	法元徳益	ダイヤモンド ダイヤモンド入 ホワイトゴールド入指環	四個	一個	四一二 三五九	物件沒收 罰金四三五圓
大正一五 一三三	上杉健次	外國製皿 縹細工品	七個	二枚	四一三二B 四五七二B	物件沒收 罰金二七圓
大正一五 一三三	岩田旭	外國製萬年筆	五本	一本	六四七二A	物件沒收 罰金九〇圓
大正一五 一三三	大勢屋旅館 稻垣福之助	パイナップル罐詰 寫真機	一五箱	一個	三一 三五三	罰金四八六圓 追徴金一六二圓
大正一五 二九	東島彦次	寫真機 フィルム	一個	一個	六三六一	物件沒收 罰金二四九〇錢
大正一五 三二七	金正大	支那酒	二六籠	二六籠	六二該當 六六該當	罰金一八八四圓 追徴金六二八圓
大正一五 一三二七	坂本龜穂	腕時計	二個	二個	五二六一A-b	物件沒收 罰金九〇圓
大正一五 六八	小川武	外國製パナマ帽子	二個	三個	三五四二-C	物件沒收 罰金二四圓
同	酒井福市	ウヰスキー	三個	六本	六六二-A	物件沒收 罰金二七圓
大正一五 四一三	原周一	ウヰスキー	六本	六本	六六二-A	物件沒收 罰金四一四〇錢

合計	其	小包郵便物	其他
五九、〇九九	二四、七七二	一九一、二九三	二八、七五九
一〇一、九二七	一九一、二九三	二八、七五九	三三、二〇三
八八、三七六	二二五、七五〇	一一八、八三八	一〇七、一四七
一三二、二一〇	二二五、七五〇	一一八、八三八	二〇、九九五
四四、八五六	二九〇、三三八	三〇七、七五七	一五一、七八〇
三二七、六九三	二九八、五二一	三〇七、七五七	一〇七、三四七
一三〇、九〇八	一一八、三五五	九七、二二二	一〇七、三四七
二二〇、九三一	四、九五〇三	一二九、三六六	二二二、九八八
三二五、二四六	四、九五〇三	一七六	一六三、二二一
三〇一、一〇一	一六、八二五	一七〇、七五八	一、八九七
三〇一、一〇一	一八、八四八	二四、三五五	七七、五三七
四二二、貴	一八、八四八	二四、三五五	七七、五三七
五五六	八〇、九二七	四四、六二〇	三四、九一二
六三六	二、七三五	二二、六三〇	三、九一二
六三六	一五九、五八九	一五二、四七九	九八、一〇六
六三六	八、一四六	一五二、四七九	九八、一〇六
六三六	一四六、二二九	九九、六〇六	一一六、五〇七
六三六	一七二、九三	九九、六〇六	一一六、五〇七
六三六	一九三、二七	一五、四〇四	二三八、八五五
六三六	一九三、二七	一五、四〇四	二三八、八五五
六三六	二一四、八五〇	一、六七五、四二〇	一、四二二、二五七
六三六	六六、七、一五七	一、四二二、二五七	一、一五四、九〇四
六三六	四、六三、一七八	四、四八五、九一六	四、六五七、八九七
六三六	一四、一五、一三七	三〇、二四五、三二	三、〇六〇、七三二
合計	一、〇五〇、八九八	一、〇五〇、八九八	一、〇五〇、八九八

大正一三	池田 宏	寫真機	一個	五五三三	罰金二四圓 追徴金八圓
昭和二二	田中 博	"	"	"	罰金九〇圓
昭和二二	今富吉男	ウ井スキー	一三本	六六二一A	罰金六二二〇錢
昭和二二	岩崎忠太郎	寫真機	一個	五五三三	罰金一二〇圓
同	小泉和夫	"	"	"	罰金一二〇圓
大正一五	渡邊宗治	寫真機部分品	九八組分	五五四 二C	物件沒收 罰金四九八〇錢
大正一三	大勢屋旅館	パイナツプル 鐘詰	二〇打	三一 二B四	昭和二二 一四 告發
大正一五	大正一五	大勢屋旅館	三箱	四五	
同	猪名川竹次郎	パイナツプル 鐘詰	二〇打	三一 二B四	
同	千葉長治	白金懐中時計	一個	四五	
大正一五	嘉山松藏	懐中時計用鍵	一個	四九一 二	
同	鈴木喜三郎	フィルム	二〇〇個	六三六 一	昭和二二 八 告發
大正一五	大村與三郎	"	二五四〇個	"	
同	大橋儀助	"	二五四四個	"	
大正一四	日本銃砲店	小銃部分品	二七一個分	五六〇 一	犯則不明ニ付 不問處分
九月以降	大澤平太郎	外三名	不明		

五〇

大正一四	ダイヤモシド	不明	四一二	目下調査中
昭和二一	川口屋銃砲店	小銃部分品	五六〇 一	
昭和二一	林 國造	六五二個分	五六〇 一	
昭和二一	齋藤二郎	四九打	六六 二一A	
昭和二一	松崎開治	一〇個	三一 二B四	
昭和二一	田口市太郎	二九打	六六 二一A	
昭和二一	鈴木常次郎	四二四本	六六 二一A	
昭和二一	川端熊助	三四〇本	六六 二一A	
昭和二一	有田長藏	七一二斤	六六 二一A	
同	有田長藏	八四本	六六 二一A	
同	有田長藏	三六斤	三三	

神戸税關長答申

一、本法ノ實施狀況  
(イ) 贅澤品ノ輸入消長

大正十三年法律第二十四號實施前後ニ於ケル贅澤品ノ神戸港ニ於ケル輸入狀況ヲ概観ス  
ルニ本法實施ノ前年タル大正十二年ニ於テハ贅澤品該當品ハ上半期既ニ相當巨額ノ輸入

ヲ見ルヘキ狀勢ニ在リシカ偶々九月關東大震災ノ餘波ヲ承ケ本品ノ如キ贅澤品ハ一切其ノ輸入ヲ減退スヘク豫期セラレシニ意外ニモ事實ハ之ヲ裏切リ同下半年ハ却テ上半期ヲ凌駕スルノ奇現象ヲ呈シ兩期通算シ千五百六十萬圓ノ輸入ヲ計上スルニ至レリ

大正十三年ニ入りテハ震災ノ創痕ニ因リ財界ハ益々不振ヲ加ヘタルニ拘ラス本品ニ對シテハ關稅改正ヲ見越セル一部商人ノ思惑的産地買付ヲ爲セルモノ多ク爲ニ七月迄ニ約千三百五十七萬圓テフ巨額ノ入荷ヲ見タルカ七月三十日愈々本法ノ實施セラルルヤ流石ニ之ヲ分界トシテ其ノ後輸入額ヲ激減シ斯クテ年末ニ至ル迄輸入額ハ十割課稅品百九十七萬圓外ニ同稅該當品五百八十四萬圓ニシテ兩者ヲ併算スルモ七百八十餘萬圓ニシテ同年內本法實施前ノ期間ニ比スレハ各月急轉直下ノ激減ヲ示セリ

爾來贅澤品ノ輸入ハ引續キ大體此ノ趨勢ヲ維持シ大正十四年ニ於テハ十割課稅品ハ一躍三百五十萬圓ニ激減シ同十五年ハ二百八十萬圓昭和二年ハ二百五十四萬圓ト一途低減ノ傾向ヲ示セルハ明ニ本法ノ施行カ贅澤品ノ輸入防壓ニ適切且顯著ナル效果ヲ齎シタルコトヲ實證スルモノト謂ヒ得ヘク此ノ點ヨリ觀ルトキハ本法ハ能ク其ノ使命ヲ達成セルモノト認メ得ヘシ

本法カ大體ニ於テ斯ノ如キ好成績ヲ贏チ得タル所以ハ

- (一) 十割ノ高率課稅ニ依リ輸入贅澤品ノ價格騰貴シタル爲一般ニ其ノ消費慾ヲ阻減セラレタルコト

- (二) 大震災ニ因リ一層深刻化セラレタル不景氣カ購買力ニ餘裕少カラシメタルコト
- (三) 朝野一致ノ提唱ニ係ル勤儉貯蓄獎勵ニ促サレ節約ノ風漸ク涵養セラレタルコト
- (四) 十割課稅カ他面高度ノ保護關稅的作用ヲ有スルノ結果之ニ刺戟セラレ輸入品ニ對抗スル内地産業ノ擡頭ヲ見ルニ至リタルコト等

亦與リテ相當力アルノ事實ヲ看過スル能ハサル所ニシテ是等ノ諸原因綜合シテ甫メテ本法ノ實效ヲ完カラシメタルコト疑ナキ所ナリ。

斯ノ如ク十割課稅實施後贅澤品ノ輸入ハ總シテ急角度ノ減退ヲ來セルカ就中減退率ノ最も著明ナルモノヲ代表的ニ擧記スレハ

亞麻布	大正十二年	一八四、二二四圓
毛製天鵝絨	昭和二年	八七九、三四一圓
著色紙	大正十二年	五五七圓
生果乾果	昭和二年	四九五、五二〇圓
蔬菜果實	大正十二年	七六九〇圓
	昭和二年	一四〇、七八二五圓
	大正十二年	二四九、五九〇圓
	昭和二年	二二二、八六〇圓
	大正十二年	七〇、四二三圓
	昭和二年	五三

寫真器及同部分品	大正十二年	四七四六五九圓
昭和二	九、二〇〇圓	
量時計	大正十二年	二〇一、五二七圓
昭和二	八、四七〇圓	
蓄音器及同部分品	大正十二年	五五七、七九〇圓
昭和二	八一、〇五三圓	
寫真用フィルム	大正十二年	一一、二八八、九五二圓
昭和二	二九二、八四一圓	
塗革	大正十二年	一九三、一五三圓
昭和二	四二、七六一圓	
石鹼	大正十二年	二二、三〇三〇圓
昭和二	三九二圓	
香水	大正十二年	二六〇、六五四圓
昭和二	一、二七〇圓	
蒸香性油脂類	大正十二年	一〇〇、三六四圓
昭和二	二九八圓	
齒磨等蒸香類	大正十二年	三三六、五〇九圓
昭和二	二、三三三圓	

五四

地氈	大正十二年	六八六、七一五圓
昭和二	二九、五八一圓	
貴石	大正十二年	一、四五八、五八一圓
昭和二	一〇四、九一五圓	

等ニシテ亞麻布ノ如ク輸入絶減ニ販シタルモノアリ然レトモ反之一方十割課税ノ影響ヲ受クルコト比較的微弱ニシテ輸入額ニ格別ノ變動ヲ生セサルモノトシテ

チ	大正十二年	二九、三九四圓
昭和二	二、二〇一、二二圓	
ウ	大正十二年	二八三、九四一圓
昭和二	二〇八、七〇〇圓	

等ヲ攀クヘク進ンテハ

紅茶	大正十二年	九九、〇八三圓
昭和二	一〇九、六六七圓	

ノ如ク却テ多少ノ増加ヲ示セルモノスラアリ而シテ嗜好的食料品ニ於テ此ノ例外現象ヲ呈セルハ一考ニ値スヘシ

更ニ注意ヲ要スルハ贅澤品輸入單價ノ推移ニシテ少數ノ例外ヲ除キ大多數ノ贅澤品ニ於テ逐次輸入單價ノ漸減セル傾向ヲ看取シ得ヘク從テ本品輸入額ノ減退カ一ハ輸入數量ニ於ケル絶對減少ニ負フノ外其ノ一因ヲ單價ノ低落ニ販セサルヘカラサルコトハ其ノ低落カ自

五五

然のナルモノナリヤ又ハ有意的ナルモノナリヤ即チ十割課税ニ依ル關稅負擔ノ回避輕減ヲ  
目途トシテ故意ニ當事者間ニ表面上ノ安値取引ヲ申合セラレタルモノニ非サルヤ否ヤノ懸  
念ト共ニ併セテ研究ヲ要スヘキ一事ナルヘシ

ロ 本法實施ノ内地産業ニ及ホセル影響

本法カ贅澤品等ノ輸入ヲ防遏シ之ニ依リ國民ノ奢侈浪費ノ抑制ニ資セントスル一ノ道德  
的使命ヲ以テ生誕シタルコトハ本法發布ノ當時ノ事態ニ照シ明ナル所ニシテ從テ從價十割  
ノ關稅カ禁止的效果ヲ目標トシテ制定セラレタルモノナルコト亦疑ナキ所ナルヘシト雖而  
モ右ノ如キ高率ノ關稅カ勢ヒ一面課稅品ト同種ノ物品ヲ製造スル國內生産者ノ生産條件ヲ  
有利ナラシメ國內ノ同種産業ヲ保護助成スル副結果ヲ齎スヘキコトハ容易ニ豫想シ得ヘキ  
所ニシテ贅澤品輸入減退ノ一因カ同種國産品ノ供給増加ニ在ルコトハ既ニ一言セル所ナリ  
當管内ニ於テハ蠶ニ調査報告セル通り僅カニ毛織業ニ於テ好影響ヲ受ケタルノ外特記スヘ  
キ影響ノ認ムヘキ産業ナシト雖モ今神戸港輸入ノ主要贅澤品ニ付十割課税ノ同種産業ニ及  
ホセル影響一斑ヲ概見スルニ左ノ如シ

1. バイナップル鑑誌

本品ハ主トシテ布哇、新嘉坡産ノモノ輸入サレ本邦ニテハ從來臺灣、小笠原ノ一部ニ之カ産出ヲ見タルモ概シ  
テ優等品ノ産出ニ困難視サレタリ且ツ生産費モ割高ニシテ終始舶來品ニ壓倒セラレタル感アリシカ贅澤品税ノ  
施行ニ依ル輸入價格ノ昂騰ハ本邦斯業ノ勃興ヲ促シ殊ニ臺灣ニ於ケル斯業者ハ原木ノ供給ヲ布哇ニ仰キ之カ改

善ヲ企圖セル結果今ヤ布哇品ト大差無キ結實ヲ見而モ製造方法モ漸次進歩改良シ總督府ノ検査開始ニヨリ品質  
亦統一サレ年産額ヲ増加シテツウアリ然ルニ外國産バイナップルハ十割課税ニヨリ至ク不引合ニ陥リタルヲ以  
テ近來之カ挽回策トシテ糖分ヲ加ヘス自然味ノ儘ニテ輸入レ内地ニ於テ適當ニ加糖ノ市場ニ提供スルニ至リ  
レハ注目ニ値スヘシ

2. 桃、梨、其他ノ果實ノ鑑誌

從來國産品ニシテ舶來品ニ遜色ナキ優良品ノ産出方法ハ充分ニ研究セラレタルモ如何セム生産費ノ割高ニヨ  
リ輸入品ニ對抗スヘキモノ甚ダ渺ク自然企業ヲ見合ハスノ状態ナリシモ十割課税ニ依リ舶來品ノ昂騰顯著トナ  
リ隨テ和製品モ採算引合フニ至リタルヲ以テ此等製造家ハ此ノ好機ヲ逸セス資本ヲ投下シ生産ヲ開始シタレハ  
原料果實ノ産額豐富ナル徳島、岡山、廣島、香川ノ諸縣ニ於ケル斯業ハ急激ニ開發サレ現在ニテハ國內需要ヲ充  
タシ得ル程度ノ産額ヲ見ルニ至レリ

3. アスパンガス鑑誌

本品ハ主トシテ我カ在留外人ノ常用食料品ニシテ從來國內生産ハ極メテ小規模ノ栽培アルノ状態ナリシカ本  
法ノ施行ニヨリ相當ノ發達ヲナセリト雖モ尙充分ナリト云フ域ニ達セス自然輸入品ノ代用トシテ生鮮ナル野菜  
ヲ用ヒツツアル状態ナリ

4. 乾葡萄

本品ハ北米合衆國ニ於テ禁酒法ヲ實施セル結果從來葡萄酒原料タリシ葡萄ハ其ノ用途ヲ失ヒ價格激落シタル  
ヲ以テ之ヲ乾葡萄トシテ賣捌クニ至リ本邦ヘノ輸入モ大正四年ヲ限界トシテ急激ナル増加ヲ來タレ一時膨大ナ  
ル輸入量ヲ計上セリ其ノ後産地ニ於テモ栽培不利ナル爲メ年産額ヲ減少シ偶々本邦贅澤稅實施後市價ノ昂騰  
ヲ餘儀ナクシ一方内地需要モ嗜好ノ倦怠ニヨリ漸次減退シ從ツテ輸入量モ逐年減少セリ近時横濱ニ米人經營ノ

パツキング工場新設サレ専ラ原料乾葡萄ノミヲ輸入シ内地ニテ箱詰ノ上市場ニ提供シツツアリト聞ク從來本邦ニテハ甲州及其他ノ地方ニ於ケル葡萄ノ産額相當ノ數量ニ上リ隨テ乾葡萄ノ産出ヲ見ルニ至リシモ品質ハ輸入乾葡萄ニ及ヒ難シ

5 菓子

本品ノ過半數ヲ占ムルハ支那栗ナリ由來栗ハ内地産額相當多量ニ上ルト雖モ品質ノ關係上内地栗ハ長期ノ保存ニ堪ヘス從ツテ乾栗等トシテ保存スルコト外ニ良策無キモ輸入品ハ能ク保存ニ堪ヘ虫ノ發生ヲ防キ得ル爲メ概シテ内地栗ノ終了期ヨリ輸入サレ年年多量ヲ計上セラレツツアリ内地ニ於テモ支那栗ノ生産ヲ企テ一時苗木ノ供給ヲ支那ニ求メ移植セシコトアリシモ氣候風土ノ關係ニテ成績不良ニ終レリ唯朝鮮北部ノ清江附近ニ於テ相當ノ成績ヲ舉ケ苗木ノ發育モ宜シケレハ茲ニ總督府ハ獎勵金ヲ交付シテ多數ノ植林ヲ行ハレメ年年産額ヲ増加セリ而シテ同樹ハ移植後約三四年内外ニシテ初メテ結實スト聞ケハ今後數年ヲ經ハ内地ノ需要ハ朝鮮栗ニテ充分ナリト思考サレ品質モ現在ニテハ輸入栗ニ比シ稍々小粒ナルモ年年改良ヲ施シ現今ニテハ大粒物ノ産出ヲ見ルニ至レリト云フ

6 紅茶(紅茶粉ヲ除ク)

紅茶ハ内地産出殆ト無ク需要ハ全部輸入ニ仰ク状態ナリ今後ニ於テモ内地風土ハ紅茶ノ製造ニ不適當ナルカ故ニ斯業ノ發達ヲ期スルニハ我風土ニ適應スル原樹ヨリセサレハ其ノ效果ヲ收メ難シト聞ク而シテ本品ニ發澤品稅ヲ課スルコトハ外人間ニ評判惡ク之カ撤廢ヲ望ムヤ向多シ

綠茶ハ主トシテ支那、印度産ヲ輸入セシモ之ハ臺灣ニ於テ烏龍茶ノ産額相當ニ上リ殊ニ發澤稅實施後紅茶、綠茶ノ昂騰ニツレテ産額ヲ著レク増加シ國內ニ向ヒテハ輸入茶ノ代用トシテ盛ニ宣傳サレ海外ニ對シテハ市價ノ割安ヲ標榜シテ極力新販路ノ擴張ニ努メタル結果米國方面ヨリ注文ヲ寄來スルモノ年年増加セリ

7 ジャム、フルーツゼリ類

本品ハ從來内國産益々増加ノ傾向アリ品質モ漸次改良サレ現在ニテハ苺、ジャム、柑皮ゼリ等ハ輸入品ニ比シ遜色無ク殊ニ柑桔ゼリ類ハ輸入品ニ比シ風味劣リ製造困難トサレタルモ其後工夫ヲ凝ラン近來ハ燻熱セル柑皮ヲ使スル事ノ發見サレテヨリ優良品ノ生産ヲ見ルニ至レリ由來本品ハ年年ノ輸入量比較的小量ナルト且ツ消費方面カ一部ニ限ラレタル爲メ今日ニテモ從前ト大差無キ輸入量ヲ算シ從ツテ本法ノ施行ニヨリ内國産業ニ及ボス影響モ亦僅少ナリトス

8 チーズ

本品ハ主トシテ在留外人ノ食料ニ供セラレ其等ノ需要ヲ目的トシテ極メテ小規模乍ラ和製品ノ産出ヲ見タルモ品質ハ概シテ舶來品ニ及ハス夏期保存ニ堪ヘサルノ缺點ヲ有シ市價モ終始割高ナリレモ十割課稅後ハ市價有利ニ好轉セシ爲メ産額モ多少増加シ現在本邦産ノ白眉トモ稱スヘキモノハ北海道トラピスト修道院ノ製造ニカカルモノナルカ同院モ小規模ニシテ且ツ生産目的トセサル爲メ産額ノ増加ヲ期待スルコトハ不可能ナリ而シテ本邦煉乳業者モ副業トシテ本品製造ノ有利ナルコトハ夙ニ熟知セルモ需要方面カ一般本邦人ノ嗜好ニ不適當ニシテ且ツ又本業タル煉乳ノ販賣ニ汲汲タル現在ニ於テ斯ル大規模工業ハ到底望ム可クモアラス而モ本品ハ在留外人ノ日常必需品タルノ故ヲ以テ發澤關稅ノ不當ヲ絶叫スルノ聲喧シキハ一考ヲ要スル所ナリ

9 菓子及ヒビスケット

内地製菓業ハ近時大ニ發達シ輸入品ト比較シテ品質價格數量ニ於テ畧匹敵シ今ヤ内地ノ需要ヲ充タシ過剩出品ニ對シテハ年年輸出サレルモノ増加セル状態ナルヲ以テ十割稅ニヨル輸入困難ハ延テ國産品ノ内地市場ヲ一層確保セリト思考セラルルモ内地全消費額ヨリ見ル時ハ輸入額僅少ナルヲ以テ内地製菓業ニサシタル影響ナシト見ルヲ至當トス又加糖セサルビスケットハ從來内地産殆ト無カリシモ近時内地製菓業者ハ同品ノ製造ニ著手シ

今日ニテハ相當ノ產出ヲ見ツアリ

10 ウヰスキー及其他ノ酒類

洋酒中優良品ハ今日ニテモ依然内地生産ヲ見サル状態ナルモ洋酒醸造業ハ近時非常ニ發達シ原料タル蒸餾焼酎ニ相當需要ヲ喚起セラレタルニ徴スレハ其實行モ推知スルニ難カラサルベレ而レテ此等製成品ノ多クハ輸入洋酒ト混合シテ市場ニ現ハルモ多ク國産品ヲ標榜シテ販賣サルルモノハ極メテ稀ナリトス

11 珊瑚及同製品

内地珊瑚ハ近年主トシテ伊國ニ輸出サレ同國ニテ適當ニ加工シ製品トシテ再ヒ輸入サレタリシカト割課稅後ハ製品ノ輸入困難トナレリ當業者ノ該ニ依レハ近來伊國カ原料珊瑚ノ買入ヲ手控フニ至リシハ該製品ヲ我國へ賣込ム見込立タサルカ故ニ自然原料ノ買付ヲ躊躇スル結果ナリト隨テ原料珊瑚ノ豐富ハ勢ヒ和製代用品ノ市價ヲ安値ニ導キ國內加工製産ヲ増加セル傾向アリ

12 石鹼

本邦ニ於ケル石鹼製造工業ハ較近著シキ發達ヲ遂ケ基礎モ強固トナリ大規模工場ハ各處ニ勃興スルニ至レリ就中東京、大阪、兵庫、愛知ノ各府縣最モ盛ニシテ其生産額ハ國內ノ需要ヲ充シ尙年年多額ノ輸出ヲ見ルノ盛況ニアリ從テ現今海外ヨリ輸入セラレタルモノハ高價ナル化粧石鹼及ヒ特種石鹼ヲ其ノ重ナルモノトセサレハ之カ關稅引上後ニ於テモ我國ノ生産上ニハサレタル影響ナカリシモ石鹼製造ニ要スル各種香料ハ關稅引上ケニ伴ヒ幾分騰貴ヲ來タセシ苦痛トス即チ從來石鹼製造ニ要スル香料ハ價格ノ二割内外ヲ占ムモノヲ例トシシカ今ヤ其ノ倍額ノ出費ヲ要スルニ至リタレハナリ

13 織物類

本品中關稅引上ケニ依リテ輸入ヲ減退セシハ麻織物ニシテ同品ハ既ニ内地生産充分ナレハ近キ將來ニ於テ輸入

ノ必要ナキニ到ラン毛織物、毛綿交織物中絹入ノモノ及ヒ毛、絹製ブラツレユ等ハ關稅引上ケニ依リテ追々生産ヲ増加シ日本毛織會社ニ於テハ優良ナルブラツレユ類ノ產出ヲ見ルニ至リタレハ今後數年ヲ經ハ國産品ニテ優ニ内地需要ヲ充タシ得ヘシト想像ケル其他ヴェーリリソ、肩掛地等モ本法ノ影響ヲ受ケ漸次發達ヲ爲シ殊ニ京都西陣方面ノ斯業ハ長足ノ進歩發達ヲナスニ至レリ

14 貴石

我國ニ於ケル貴石ノ產出ハ極メテ少ナク備ニ新潟縣ノ一部ニ「サファイヤ」ノ產出ヲ見一時大日本寶石會社經營ノ下ニ近年迄營業ヲ續ケシモ採算不引合ノ結果遂ニ解散シ現在ニテハ其ノ製産ヲ見ス柘榴石ハ近江、伊吹山ニ良好ノモノヲ產出シ孔雀石ハ各所ニ散見スルモ之等ヲ原料トシテ寶石ヲ製造セシモノハ何レモ規模狭小ニシテ未タ内地需要ヲ充タスニ足ラサル現状ナリ而シテ貴石中高價ナル「ダイヤ」ノ如キハ全然產出ヲ見ス又「シニセ」テツク「貴石」ハ我硝子工業ノ幼稚ナルタメ全然製産ヲ見サルモノトスサレハ裝身用貴石ハ殆ント全部輸入ヲ仰ク狀況ニシテ贅澤品稅ノ施行ニヨリテ本品ノ如キ贅澤物ノ輸入カ必然的ニ減少セルハ國家ノ大局ヨリ視テ洵ニ喜フヘキ所ナルモ一面取締困難ノ爲メ相當ノ脫稅品ノ輸入セラレツツアルハ一考ヲ要スル所ナリ

15 蓄音器同部分品及樂譜

本品ハ從來國産品トシテ相當ノ生産アリタルモ終始精巧ナル輸入品ニ壓倒サレ勝チナル状態ナリレカ關稅改正後輸入品ノ昂騰ハ本邦生産業者ヲ有利ニ導キ日本蓄音器(ワレ印、飛行機印)東亞蓄音器(鳩印)日東(ツバメ印)等ノ諸會社カ急速ノ進歩ヲナシ殊ニ我國特有ノ音曲ヲ吹込メル樂譜ハ生産額増加ト共ニ割安ヲ以テ販賣スルニ至リ機械部分品亦米國製ビクタール蓄音器ノ如キ高級品ヲ除キテハ殆ント國産品ニテ内地需要ヲ充タシ得ルノ程度迄發展ヲ遂クルニ至レリ然レ共近時ラヂオノ勃興ニヨリ一般ノ嗜好カ其ノ方面ニ漸次推移セムトスル傾向アリテ本品ノ賣行ニ多大ノ影響ヲ與ヘツツアル如シ



本品ノ用途ハ極メテ小範圍ニ限ラレ主トシテ婦人用靴及靴先等ニ使用セラレ贅澤稅實施前ハ其ノ供給ヲ專ラ外國ニ仰キシカ其ノ實施後ハ輸入量激減シ且十割課稅ノ保護的影響ヲ受テ現在内地ニテモ僅少ナカラ個人經營ニテ相當ノ製品ヲ生産シ得ルニ至リタルヲ以テ本稅ヲ存置スルニ於テハ將來尙多少發展ノ餘地アルモノト認メラル

本品ハ比較的値段ノ安キモノニテ使用スル範圍モ僅少ナリ仍テ贅澤稅ノ適用ヲ受クルモノ一般の必需品タル飲食物ノ如ク生活ノ脅威ヲ感セサルノミナラス假令使用スルトスルモ少量ノモノニテ用ヲ達シ得ルヲ以テ其ノ價格モ比較的目立タサレハ一般消費者ニ對スル感シ薄ク尙全然加工製品トシテ輸入サルモノニシテ別段日常必需品のモノナラサルヲ以テ問題トスル迄ニ至ラス

然レ其本品ト同類ノモノニシテ巾六吋以上ノ所謂刺繡布ハ昨今一般の需要激増セリ即チ婦人ノ裾袴ノ袖口及ヒ腰卷等ニ使用サルモノノ大部分ヲ占メ比較的高價ニシテ而モ保存上及ヒ洗濯等ニ堪ヘサル一メリンス類ノ如キモノヲ使用スルヨリ本品ヲ使用スレハ價格ノ點ニ於テ經濟的ナルヲ以テ需要ハ益々激増セツツアリ

本品ハ贅澤稅課稅前ハ相當ノ輸入ヲ示シタルモ其後輸入激減セリ是レ本法ノ施行ニ依リテ現在内地ニテ横濱京都、徳島等十數箇所ノ小規模ノ工場ノ設立ニ依テ外國品ト同程度ノ優良製品ヲ多量ニ製造シ得ルニ至レルヲメナリ

然レニ本品ハ舶來品カ贅澤稅品タルノ故ヲ以テ内地ノ賣買價格相當高キタメ和製品モ亦外國品ニ追從シテ市價ヲ引上クテ傾向アリ若レ本稅法ヲ廢セムカ或ハ價格ノ低下ヲ見消費者ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得ヘク而モ尙本稅廢止ノタメニ内地製産ニハ何等變動ナキ模様ナリ

本品ノ内箱入ノモノヲ除キタルモノハ贅澤品トシテ見ル可キモノニアラス就中汽車汽船等ノ「レ」ト用及下等ナルモノニ至リテハ寧ろ必需品タルノ感アリ而シテ子供用外套ノ袖口及襟ニ用フルモノニ至リテハ防塞用トシテ必要缺クヘカラサルモノナレハ必需品トシテ認ム可キモノナリトハ當業者ノ唱道スル所ナリ

本品ハ贅澤稅課稅前ハ相當ノ輸入ヲ見タルモ其ノ後激減シテ皆無ノ状態トナレリ之レ其ノ使用量ノ激減セレニ非スシテ其ノ供給ヲ内地生産ニ仰キツツアル結果ニ外ナラス

從前内地ニ於ケル本品製造ハ舶來品ノ獨占ニヨリテ採算上不引合ノ状態ニアリ隨テ折角据付ケル機械モ殆んど中止スルノ悲況ニ陥リシニ偶々本品ノ贅澤稅賦課以來内地斯業ノ發達顯著トナリ今ヤ敢テ外品ノ輸入ヲ仰カストモ自足シ得ル程度ニ至レリ然レトモ今此ノ贅澤稅ヲ撤廢センカ舶來品ノ輸入ニヨリテ内地生産者ハ採算上到底競争的地位ニ立ツ能ハスシテ斯業ヲ拋棄スルノ止ムナキニ至ルヤニ開ク又逐年旺盛トナレル羅紗ノ類ニ於テモ然リ現今羅紗カ比較的高率ノ關稅ヲ課セラレ居ル關係上之ヲ輸入スルモ高價ナル爲和製品ニ對抗シ能ハサレハナリ若シ關稅ノ引下ヲ見シカ舶來品ハ内地品ヨリ割安ヲ以テ輸入セラレ到底内地品ハ現在ノ生産高ヲ持續スル事不可能ナルヘシ

紙類ハ贅澤品ニ非スレテ必需品ナリ

現今贅澤稅ノ適用ヲ受ケツツアルモノノ内從前ヨリ使用量ノ多キハ「カ」ラードグレースドペーパー及「カ」ラード「マ」ブルペーパーニシテ普通紙ト稱スルモノ之ナリ本品ハ學校ニ於ケル手工用品トシテ又「ハ」メリヤス其ノ

他ノ雜貨、文房具、容器ニ貼用シ又ハ漆ノ代用トシテ輸出玩具ニ貼付シ紡績會社製品用、レックアルトシテ再輸出  
ホラルルノミナラス輕便類ノ商品用、レックアルトシテ原料トシテ缺クヘカラサルモノナリ斯ノ如キモノヲ發澤品  
トシテ取扱フハ意外ノ感ヲ生スルモノニシテ實施當時當業者ハ相共ニ嘆願書ノ提出ヲナセシカ其ノ筋ニ於テ考  
慮スト云フコトトナリテ今日ニ至レルモノナリ

本品ハ發澤課稅前ハ一ヶ月三千連平均ノ輸入ヲ見ヌルモ課稅後ハ一ヶ月百二十連ニ減少セリ蓋レ本品ハ其ノ  
用途廣キ丈ケ輸入品ノミニテ需要ニ應シ難ク之レカ補足ノ爲内地製品ヲ代用スルカ爲ナリ

以來内地工業モ自ラ發達シテ漸次相當ノ製品ヲ造リ得ル狀態トナリタルモ其ノ品質優良ナラス時偶々著色紙關  
稅ノ引上ニ際會セハ爲價格ノミ舶來品ニ追從シテ相當高價ヲ唱ヘタルハ結局消費者ハ從前一連三圓五十錢位ニ  
テ品質優良ナルモノヲ使用シ得タルニ反シ昨今ハ品質ノ割合ニ劣等ナルモノヲ十二三圓ト云フ法外ナ高價ヲ  
以テ使用セサレ可カラサル傾向トナレリ

本法ハ或程度迄ハ内地工業ノ保護トナリタレ共經濟的ニハ大失敗ナリトシ此ノ際發澤稅ノ撤廢ヲ要望スル向モ  
アリ

20) 時計類

時計類ハ我國ニ於テモ最近非常ナル發達ヲ遂ケ就中服部、精巧舍等ノ製品博ク愛用セラレヌルニモ拘ハラズ同機  
械及部品品ノ外國ヨリノ輸入モ亦相當多量ニ上レリ

懷中時計中發澤稅適用ヲ受ケルハ金及白金制時計ニシテ現今ハ金及白金制時計ハ絶無ト云フモ過言ニ非ス之レ  
本法施行以來機械ノミノ輸入ニ増加シ白金ノケースヲ内地ニテ製造シ之ニ適當ナル機械ヲ嵌メテ金又ハ白  
金制時計トシテ販賣スルノ狀勢ナレハ此ノ際本法ヲ撤廢スルト否トニ不拘機械其ノモノノ價格ニ變動ナキ限り  
内地ノ賣値ニ變動無キハ勿論ナリ唯現今ニテハ發澤稅賦課ノ關係上相當ノ密輸入品アルヤニテ此ノ脅威ヲ感ス

ルヤニ仄聞セリ

置時計モ同様ニ機械ノミノ輸入ヲシテ外裝ヲ内地ニテナス爲發澤品該當ノモノハ漸次減少セリ殊ニ本品ハ内地  
ニテ相當ノ製産ヲナレツアル狀態ナレハ懷中時計ト同様機械ノ價格ニ變動ナキ限り假令本法ヲ撤廢スルトモ  
内地賣値ニ變動ヲ來ササル模様ナリ要スルニ現今ニ於ケル本品ノ賣行良否ハ一般景氣ニ支配サルモノニシテ  
本法存置ノ如何ニ何等因果關係ヲ保タサルモノノ如シ

21) 寫眞用フィルム

寫眞用フィルムヲ發澤稅該當品ト認メタルハ偶々本法設定當時大流行ヲ來シ輸入額モ相當多量ニ計上セラレタ  
ルニ由ルモノト思ハル

然レ共本品ハ決シテ發澤品ニ非ス或者ニアリテハ必需品トナリ又或者ニ對シテハ必需品ナラント思フ即チ安  
價ナル慰安物トシテ使用スルノミナラス學術研究ノ材料トシ又ハ新聞雜誌ノ寫眞製版印刷用フィルムニ至  
リテハ必需品タルコト言フ俟タズ今此ノフィルムヲ發澤品トシテ認ムル以上ハ之レト同様ノ性質ヲ有スル寫  
眞用乾板モ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノト思ハル而モ他方ニ於テフィルムハ全然内地ニ於テ製造シ得スト見テ  
差支ナキモ乾板ハ内地ニテ製造シ得ルモノナリ

而レテ本法施行ノ爲消費者ハ施行前ニ比シ餘程ノ高價ヲ以テ使用セサルヘカラサル狀態ニアリ即チ從前一本四  
十五錢位ノ「コダック」用フィルムモ昨今ハ七十錢ノ高價ヲ唱ヘ七割強ノ暴騰差額ハ消費者自ラ負擔スルノ譯合  
トナレリ尙本法施行以來一種ノ密輸入行ハ居ルモノノ如ク云キスルモノアリ

尤モ本法制定當時ハ或ハ止ムヲ得サル事情ノ下ニ置カレタルヤモ計リ難ケレトモ永久ニ之ヲ存續スヘキ性質ノ  
モノナラストシ早晩改正ノ希望トシテハフィルムハ外國製造會社多數アル爲輸入品ニモ亦十數種ノ差別アリ  
隨テ現行法ノ如ク從價稅ニテハ鑑定上ニ非常ナル相違ヲ生スルヲ以テ寧ロ從量稅ヲ適用スルヲ可トセスヤト要

スルニ現時我國情トシテ從前通りニ關稅ノ引下ハ或ハ困難ヲ感ストスルモ或程度迄ノ引下ケハ可能ナルヘシト云フ向モアリ

二、本法ニ對スル意見

(イ) 本法課稅品中稅表第五六〇番銃砲及同部分品ノ内(一)小銃ヲ(二)小銃及同部分品ニ改ムルコト小銃ハ本法ニ依リ十割課稅品ナルニ對シ其ノ部分品ハ然ラサル爲小銃ヲ輸入スルニ當リ完成セル小銃ヲ故ラ分解シテ申告者積載船舶又ハ輸入港ヲ異ニスル等種種ノ作爲ノ下ニ小銃部分品トシテ輸入セムトスル者多キヲ加ヘ一組ノ完成品即チ小銃トシテ輸入申告スル者殆ント稀ナル實狀ニ在リ爲ニ是等不正輸入ニ對シテハ曩ニ主稅局長通牒(昭和二年藏稅第六三四號)ノ趣旨ニ基キ各關相互聯絡通報シ相當取締ノ途ヲ講シツツアリト雖而モ萬全ヲ保シ得サル狀態ニ在リ依テ寧ロ此際小銃ニ對スル十割課稅ヲ存積スルニ於テハ題記ノ如キ改正ヲ加ヘ此ノ種不正輸入ヲ絶滅シ課稅上ノ遺漏ヲ防キ取締上ノ手數ヲ省クヲ以テ良策ト爲スヘシ

(ロ) 「シヤム」、「チース」、「コーヨー」、「紅茶」、「ビスケット」類ノ比較的生活必需品ハ本法課稅品ヨリ撤廢スルコト

右ノ諸品ハ其ノ輸入數量僅少ナルト共ニ現在ニ於テハ殆ント相當社會階級ノ生活必需品トシテ常用セラルル所ニシテ殊ニ嗜好上内地品ヲ以テ代用スルヲ欲セサル在留外國人ニ取リテハ右ノ諸品ノ十割課稅ハ最モ苦痛トスル所ナルヘク本法施行後右諸品ノ輸入カ格別減少セザル事實ニ鑑ミ此種諸品ハ寧ロ本法課稅品ヨリ之ヲ撤廢シ舊稅ニ復セシムルヲ適當ト認ム

(ハ) 本法課稅品中稅表第三三二番「トリミング」第三三三番「トリミング」(一)ノ丙ノ口及二ノ乙ヲ除ク「ト改ムルコト

本品中一部ハ既ニ贅澤品タル域ヲ脫シ實用品トシテ一般ニ普及使用セララルル所ニシテ從テ稅表第三三二番「トリミング」

ヲ首記ノ如ク改正シ特殊贅澤品ヲ除キ其ノ他ハ舊稅ニ復セシムルヲ適當ト認ム

(ニ) 本法課稅品中ヨリ稅表第三九一番寫眞及第三九三番「カレンダー」ヲ除キ尙第三十二番書畫(轉寫用繪畫ヲ除ク)ヲ第三九二番書畫(一印刷シタルモノ但シ轉寫用繪畫ヲ除ク)ト改ムルコト

右ノ諸品中寫眞及「カレンダー」類ハ之ヲ贅澤品ト目スルヲ得サルモノノ輸入大部分ヲ占メ又書畫中肉筆ニ成ルモノハ一般ニ藝術價值多キモノニシテ是亦單ニ贅澤品トシテ高率課稅スルハ時宜ニ適セサルヲ以テ題記ノ通り改正スルヲ適當ト認ム

三、關係統計表

- (イ) 神戸港贅澤稅該當品大正十二年及十三年輸入價額兩年同期比較表
- (ロ) 神戸港贅澤品價額連年比較表
- (ハ) 神戸港主要十割課稅品數量價格表
- (ニ) 神戸港十割課稅品單價表

第一表

神戸港贅澤稅該當品大正十二年及十三年輸入價額兩年同期比較表

月別	大正十三年	大正十二年	増減	歩合
一月	一、五〇四	七、一二四	一、一一二	
二月	一、五七七	七、三五	一、一四四	
三月	一、五九八	一、六五三	〇、〇三三	
四月	一、八九二	八、四三	一、二四三	
合計				

合 計	大正十三年中△ヲ附レタルハ十割課税ノ價額ナリ				
	十 二 月 計	十 一 月	十 月	九 月	八 月 (小計)
二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇
一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二
二、九六六	二、九六六	二、九六六	二、九六六	二、九六六	二、九六六
一、三、五七一	一、三、五七一	一、三、五七一	一、三、五七一	一、三、五七一	一、三、五七一
二、〇九七	二、〇九七	二、〇九七	二、〇九七	二、〇九七	二、〇九七
三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六	一、八二六
二、三二一	二、三二一	二、三二一	二、三二一	二、三二一	二、三二一
七、四六九	七、四六九	七、四六九	七、四六九	七、四六九	七、四六九
五、五九九	五、五九九	五、五九九	五、五九九	五、五九九	五、五九九
四、三五五	四、三五五	四、三五五	四、三五五	四、三五五	四、三五五
一、九、四一九	一、九、四一九	一、九、四一九	一、九、四一九	一、九、四一九	一、九、四一九
一、五、六〇二	一、五、六〇二	一、五、六〇二	一、五、六〇二	一、五、六〇二	一、五、六〇二

注意 大正十三年中△ヲ附レタルハ十割課税ノ價額ナリ

第二表

神戸港養澤品價額連年比較表

品 名 年 別	大正十二年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額
食料品	二、五八二	二、二八六	二、二八六	五、六〇	七、五九	八、九一	八、三五	二、二八六	二、二八六	二、二八六
皮毛角牙甲殼及同製品	二、二二九	二、二二	二、二二	二、〇六	一、二七	一、三七	一、三五	二、二二九	二、二二九	二、二二九
油脂蠟及同製品	二、七八九	四、九一三	九七	三、九〇	一、七四	一、一五	一、一五	二、七八九	二、七八九	二、七八九

品 名 年 別	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額
藥材化學藥及爆發藥	九〇	一五〇	一、二	七六	四四	一七	九〇	九〇
絲織布帛及布帛製品	三、九七二	五、四六〇	六、一五	一、二六六	六、二七	四九〇	三、九七二	三、九七二
衣類及身邊粧飾類	二八九	四六九	二〇六	一一一	四二	六二	二八九	二八九
紙、紙製品及書畫	五九七	五四八	二〇	三七	三五	二八	五九七	五九七
礦物陶磁器及硝子製品	一、六一六	一、〇三八	二四	七五	一〇八	一四九	一、六一六	一、六一六
金屬製品時計學術品及銃砲	一、二三三	一、六八二	二、三〇	二九一	二九九	四三四	一、二三三	一、二三三
雜品	二、二〇〇	二、六三七	一、八〇	三七三	四四一	三、五三	二、二〇〇	二、二〇〇
合計	一五、六〇二	一九、四一九	一九、七七〇	三、五〇九	二、八〇一	二、五四六	一五、六〇二	一五、六〇二

第三表

神戸港主要十割課税品數量價額表

第一食料品

品 名 年 別	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
蔬菜果實	四七、九〇二	二、五〇七、五	七、〇〇〇	二、八、一三三	四、五、五九	二、七、三三三	七、〇〇〇	二、五〇七、五
生果乾果	一、四、五二、六八八	三、三、〇五六	一、二、八〇、九三九	二、〇、九九三	二、四、八二七	一、七、七、三六五	一、四、五二、六八八	三、三、〇五六
紅茶	二〇、九六八	三〇、八四〇	三、四、六四五	五、四、五四七	九、二、四一四	六、四、四七四	二〇、九六八	三〇、八四〇
合計	三八、二六〇	二、七、八〇〇	八、九、〇三〇	五、〇、三二〇	一、三、三、一〇八	四、五、二、六四	一、三、三、一〇八	二、七、八〇〇

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
蜂蜜	四一五	一八三	一、六七五	七八九	一、九三二	一、〇三二	一、九四一	八〇三
菓子類	五三、八八八	五、二四二	七五、五四三	九、八四六	九四、八六一	六六、八九八	七七、五四九	五、七七三
ジュウフルトゼリ類	三、六八五	一、六六一	一、二五三	五、九三八	二、九一七	五、五八九	八、六六九	三、三九八
ビスケツト	一、五九七	一、五一一	四、一四二	二、九五六	一一、九四六	六、六六五	八、七七六	四、一五五
果汁及糖水	七、七四	二、六九七	四八、八六七	二、七三〇	三、三三三	一、四七五	三〇、八一七	一三、八六五
チリ	一一、八四五	一、三三二	二六、九二九	二、九七二	三、四七四	三、三六二	二、四七九	二、〇二二
ウヰ	一六、〇一九	五、一八六	六九、九九七	二、二八八	九三、〇五二	二六、〇三三	七、七四一	二〇、七〇〇
支那酒	三、八八二	二、二七一	四八、四三六	一、〇六八	九、五八五	八、九四七	四、三九五	三、〇六四
麥酒	一三、三七四	二、八九〇	三九、九九五	七、〇二六	五、四九〇	八、二〇三	二八、一三四	四、八六三
其他ノ酒類	三三九	八六	三、五七〇	一、三三二	四、五八六	一、二七〇	四、一九〇	一、三三〇
礦水其他ノ飲料								
其他ノ飲食物 (砂糖入)								
計	五六〇、〇五三	一、一〇〇	七、九四三	二、四四四	八、九二二	二、三三九	一、一五〇	八、三三三

第二 皮毛骨角甲殻及同製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
綿羊皮及山羊皮	四、二〇四	一〇、八九八	二一、七九〇	九〇、八四五	二六、八〇七	九五、三四五	一三、八八一	四二、七六一
皮革			三七〇	七六六	二二二	五一〇		
計								

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
其他ノ毛皮類		四、八八五		一、二七五〇		二、二四六九		四、一八二
羚羊	二四二	三、五〇一	三二一	四、三八五	三四一	四、八七一	三五五	四、五三三
其他ノ革製品		二、七四六		六七一		九七		一、〇一九
羽毛		二七		二一八		四〇		一、〇九〇
羽毛製品		一八		二六六				四九三
象牙製品				二二		六一		二一〇
珊瑚及同製品		二二二		一、五六九三		一一、七三三		五、一六五
其他ノ皮毛角牙製品		一四三		一、九二七		一、四八五		二五八
計	二二、四四〇		一、二七、五四四		一、三、七、六一一		五、九、七一〇	

第三 油脂蠟及同製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
植物性揮發油	二二、五六四	九四、一一一	二七、九一二	三、七、六四九	一六、八七九	一五、三、一一六	一〇、二六六	一、一、三、四七一
石鹼	三、七二二	一、七一八	一四、九六三	六、五八九	五〇、〇一九	一五、四六一	一〇、五五七	三、九二
香水	三一	五四	三八八	六五一	一一、二六	一一、二五八	二〇八	二、九八
香料	五六	七六	六四一	六一八	二、五一八	一、四〇七	二〇八	二、九八
香料付シタル油類								
香料付シタル油類								
香料付シタル油類								
香料付シタル油類								
計	九七、二五二		三、九〇、四四九		一、七、四、〇一六		一、一、五、六六四	

第四 藥材化學藥及爆發藥

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
蒸香性化學藥	二五九	八,三三八	五八〇五	四五四七九	四,九〇四	三五,五三二	一,七三〇	二,九二六
沈香	三二一	五一一八	四,六八六	一七,二九	六,三五八	二,一七九	三,〇三五	
白檀		一二六	一,七八四九	一七,二九	二,三七六	二,六〇〇	七三七	
グアニリン		二,三四二		二,七六五		七〇七	六九一一	
クマリン						五七四	二,七三五	
ヘリオトロピン						三七九	一,一七一	
煙火	三,一八	八四二	一,〇七〇	四二二	九八〇	四四,六七八	一四五	一七,五八七
計		一一,一六六		七六,〇八一		四四,六七八		一七,五八七

第五 絲縷布帛及布帛製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
繅絲(絹入)	二三五	一,四二八	五四	三六一	一四	二八	八八	五三八
亞麻布	八九三〇	一三,八〇二	二,八三九	六七九四	一九	四一	二二〇	五五七
毛天鵝絨	三,二七八	一三,〇二二	七,二二七	二八,八四〇	一,〇二五	八,四四五	二,〇〇	二〇,九九九
毛絨物(絹入)		一〇,八二三		三二,一九三		七,二〇〇		二〇,九九九
絹天鵝絨	三三,八六四	一六六,二二六	八,四四五	三六,九五七	五五,〇九〇	二〇四,八一	一四,九九五	四七,五七八
計		一六六,二二六		三六,九五七		二〇四,八一		四七,五七八

第六 衣類同附屬品及身邊粧飾類

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
絹織物		二,九九九		一〇,八八八		一〇,三三九		一四,八五四
絹メリヤス		三四		二八一		二,一七九		四,六二四
レース地及網地		三三,六四二		三,七七二		四二八		一,六九九
刺繡布		三三,六四二		二,九九六〇六		七,六四〇		一一四,四七一
ゴム入布		一三,五四三		六三五		二六		二,〇四七
手巾		四三,七三三		一,一三三		一〇,〇六六		七,〇三五
地氈		四三,七三三		一八,七〇八		一五,七〇八		二九,五八一
テーブルクロス				七三三		五四		六七二
ベツトクイルト				八二二		七九二		一一四
トリムミンド		一四八,四八五		五二〇,四四五		二九〇,一九六		三三四,二六二
其他布帛製品		一九,一四		六四六		七二〇		一,三二二
計		六二,七七七		一,一六六,四八一		六二七,四七四		四九〇,三二二

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
メリヤス肌衣		三四		一〇		七三		五四七
帽子		三,九〇二		八,三九四		六,九一九		六,四一四
短スリッパ	七九一	四,九九四	二,〇九〇	一,一四三九	五九五	二,三七五	九四二	四,三二〇
計		一,五二四		六〇四		一八		四三八

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
靴	一〇九	七七四	五八	二六一	一四五	五二九	八一	三一四
シューズ、カラー			四一	二九二	一三八	一一九	二四	二一三
雨								
手袋	五、三一四	七七、八九六	一、九三三	二九、二五九	七二六	一〇、五九二	一、七六五	二五、三七一
足袋	二、二三七	二、八九四	七七七	九九二	四八一	六三四	一五	一五二
マフラー	二九	一四一	六五	一二四	三六	八三	二一	六六七
肩掛及襟巻	五、一五二	七二、九八一	二、六七一	三二、七一五	三六六	七、〇九六	七八八	七、九三二
襟飾	五二	一五、七四九	二二六	七、〇八三	三五六	六、二九一	一七五	四、五八六
袴	二七一	三、九〇四	一二五	九二九	一〇一	六五四	二九六	二、〇九〇
衣服用ベルト	二一三	三、一〇六	三七六	三、五八一	一二二	四七五	一五八	八六四
サスペンダー	二九一	三、一一三	三三三	一、〇六七	一、二五四	四七五	四五六	一、〇一六
身邊粧飾用細貨								
衣類(新又ハ毛皮製)								
計	二〇六、五二五	二、五八九	一一一、八〇七	六、三八三	四二、〇一六	二、七二六	六二、四五〇	六二、四五〇

第七 紙、同製品及書畫

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
書籍	六、六九五	九、七三三	一一、一八八	一四、〇七六	一一、七三二	一七、二四一	一三、二三〇	一三、六五〇
着色紙	九	四四三	二六二	九四四五	三四六	一一、〇四〇	二七一	七六九〇
計								

第八 礦物礦物製品陶磁器硝子及硝子製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
アルバム	五五六	六七七	六〇八	八一	九	一六	一〇四	一〇二
骨牌	七二六	一、五二〇	三、五一三	七、六九七	三五一	七六八	四七	一一二
寫真								
カレンダー								
繪葉書	九五	一、五五	三六九	四二四	四〇四	二、九〇二	二一〇	二、九〇二
クリスマスカード					二〇二	八四		五七四
計	二〇、三八四		三七、九一〇		三五、九三一		二八、七三一	

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
貴石		四、六〇〇		三七、四〇七		六七、五八二		一〇四、九一五
半貴石製品		一〇		四、〇四二		二、七五六		五、四三七
石及製品		一、四九四		五、六一一		七、六四四		九、〇七五
石膏製品		七四		二〇四		五五三		一、二九四
陶磁器		八、〇四五		一九九一〇		一六、四七二		一一、一七四
眼鏡		一三四		七、八五二		一三、一七一		一六、三一〇
硝子製品		二四、三九三		七五、〇二六		一〇八、一七八		一四九、〇四七
計								

第九 金屬製品時計學術品及銃砲

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
雙鏡金線	一九七	一、二七九	四九二	三、七〇二	二二二	二、九八八	二八	一、二八
(貴金屬ヲ鍍シタルモノ)								
フオーグ及スポン	四〇五二	三、二七八				八八		二六七
(貴金屬ヲ鍍シタルモノ)								
貴金屬製品		三、八八九		一、六二八		三〇九		七五五
懷中時計	一三	四六六		一、一九二		一、五三二		九、〇五二
(白金又は金製)								
時計	二、八四三	二〇、一四九	八六	七、五二二	二、八四九	一、四七七	三三	一、五、四六九
(同計)								
置時計	七、七四	一三、九〇九	一、五四九	三、七九七	二、〇三三	四、三九四	二五七	四、三三六
寫真器	三、四八	一六、七五〇	一、四九三	三、七九七	二、六三七	四、六八七	五、六四	六、八三七
同部分								
音機	一九〇七八	三、〇〇二	五九五	二、四八五	二、二六三	八六七	九、二〇〇	六、八三七
同部分附屬品								
雙眼鏡及雙眼鏡	一	三九	二	三九	一、一三三〇	三、三三四	一	三、三三四
感光性フィルム	二、五九九	八、二五二	三、九六三	一、四九八	二、二六三	二、二六三	八、三〇七	二、九二、八四一
(寫真用)								
小銃	六、五四	三、七八一	三八	一、四三九	二	五四二	三六	一、〇七九
計	二、三〇、三九一	三、三〇、三九一	二、九一、三八四	三、三〇、三九一	二、九一、三八四	三、三〇、三九一	二、九一、三八四	三、三〇、三九一

第十 雜品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
唐木	二、七八七	七、三六〇	三、七九九	三、〇三三	二、九八五	二、九八五	三、三二一	二、八、五〇四
傘柄杖鞭及手	五、二五六	六、四六五	一、六三六	二、六六九	二、六六二	四、〇五二	七、五六五	六、〇四三
(絹張)								
唐木製品	二、六二七	一、六二二	五、四六四	三、一八九	一、七〇二	一、八七三	四、三三七	一、〇〇一
遊戯具		七四		四九四		一六三		二、一〇五
化粧具		一、五、三三三		二、五、九九九		三、一、五七二		四、九、六八九
靴具		二、二九四		三、七五		三、七五		三、一一
靴具		一、五、五八九		一、九、五二四		一、〇、九九九		一、四、四五五
諸雜品		三、八、五七四		一、八、五〇七		三、八、〇九三		一、四、六六七
小包郵便物		三、〇、三一九		一、五、二四二		一、〇、五二二		八、〇〇二
旅客携帶品		六、九、〇六六		二、九、八八四		二、三、三九〇		一、七、一六五一
計	一、八〇、八四三	三、三〇、三九一	三、七三、四七七	三、三〇、三九一	三、四四一、三五四	三、三〇、三九一	三、三〇、三九一	三、三〇、三九一



十割課税品單價表

品名	主ナル輸出國	單位	單價				用途
			大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年	
蔬菜果實	米、英、佛	斤	五三	三八	三六	食用	
生果乾果	支、米、英	同	二三	一六	一七	同	
紅茶	支、印	同	一、五〇	一、五七	一、七〇	飲料	
蜂蜜	獨、加、印、米、英	同	九八	五六	五四	同	
菓子	米、英、佛、獨	同	四四	四七	五二	食用	
シヤムフルツゼリ類	米、英、露	同	九七	七九	七〇	同	
果汁及糖水	佛、英、米、獨	同	四五	五三	四三	同	
チロ	英、米、露、佛	同	三五	四四	四一	同	
ビスケツト	英、米	同	一、一〇	一、一〇	九七	同	
ウヰスキ	英、佛、獨	利	九五	七〇	六〇	同	
支那酒	支	同	三、二〇	三、三〇	二、八〇	飲料	
麥酒	獨、英、比	同	五八	五五	八〇	同	
其他ノ酒類	英、佛、露	同	二、一五	一、七五	一、五〇	同	
礦水其他ノ飲料	佛、獨	同	三六	三四	二六	同	

其他ノ飲食物	佛、米	同				食用
綿羊皮及山羊皮	支、米	斤		二、〇七	二、四〇	衣料
塗革	米、獨	同	二、六〇	四、四〇	三、五五	同
毛皮	支、英、米、露	同			三、〇九	同
其他ノ革製品	英、佛	同	一、五〇六	一、三、六〇	一、四、三〇	裝飾用
羽毛	英、米	同				同
羽毛製品	英、支	同				同
象牙製品	英、米	同				同
珊瑚及製品	支、伊	同				同
植物性芳香揮發油	英、佛、獨、伊、支	斤	四、一七	一、三、六〇	九、〇七	香水、化粧料
石鹼	佛、英、米、獨	同	四六	四三	三一	化粧料
香料	同	同	一、七〇	一、六五	一、三五	同
薰香	同	同	一、三〇	九六	五六	同
蠟燭	同	同				同
蠟燭製品	同	同				同
齒粉	同	同				同
其他ノ調合	同	同				同
香料	同	同				同
薰香性化學藥	同	同				同
沈香	支、暹	同	一、九八	八二	一、三〇	同
白檀	支、暹	同				同
白胡椒	印、支	同	四〇	一一	一七	同
クマリン	英、佛、獨	同				同



繪葉書	米	獨	斤	一、六〇	一、二五	二、〇〇	二、七三	美術品
クリスマスカード	米	獨	斤					同
貴石	印英、佛、伊							裝飾品
半貴石製品	伯支英、米、印							同
石及石製品	支英、佛、獨、伊							同
石膏細工	佛、獨							美術品
陶磁器	支英、米							裝飾品
眼鏡	同							同
硝子製品	英、佛、支、獨、白米							同
鍍金線	獨、佛		斤	六、五〇	七、〇七	一三、〇〇	四、二二	同
銀	佛、英、獨、米							同
銅	英、獨、米、佛							同
懷中時計	獨、米、佛、瑞、英		個	三五、八〇	一三、八六	二七、九一	四五、七〇	同
同	(白金文ハ金剛)				八、一〇	一三、四〇	一六、九〇	同
同	(白銀文ハ金剛)				四、八〇	一、五四	二、六二	同
置時計	同				七、〇八	四、八〇		同
寫真器	米、獨、英							娛樂品
著音機部分品及附屬品	同							同
雙眼鏡及雙眼鏡	英、佛、獨		個	三九、〇〇	一一、〇〇		三八、〇〇	裝飾品

フイ	米、獨	斤	三、一七	三、六〇	四、一三	三、五〇	娛樂品
小銃	米、英、白、獨、瑞	個	五六、〇〇	三七、五〇	四五、〇〇	二五、一九	同
唐木	支、米、英、香	斤	六	七	八	八	裝飾品
傘柄、杖、鞭等	英、佛	同					同
傘 (絹張)	英、米	個	一一、七〇	一〇、二〇	一〇、四〇	七、一〇	同
唐木細工	支、印	斤	六一	五八	一一、一〇	五〇	同
造花	獨						同
遊戯具	支、英、米、佛、獨						娛樂品
靴	米、獨、佛						同

騰貴セルモノ 五二品  
 下落セルモノ 九六品  
 高低ナキモノ 五三品

大阪税關長答申

大阪港ニ於ケル釐澤稅品ノ輸入狀況ヲ見ルニ、大正十三年(八月以降)百十萬圓、大正十四年百三十九萬圓、昭和元年百八十五萬圓、昭和二年百五十九萬圓、昭和三年(四月迄)五十五萬圓ニシテ釐澤稅法ノ實施ニ因リ一時之カ輸入減退ノ事實ヲ認メ得タルモ、同法實施後最近ニ至ル迄ノ狀勢ハ判然タル漸減ノ傾向ヲ示スニ至ラサルカ如シ。大正十四年ハ大阪港外國

貿易價額ノ最高記録ニ達シタル年ニシテ翌十五年ハ其ノ輸入總額約一割弱ノ減少ヲ呈シタルニ拘ラス贅澤稅品ノ輸入額ハ前年ニ比シ却テ三割以上ノ増加ヲ示セリ。昭和二年ニ於ケル贅澤稅品ノ輸入額ハ前年ニ比シ約一割四分ノ減少ヲ呈セルモ輸入總額モ亦六分弱ノ減少ヲ示セルカ故ニ必スシモ贅澤稅品ナルカ爲ニ減少ヲ來セリト斷スルヲ得サルカ如シ。又各品目別ニ付之ヲ見ルモ殆ント其ノ明瞭ナル傾向ヲ發見スルヲ得サルモノ多シ。昭和二年ニ於ケル贅澤稅品輸入額百五十九萬圓ハ輸入總額二億六千四百萬圓ニ對比シ僅ニ其ノ六厘ニ過キス又同年贅澤稅品ニシテ十萬圓以上ノ輸入アリタルモノハ蔬菜果實及核子、植物性揮發油、刺繡布、トリムミシグ及花梨木鐵刀木類等アルノミ。

惟フニ贅澤稅品ノ輸入ハ前述ノ如ク其ノ輸入稅ノ急激ナル變化ニ因リ一時頓挫セシメラレタル事實ハ之ヲ認ムルヲ得ヘキモ(一)純然タル贅澤品ト目スヘキモノニ在リテハ其ノ價格ノ昂上ハ却テ主觀的價值ノ増進ヲ來サシムルモノナルカ故ニ關稅ノ引上ヲ以テ需要者ノ虛榮的慾望ヲ絶滅スルヲ得サルモノアルヘク(二)或種ノ物品ニ在リテハ製造業者又ハ輸入商等ニ於テ増徴關稅ノ一部ヲ負擔シ關稅影響ノ全部ヲ消費者ニ及ホササルモノアルヘク(三)或種ノ物品ニ至リテハ其ノ生産費ノ低廉又ハ品質優良等ノ事由ニ因リ十割關稅ノ障壁ヲ突破スルヲ難シトセサルモノアルヘク(四)或種ノ物品ニ至リテハ不正手段ニ依リ輸入セラルルカ故ニ其ノ關稅ハ全部消極的ニ國家ノ負擔ニ歸シ消費者ニ對スル關係ニ於テハ關稅ノ撤廢ト何等擇フ所ナキニ至リ其ノ輸入數額ノ夥シカリシモノニ在リテハ正當手續ニ依ル輸入品ノ市價

ヲ崩壞セシメタル事例ナキニ非ス(五)或種ノ物品ニ在リテハ贅澤稅カ完成品ノミニ適用セラレテ其ノ部分品ニ及ハサルコトヲ利用シ巧妙ナル分割輸入ヲ企圖シテ贅澤稅ノ負擔ヲ免レムトスルモノアリ。其ノ著シキ事例トシテハ小銃ノ分割輸入ヲ擧クルヲ得ヘシ。之ニ關シテハ客年來各稅關間相互通報ヲ勵行シテ完成品課稅ノ徹底ニ努メツツアレトモ其ノ實績ニ徴スレハ徒ニ勞多クシテ功少キノ憾アルヲ免レサルナリ。

右ノ如キ諸種ノ事由ニ依リ贅澤稅法ハ年所ヲ經ルト共ニ其ノ當初有シタリシ強烈ナル刺戟力ヲ失ヒ恰モ藥劑ノ習慣的服用ト共ニ其ノ藥效ノ次第ニ減少シ行クカ如ク今日ニ於テハ實施當時ニ於ケル其ノ主要ナル作用ハ微弱トナリ寧ロ希望若ハ豫期セサリシ其ノ副作用ノミ却テ顯著ナル働キヲ爲シツツアルカ如キ實況ニ非サルカヲ疑ハシムルモノアリ。今之ニ關シ二三ノ事例ヲ擧クレハ左ノ如シ。

贅澤稅法ノ實施ニ依リ最モ著シキ影響ヲ受ケタルモノノ一ハ犯則ノ取締及檢擧等ニ關スル事務ノ増加ニシテ、支那ノ沿岸諸港殊ニ大連港ヲ足場トシテ組織的且職業的ニ贅澤稅品ノ不正輸入ヲ企圖スル者頗ル多シ。「ヘヤネット」、寫眞器、「フィルム」及毛皮類等其ノ最タルモノニシテ大阪稅關檢擧ニ係ル贅澤稅品ノ密輸入額ハ大正十四年四千七百餘圓、大正十五年十萬六千餘圓、昭和二年千七百餘圓、累計十一萬三千餘圓ニ上レリ。

次ニ贅澤稅法實施ノ影響トシテ最モ留意スヘキハ同種内國産品ニ對スル内地奢侈稅法ノ制定ナカリシヲ以テ本來本法ノ目的トスル所ニ非サリシ保護關稅的ノ作用ヲ結果シ十割關

税ノ保障ノ下ニ其ノ生産ノ勃興ヲ見ルニ至リシモノアルコト是ナリ。之ニ關シテハ大阪税關管内ニ於テハ大阪市ニ於ケル香料ノ製造事業ヲ擧クルヲ得ヘク目下之ニ從事スルモノニ鹽野吉兵衛商店、合名會社小川商店及中山化學研究所アリ。其ノ他艶紙、「スキー」用具ノ製造ノ如キ亦之ニ屬ス。京都市ニ於テモ「トリムミシグ」用「レース」、人造絹「シール」編肩掛及人造絹「シール」織物等ノ如キ製品ノ製造勃興シタルモノアリテ是又主トシテ贅澤税法ノ保護的作用ノ下ニ成立セルモノト認ムルヲ得ヘシ。

又贅澤税法ノ施行ニ當リテハ輸出貿易ニ支障ヲ及ホササル様夫夫措置セラレ輸出品ノ原料トシテ使用セラルル物品ハ大正十四年ノ同法改正ニ於テ大部分ノ削除ヲ見又其ノ然ラサルモノニ付テハ保税工場ヲ利用スルヲ得ヘキモ目下贅澤税法關係ノ爲其ノ利用ヲ爲シツツアルハ大阪税關管内ニ在リテハ合名會社春元石鹼製造所、合名會社小川商店及今井安太郎商店アルノミニシテ諸般ノ關係上輸出品ノ原料ニシテ贅澤税ヲ負擔シ多少ノ程度ニ於テ輸出貿易ノ「ハンディキャップ」タルモノアルハ疑ヲ容レサル所ナリ。

加之、所謂贅澤品ト目セララルルモノモ或種ノ生活狀況ノ下ニ於テハ必需品ト認ムヘキモノ尠カラス。例ヘハ紅茶、「コーコー」、「ジャム」、「チーズ」類等ノ如シ。此種ノ物品ニ對スル贅澤税ノ課徴ハ消費ノ節約ヲ意味スルニ非スシテ或意味ニ於テハ消費ノ懲罰ヲ意味シツツアルモノトモ謂フヲ得ヘシ又「パンクロマチツク」、「フィルム」、「スベクトラム」撮影専用ノ「フィルム」等ノ如ク純學術用品ト認ムヘキモノニシテ尙贅澤税ヲ課セラレツツアルモノアリ。

又彼ノ書畫類ノ如キモノヲ悉ク贅澤品等ト見ルコトハ國民ノ文化生活上果シテ妥當ナルヤ疑ハシキモノアリ。

之ヲ要スルニ贅澤税法カ其ノ實施當時ニ於テ國民精神ニ對シ相當ノ刺戟ヲ與ヘ其ノ覺醒ヲ促シタル事實アルコト疑ヲ容レヌ又其ノ物質的影響ニ至リテモ尠カラサルモノアルヘシト雖、同法實施以來既ニ四年ニ近ク、所謂其ノ「當分」内ナル期間ハ大體經過セルモノト謂フヲ得ヘク、又之ヲ國際通商ノ通義ニ鑑ミルモ此ノ種課税ハ非常ノ際ニ留保スヘキ變則的手段ナリトスヘシ。遮莫、當時同法ノ制定ヲ必要トスルニ至リタル事由カ今モ尙我國民經濟上重要ナル意義ヲ失ハサルモノトセハ、同法掲記ノ物品ニシテ純然タル贅澤品ト目スヘキ或種ノ物品ニ對シ當分ノ間十割關稅ノ賦課ヲ續行シ行クハ我國民精神ノ緊張ヲ維持スル上ニ於テ必要ノ措施タルヘキモ、爾餘ノ物品ハ此ノ際總テ之ヲ同法中ヨリ削除スルヲ妥當ナリトスヘシ。但シ同法ノ實施ニ伴フ保護關稅的作用ノ下ニ成立シタル製造業ニシテ將來發達ノ見込アルモノニ對シ相當ノ保護ヲ加フルコトハ穩當ノ措置ト思料セラル。尤モ之ニ對スル保護ノ程度ハ他ノ産業ニ對スル保護ノ程度ト權衡ヲ失セサラシムルヲ要スヘク、十割關稅又ハ著シキ高率ナル關稅ノ下ニ於テノミ存立シ得ルカ如キ贅澤品工業ノ如キハ我國民經濟上存在ノ理由ニ乏シト謂ハサルヲ得サルヘシ。

一、 奢侈關稅實施後ノ狀況ヲ觀ルニ本法施行前ニ比シ贅澤品等ノ輸入價額ハ約四分ノ一乃至五分ノ一ニ低減シ奢侈抑制輸入防遏ノ目的ヲ完全ニ達成シタルモノト斷スヘシ

大正十一年	一九五、三七二圓
大正十二年	一七九、六六三圓
大正十三年 自一月至七月	一六七、二五二圓
大正十三年 自八月至十二月	一七、七四二圓
大正十四年	五五、二三五圓
昭和元年	六五、六二一圓
昭和二年	七二、二二〇圓

惟フニ高率ナル關稅カ密輸入ヲ誘致スルノ傾向ハ動カスヘカラサル事實ナルカ如シ從來密輸入品ハ主トシテ絹織物翡翠毛皮等ニ限ラレタルモ本法施行後ハ其範圍著シク擴大シ犯則事件ノ大部分ハ所謂十割稅品關係ノモノニ屬スル狀態ナリ然レトモ單ニ如上ノ事實ヲ以テ奢侈關稅ノ存在理由ヲ否定セントスルカ如キハ妥當ナラス

要之本法ノ存置ハ輸入防遏奢侈抑制ノ必要カ實施ノ當初ト何等變化ナキ現狀ニ於テハ何人モ異論ナカルヘシサレト冷靜ニ輸入ノ狀況ヲ觀察スル時ハ本法ニ内在スル多少ノ缺陷ナ

シトセス故ニ此等ノ諸點ハ此際適切ナル改善ヲ加フヘキモノト信ス

二、

當管内ニ於ケル贅澤品等ノ品目別輸入狀況ヲ觀ルニ大部分ハ本法實施後輸入減退シタルモ尙反對ニ増加セルモノモアリ

(一) 本法施行後輸入減退セルモノ左ノ如シ斯ノ如ク多數ノ十割稅品カ一齊ニ減退シタル點ヨリ見レハ本法所期ノ目的ノ一半ヲ達成セルモノト謂フヘシ

茶	砂糖ヲ加ヘサルココロ	シヤム、フルトゼリー類	砂糖ヲ加ヘサルビスケット	果汁及	
糖水	チーズ	醸造シタル支那酒	別號ニ掲ケサル酒類	石鹼	薰香ヲ附シタル油、脂、蠟及其
ノ製品	香水	煙火	麻織物及麻縮交織物	絹織物及別號ニ掲ケサル絹入織物ノ其他	毛製又
ハ毛入ノ地氈	磚子ヲ除キタル別號ニ掲ケサル陶磁器	置時計	寫真器	蓄音器	單ニ切り挽
キ又ハ割リタル木材ニレテ花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀及黑檀(縞黑檀ヲ除ク)	品ノ其ノ他	別號ニ掲ケサル木製			

(二) 本法施行後輸入増加セルモノ左ノ如シ此等ノ諸品ハ本法施行ニ因リ却ツテ輸入増加ノ變態的現象ヲ呈セリ

三、

奢侈關稅實施ノ狀況ヨリ觀察シテ此際本法ノ課稅品目ヨリ除外スルヲ適當ナリト認ムルモノ左ノ如シ

税目番號 三一 蔬菜、果實及核子

(理由) 在住外人ノ生活必需品ニシテ本法施行後ニ於テ數量、價格共ニ著シク増加セルヨリ考フルトキハ撤廢ヲ可トス

税目番號 三二 茶

同 三三 マーテ其他ノ茶代用品

同 三六 コーヒー

(理由) 咖啡ト同一ニ取扱フヲ可トス

税目番號 四六 シヤム、フルートゼリー類

同 五二 チーズ

(理由) 生活必需品ニシテパタートノ權衡上除外スヘキモノト認ム

税目番號 七二 革類

(理由) 學生用帽子ノ底、軍帽用顎紐、女子制服用バンド等製造原料トシテノ需要多ク且奢侈贅澤品ヲ以テ

律スヘキモノニアラス

税目番號 九五 植物性揮發油(芳香性ノモノ)

同 一三八 沈香

同 一三九 白檀(ニ其ノ他)

同 二二一 ヴァニリン、クマリン、ヘリオトロピン、其他ノ別號ニ掲ケサル調製蒸香料

同 二二九ノ内 人造香料

(理由) 以上五品ハ原料品ナルヲ以テ除外スルヲ適當トス、九五芳香性揮發油中石鹼原料タルモノハ既に

除外サレタルモノ多キニ於テヲヤ

税目番號 二三四 煙 火(船舶ノ用ニシテガナル、レツド、ライト)

(理由) 船舶遭難ノ場合危險信號ニ使用セララルモノナルカ故ニ除外例ヲ設クルヲ可トス

税目番號 二九三 カードカレンダー及プロックカレンダー

同 三九四 繪葉書

同 三九五 クリスマスカード類

(理由) 廣告用品、宗教其他簡單ナル通信用ノモノニマテ十割稅ヲ課スルハ稍々酷ナリ

### 門司税關長答申

#### 第一 贅澤品等ノ輸入税引上ニ關スル法律實施ノ狀況

##### 一、贅澤品等ノ自大正十二年至昭和二年輸入狀況

管内輸入贅澤稅該當品ノ一般狀況ハ別表第一ノ如シ尙之ヲ細說スレハ

(一) 一般貨物トシテ輸入セラレシモノ

大正十二年	内		大正十三年	内	
	自	至		自	至
一四二、九五五圓	七月	十二月	一五二、五四八圓	七月	十二月
六一、八九一圓	七月	十二月	五八、八八一圓	七月	十二月
八一、〇六四圓	七月	十二月	九三、六六七圓	七月	十二月

大正十四年 一三三六八八圓  
 大正十五年 六〇一七六圓  
 昭和元年 二〇九九四圓  
 昭和二年

大正十三年ハ釐澤税法實施ノ年ナルニ不拘其前年ニ比シ却テ九五九三圓即約六歩七厘ノ増加ヲ示シタルハ自一月至七月間即法律實施前ノ期間ノ輸入額カ十二年同期ノソレヲ遙ニ凌クノ狀況ヨリ觀テモ大體所謂見越輸入ニ因ルモノナルヘシト推想シ得ルカ如ク實際ニ於テ該法實施ノ直ニ寫眞用フイルム、紅茶、菓子、蓄音器及紫檀製品ノ輸入激増シタルカ爲メナリ而シテ大正十三年以後ハ逐年輸入減退シ昭和二年ニ至リテハ僅ニ二萬九百九十四圓ニシテ實施ノ前年即大正十二年ノ輸入額ノ約七分ノ一二減少シタリ

斯クノ如ク追年輸入ノ遞減スルニ至リタルハ經濟界ノ不景氣益々深刻ニシテ賣行不振ナル爲メ一般的ニ輸入減退ノ氣配アリタルト國內物價ノ低落シタル結果輸入價格ニ低下ヲ來シタルニ因ルト雖モ其ノ減少度ノ著シキヲ見レハ又以テ釐澤税法實施ノ結果ナリト云ハサル可カラス次ニ釐澤税該當品ノ重ナルモノノ輸入額ニ就テ見ルニ別表第二ニ示ス如ク釐澤税目ニシテ輸入價格千圓以上ノモノハ大正十二年ニ於テ十八種、同十三年ニ於テハ釐澤税法實施前期ニ十六種、實施後期ニ十二種ヲ數ヘタルカ十四年以降ハ毎年僅々七、八種ニ過キサルニ至リ殊ニ從來輸入額相當ニ上リタ

ル乾果(主トシテ干柿)、酒類(主トシテウヰスキー)、石製品(主トシテ蠟石製品)、陶磁器(主トシテ支那火鉢)、寫眞器及同部分品、紫檀製品ノ如キニアリテハ該法實施後ハ輸入急激ニ減少シタルカ又ハ全然輸入ナキニ至レリ但シ「ココロ」ニ就テハ釐澤税法ノ實施ニ不拘毎年其輸入額殆ント變化ヲ見ルコトナキハ當關管内所在數多ノ菓子製造所ニ於ケル製菓原料トシテ需要減少セサルニ因ルモノナリ

(二) 小包郵便物トシテ輸入セラレシモノ  
 當關管内ニ小包郵便ニ依リ輸入セラルル一般品ノ輸入價格ハ年間六十萬圓ヲ上下シ此ノ内釐澤税該當品ノ輸入額ハ最近五ケ年間ノ平均約三萬一千圓ニシテ全小包郵便輸入額ノ約二十分ノ一ヲ占ム而シテ之ヲ各年ニ付テ見ルニ

大正十二年	三四二五五圓	內	自七月	二〇、一五五圓
			至八月	一四、一〇〇圓
			自十二月	
大正十三年	四五六一三圓	內	自七月	二九、一五六圓
			至八月	一六、四五七圓
			自十二月	
大正十四年	二二、一一四圓			
大正十五年	三五、八三〇圓			
昭和元年	二一、六三五圓			
昭和二年				



ニシテ贅澤税法實施ニ因ル影響ヲ認メ難キカ如キモ大正十三年ニ於ケル輸入額ノ激増ハ別表第三ニ示スカ如ク該税法實施直前ニ萬年筆(七、七九〇圓)及貴石類(五、七六〇圓)ノ見越輸入アリシニ因リ大正十五年度輸入額カ前年度ニ比シ六割以上増加セルハ獺毛皮一萬七千三十二圓ノ輸入アリシニ因ルモノニシテ之ヲ除クニ於テハ同年ノ輸入額ハ約其ノ半額ニ減ス故ニ小包郵便ニ依ル贅澤税該當品ノ輸入ニ於テモ亦該法實施後漸次減退ノ傾向アルヲ認メ得ヘシ

(三) 旅具扱トシテ輸入セラレシモノ

大正十二年以來昭和二年ニ至ル迄ノ輸入額ハ

大正十二年	二四、五二五圓	内	自七月	至七月	一四、六八三圓
			自八月	至十二月	九、八四二圓
大正十三年	二五、六三二圓	内	自七月	至七月	一九、六八九圓
			自八月	至十二月	五、九四三圓
大正十四年	九五、一七圓				
大正十五年	一六、六七二圓				
昭和二年	二、三、四二圓				

ニシテ大正十三年自一月至七月ノ期間ニ於テハ見越輸入ノ爲メニ増加シタリト雖モ其後ハ減少シ同年末迄及十四年ニ於テハ著シク減少シ而シテ十五年以後ニ於テハ輸入漸次増加スルノ傾向アリ而シテ別表第四ノ示ス如ク大正十五年以來輸入額ノ増加シタルハ大體ニ於テ紫檀製品、絹布類(緞子其他ノ支那絹布)、寶石及貴金屬類(身邊裝飾用細貨類)、毛皮(獺毛皮)、遊戲具(主トシテ麻雀)ノ五種ニシテ其増加ノ原因ヲ考察スルニ

- 一、輸入増加ノ著シキ紫檀製品ハ關門附近ノ支那商人ノ手ニ依リ輸入セラレタルモノ大部分ニシテ旅客携帶品扱(托送品)トシテ輸入スルヲ以テ輸入ノ手續簡易ナリトナスニ因ルモノ、如シ
- 二、絹布類、寶石類及貴金屬類、毛皮類ハ支那方面ヨリ來ル旅客ノ殆ント就レモカ携帶シ來ルヲ普通トスルモノナルガ大正十五年以來ノ銀相場低落ニ連レ彼地ニ於テ之等物品ヲ比較的格安ニ購ヒ得ルカ爲メ自然之等ヲ携帶シ來ル旅客多クナリタルコト
- 三、内地ニ於ケル麻雀遊ノ流行ニ伴ヒ麻雀ノ輸入ヲ増加シタルコト

以上各種ノ原因ト相俟ツテ旅具扱物品ノ輸入額ヲ増加セシメタルモノノ如シ

第二 贅澤税法實施ト犯則  
大正十二年以來昭和二年ニ至ル迄ノ間ニ於ケル贅澤税該當品關係ノ犯則件數及其犯則物ノ價額ハ左ノ如シ

年 別	檢舉件數	件 處		價 額		有 意	
		件數	處	價額	分	件數	價額
大正十二年	六	五	一	四四一七〇		一	三〇〇〇〇
大正十三年	六	五	一	四〇〇六〇		一	三一六〇
大正十四年	一二	七	五	一八二九〇		五	二九二六〇
大正十五年	一二	七	五	四七二七五		五	一三五〇〇
昭和元年	四三	二五	一八	二二三三二四		一八	四四一〇四
昭和二年	一九	四	一五	八九一五六		一五	八七五〇〇

贅澤税法實施後ハ犯則件數漸次増加ノ傾向アリテ犯則物件ノ多クハ身邊裝飾用細貨類、絹布、黧毛皮ノ如キ身邊ニ隱匿シ易キモノナリ

### 第三 贅澤税法實施後當關管内ノ産業ニ及ホシタル影響

贅澤税實施ノ爲新ニ工業ノ起リタルモノナキモ其影響ヲ受ケ生産額ヲ増加シタルモノ左ノ如シ

#### 一、陶磁器

製造所 東洋陶器株式會社

(設立大正六年五月、資本金公稱二百萬圓拂込百十七萬五千圓、從業者約八百名)

當社ハ飲食器ノ製造ト共ニ特ニ輸入品防遏ノ目的ヲ以テ衛生陶器ノ製造ニ着手シ偶々贅澤税法ノ實施ニ依リ好況ニ向ヒ其ノ生産額ヲ増加シ目下飲食器物約百萬圓衛生陶器約五十萬圓ノ年産額ヲ製造シツツアリ

#### 一、支那火鉢模造品

製造所 大里窯業所

(設立大正五年、資本金個人經營ニ付キ不詳、從業人員四名年産額約六千圓)

#### 一、石鹼

製造所 日華製油株式會社

(設立大正七年八月、資本金四百萬圓全額拂込、從業人員八百名)

當社ノ主製品ハ大豆油、菜子油ニシテ年産額七百萬圓ニ達シ其ノ副産物タル油滓ヨリ年産額約十萬圓ノ石鹼ヲ製造シツツアリ

### 第四 贅澤税法實施ニ對スル意見

贅澤税品關税法實施ノ結果ハ前記ノ如ク奢侈品ノ輸入減退シ以テ奢侈抑制ノ效果アリタリト認ムヘク而シテ其施行上ニ於テ多少ノ困難アリ且犯則事件ヲ多カラシメタリト雖現下國民ノ經濟思想ニ考ヘ尙之ヲ存續セシメ以テ益々消費節約ノ精神ヲ一般國民ニ徹底セシムルノ要アリ但シ本法實施ノ結果ニ徴シ多少修正加除ヲ要スルモノアリ左ニ之ヲ述フヘシ

一、贅澤税品目表中ノ總稱の名稱ニ制限ヲ附スルカ又ハ之ヲ細目名ニ改ムルコト

贅澤税品目表ニハ總稱の名稱ニテ掲ケアルモノ相當多ク爲ニ贅澤品ナラサル物ヲモ重課スルノ缺點アルヲ以テナリ

(制限又ハ細目名ノ決定ニ付テハ各關ヨリ本省ニ提案スルコトトシタシ)

一、完成品ニ贅澤税ノ課セララルモノハ其ノ部分品ニ對シテモ亦同税ヲ課スルコト

輸入税表第五六〇號ノ一小銃ノ如キ其ノ部分品ニ對シテ贅澤税ヲ課セラレサルモノニアリテハ完成品ヲ分解シ部分品トシテ輸入シ重税ヲ免ルモノノ缺陷アリ

一、贅澤税品ノ税率ニ差等ヲ設クルコト

貴金屬製品、寶石、裝飾品ノ如ク眞ニ奢侈品ト目セララルモノニ十割ノ重税ヲ課スルハ正ニ當然ノコトナレトモ食料品、生活必需品、運動用具、器具ノ如キニ對シテ等シク同率ヲ課スルハ酷ニ過クルノ嫌アリ仍テ之等ニ對シテハ現行率ヨリ幾分低率ヲ課シテ之カ緩和ノ途ヲ講スルノ要アリ  
低率トナスヲ適當ト認メララルモノハ左ノ如シ

飲食物

輸入税表第三二號 茶

同 第三六號 「コーヒー」

同 第四六號 「ジャム」  
「フルーツ」  
「ジェリー」類

同 第五四號 「チーズ」

油脂製品

輸入税表第一一七號 石鹼(薫香ナキモノ)

衣類同附屬品

輸入税表第三四五號 「シャツ」  
「フロンツ」  
「カラー」及「カフス」ノ中綿製ノモノ

同 第三四七號 手袋ノ中綿製ノモノ

同 第三五〇號 襟飾ノ中綿製ノモノ

- 同 第三五一號 袴釣ノ中綿製ノモノ
  - 同 第三五二號 衣服用「ベルト」ノ中綿製ノモノ
  - 同 第三五三號 「スリーヴ」  
「サスペンダー」及「ストッキング」  
「サスペンダー」類
  - 同 第三五五號 靴其他ノ履物(「エナメル」靴又ハ「ダンス」用ノモノヲ除ク)
- 紙製品
- 輸入税表第三八四號 「アルバム」ノ中紙表装ノモノ
  - 同 第三九一號 寫真(藝術寫真ヲ除ク)
  - 同 第三九四號 繪葉書(紙製ノモノ)

陶磁器及硝子製品

輸入税表第四三九號 (別號ニ掲ケサル陶磁器)ノ二其ノ他

同 第四五七號 (別號ニ掲ケサル硝子製品)ノ二其ノ他(「カット」  
「グラス」ヲ除ク)

雜品

輸入税表第六三六號 寫真用「フィルム」

同 第六四〇號 運動用具

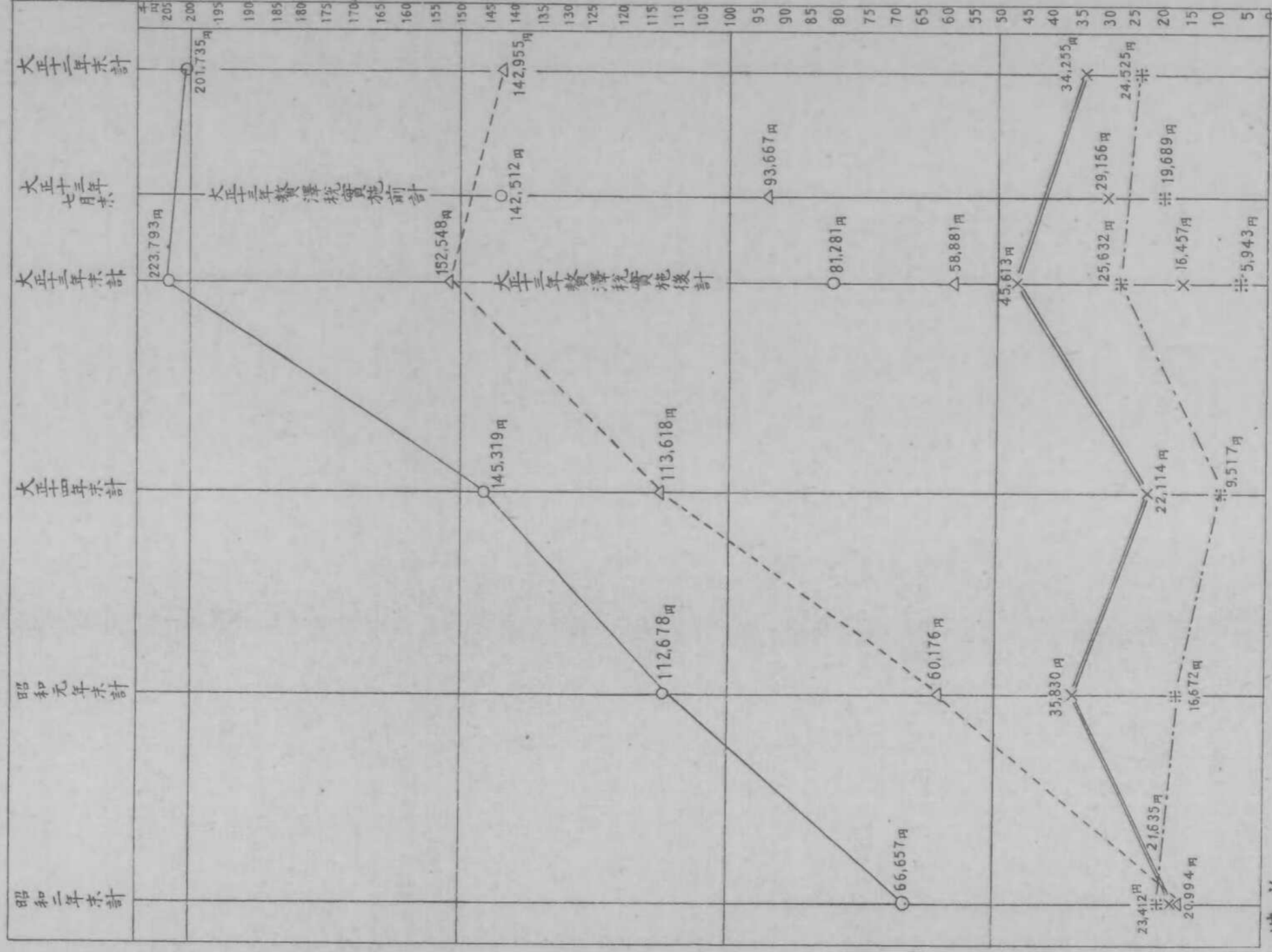
同 第六四一號 瓶 具

一、贅澤税カ國定税率ヨリモ低率トナル場合ニハ國定税率ニ依ルコトトスルコト  
或ル種ノ金腕時計(金腕時計ハ每個十圓九十錢)或ハ釀入支那混成酒(釀入混成酒每百リットル「百二」  
十四圓)ノ如キニアリテハ贅澤税率從價十割ノ賦課ハ反テ從前ノ國定税率ヨリ低率ナリ

別表 第一

門司税關管内ニ於ケル釐澤税該當品輸入狀況

(自大昭和十二年)



備考 ○——釐澤税該當品總輸入價額 ×——小包トシテ輸入セラルタル價額  
 △-----貨物トテ輸入セラルタル價額 ※-----旅具トシテ輸入セラルタル價額

別表第二

門司税関管内ニ於テ貨物扱トシテ輸入セラ (自大正十二年)  
レタルモノニシテ年間輸入千圓以上ノモノ (至昭和二年)

税表番號	品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年
		課税額 實際前	課税額 實際前	課税額 實際後	計				
31 一	蔬菜果實 (砂糖糖蜜糖水又ハ蜂蜜ニテ貯蔵シタル物)	4,355	2,256	2,673	4,929	5,765	...	...	451
31 二 甲	蔬菜 (罐詰 罐詰 蜜詰 ノモノ)	5,885	2,291	5,650	7,941	5,318	98	...	1,166
31 二 乙 四 イ	生果 (主トシテ葡萄)	4,263	342	410	752	446	55	...	232
31 二 乙 四 ロ	乾果 (主トシテ乾柿)	34,339	20,838	2,190	23,028	2,684	1,227	...	882
31 二 乙 四 ハ	核子 (主トシテ栗)	7,933	9,147	4,248	13,395	79,908	31,562	...	3,206
32 一	紅茶	3,187	4,407	3,570	7,977	...	2,442	...	1,478
36 二	ココア (砂糖ヲ加ヘザルモノ 種子ニテアザルモノ)	1,837	4	2,602	2,606	1,730	1,569	...	1,518
45	菓子	3,279	4,332	2,274	6,606	22	33	...	49
49 一	果汁及糖水	816	1,080	0	1,080	400	115	...	260
66 二	其他ノ酒類	15,126	8,523	12,905	21,428	3,224	8,858	...	3,845
67 一	其他ノ飲食物 (砂糖ヲ加ヘザルモノ)	79	0	2	2	407	2,878	...	164
69	毛皮	2,615	50	11,790	11,840	7,056	4,168	...	...
117	石鹼	1,357	744	91	835	483	...	...	409
328 一	地氈 (毛製又ハ毛入ノモノ)	1,476	2,076	543	2,619	31	...	...	444
336	ベッドクイルト及クッション	155	1,390	80	1,470	...	...	...	...
414 二 乙	石製品 (主トシテ支那ヨリ ノ寶石製品ナリ)	10,767	1,611	45	1,656	193	309	...	...
439	陶磁器 (硝子ヲ除ク)	5,307	3,884	1,142	5,026	834	1,114	...	1,058
528 ノ内	置時計	2,714	2,931	1,914	4,845	160	...	...	...
553	寫真器及同部分品	1,460	125	0	125	...	...	...	...
554	...	...	...	...	...	...	...	...	...
555	蓄音器及同部分品	2,401	3,257	2,367	5,624	359	572	...	339
556	...	...	...	...	...	...	...	...	...
612 一 甲	紫檀及紅木材	紫檀材 53	10	0	10	...	...	紅木材 3,668	...
626 二 甲	紫檀製品	23,943	11,638	753	12,391	348	279	...	337
636 一	寫真用フイルム (感光性 ノモノ)	...	6,563	222	6,785	...	...	...	...

101

別表第四

門司税關管内=於テ旅具扱トシテ輸入セラ (自大正十二年)  
レタルモノニシテ年間輸入千圓以上ノモノ (至昭和二年)

品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和二年
	課税額 實施前	課税額 實施後	課税額 實施前	課税額 實施後			
毛皮(麝毛皮)	1,266	305	340	645	560	1,193	1,610
地氈	528	1,040	323	1,363	325	953	798
遊戯具(主トシテ麻雀)	185	...	15	15	179	956	1,223
生果	1,002	18	351	369	260	88	251
陶磁器	1,976	1,105	308	1,413	1,584	1,435	1,459
絹布(穀子其他支那絹布)	4,274	1,581	1,586	3,167	1,873	2,623	2,634
紫檀製品	9,184	7,942	602	8,544	719	3,057	7,155
酒類(主トシテ支那酒)	460	1,703	531	2,234	1,774	2,201	713
寶石及貴金屬(身邊裝飾細貨類)	1,556	1,733	298	2,031	1,151	2,392	2,183
蓄音器	854	3,463	...	3,463	260	280	304
茶	9	9	25	34	...	20	1,107
コ-コ-	...	1,005	...	1,005	...	...	...

別表第三

門司税關管内=於テ小包郵便トシテ輸入セラ (自大正十二年)  
レタルモノニシテ年間輸入千圓以上ノモノ (至昭和二年)

税表番號	品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和二年
		課税額 實施前	課税額 實施後	課税額 實施前	課税額 實施後			
45	菓子	3,169	1,805	1,207	3,012	1,675	1,835	3,047
360-	衣類及同附屬品	2,351	1,158	1,389	2,547	1,312	1,224	1,856
303三	絹布	6,584	2,535	1,497	4,032	1,261	1,291	1,778
69	毛皮	1,062	394	453	847	183	17,032	112
94	毛製品	100	31	429	460	1,075	3,610	226
349	肩掛	1,126	1,363	937	2,300	1,015	912	834
355	靴	3,018	1,411	1,133	2,544	1,808	1,849	1,925
556	レコード	153	1,715	2,023	3,738	120	34	441
636	フキム	1,301	23	121	144	510	95	77
647 二,甲	万年筆	3,471	7,790	158	7,948	597	758	1,028
412 413		貴石及半貴石	934	5,760	3,910	9,670	4,527	2,543
359	身邊裝飾用細貨類		2,069	1,333	521	1,854	404	296
553	寫真器	863	237	444	681	3,647	91	111
526-	金側時計	2,166	1,612	474	2,086	305	291	661

函館税關長答申

大正十三年八月本法實施以來當關管内ニ輸入セラレタル贅澤税品ハ其ノ種類七十有餘ニ及ヒタレトモ其ノ大部分ハ輸入量極メテ少量ニシテ列記ノ價值アルモノハ別表ニ示スカ如ク僅ニ毛皮干柿、紅茶及酒類ノ數種アルニ過キス而シテ之等數種中其ノ他ノ酒類ハ本法施行後大連定期航路ノ開ケタル大正十五年以來彼地ヨリ俄ニ多量ノ輸入ヲ見タルモノニシテ稍々注目ニ値スヘシ

前記酒類ハ「ウヰスキー」、「ウオッカ」、燒酎等其ノ名稱ヲ異ニスレトモ其ノ品質内容ハ何レモ粗惡ナル一種ノ混成酒ニ外ナラサルヲ以テ原價頗ル低廉ニシテ從テ本品ニ對スル從價十割税ハ從量税ニ比シ其ノ納税負擔額遙ニ輕ク輸入者ニ取リ甚タ有利ナル關係上斯品ノ輸入ヲ容易ナラシメタルモノノ如ク又本法施行ノ齋シタル一ノ奇現象タルヲ失ハス、其ノ他ノモノノ増減ニ付テハ特ニ説明ヲ加フヘキモノナシ

更ニ本法施行後過去四箇年ニ於ケル全國輸出入總額ヲ對照スルニ入超年次減少シ殊ニ本法該當品ハ輸入著シク減退ノ狀勢ヲ示セリ、之レ貿易逆調ノ緩和及奢侈ノ抑制等ニ對シ相當效果アリタルヲ立證スルモノニシテ法律制定ノ目的ヲ達シタルモノト謂ヒ得ヘシ然レトモ國內ノ現狀ハ精神作興、經濟國難ヲ高唱セラレツツアルノ狀態ニシテ上下一致實質剛健ノ氣風ヲ涵養維持セサルヘカラサルノ秋ナリ、假令本法カ一時其ノ效果ヲ顯揚シタリトス

ルモ今俄ニ之カ廢止ヲ見ルニ於テハ聽テ人心ノ緊張ヲ失フヘキヤ必然ニシテ、斯クテハ法律制定本來ノ趣旨ニ悖ルモノト言ハサルヘカラス、故ニ本法ハ未タ廢止スヘキノ時期ニアラサルヲ痛感スルモノナリ

然レトモ左記物品ハ贅澤品トハ認め難ク且第三四五號以下ハ前回改正ノ際綿製、亞麻製等ノモノヲ多數贅澤品中ヨリ削除セラレタルニ不拘猶本品ヲ本法適用ノ圈内ニ殘置セルモノニシテ當ニ其ノ理由薄弱ナルノミナラス彼此權衡ヲ失シ妥當ナラサルニ付速ニ本法適用ヨリ除外スヘキヲ至當ト認ム

記

輸入税表 第三二號ノ一、第三四五號中絹製又ハ絹入ノモノヲ除キタル全部、第三四七號ノ三、第三四八號ノ二、第三五〇號ノ二、第三五一號ノ二、第三五二號ノ二ノ乙、第三五五號ノ一ノ甲及同號ノ二ノ甲、第三五六號中絹製又ハ絹入ノモノヲ除キタル全部

贅澤税品輸入額調

(但シ十三年中ハ八月前ト後トニ區分掲上セリ)  
(八月後ハ印ヲ附ス)

番稅 號目	品名	數量 價額	施行前			施行後		
			大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年
三二ノ二 乙ノ四ノロ	乾果 主トシテ干柿	斤 圓	九、七七五	一四、一八九	三〇、〇五五	一三、〇三九	三〇、九八五	一四、二三五
			五、一〇〇	七、二四二	一一、一七四	五、二九七	三、四八一	一〇、五六八
						五、九七七		一七、三五四





新義州等ニ於テ支那絹布代用品ノ製織工場ヲ見ルニ至リ漸次發達ノ機運ニ向ヒ居レリ  
 右ノ次第ナルヲ以テ本法ノ改正ニ付テハ慎重考慮ヲ要スルモノト認ムルカ朝鮮ノ關係ニ  
 於テハ差當リ鮮人ノ生活必需品タル乾棗、下等毛皮、素燒甕、硝子製煙管、鮮人用草鞋等ヲ除外  
 スルコトト致シ度右ニ關シテハ追テ正式ニ照會ノ見込ナリ

臺灣總督府稅關長

大正十三年七月本法ノ施行セラレタル直前三ヶ年ニ於ケル贅澤稅品ノ平均輸入高ハ百萬  
 千二百十二圓ニシテ之ヲ同期ノ平均輸入總額ニ對比スレハ些ニ二分六厘ニ當ルモノトス然  
 ルニ本法實施以來ノ實績ヲ觀ルニ當初ノ半年間ニ於テハ關東大震火災ノ影響ヲ加味シ急轉  
 直下八萬圓弱ノ少額ニ激減シ總額ニ對シ僅々四厘ノ比率ニ過キサルニ至レリ爾來經濟界ノ  
 恢復ニ連レ總輸入高ノ増加スルニ伴ヒ些カ増進ヲ示シタリト雖モ固ヨリ微ヤトシテ振ハス  
 昭和二年ニ於テ漸ク十五萬六千五百三十九圓ヲ計上シ總額ノ二厘ヲ保維セルノ狀態ナリト  
 ス今主要品ノ本法實施直前三ヶ年平均ノ輸入高ヲ擧ケレハ絹布二十二萬三千圓、蔬菜果實二  
 十萬千圓、靴十八萬八千圓等ヲ主トセルカ之カ昭和二年ノ輸入高ハ絹布七千圓、蔬菜類四千圓  
 靴二千圓ニ過キス其他一齊ニ減少シ良ク本法制定ノ主旨ニ副ヘル結果ヲ齎ラセルモノト謂  
 フヘシ而シテ本法ハ啻ニ贅澤品ノ輸入ヲ防壓セルノミナラス高率ノ保護的關稅制度タル關  
 係上島内各種ノ產業ヲ助長シ就中鳳梨罐詰製造業ノ如キ急速ノ進展ヲ遂ケ其ノ内地移出高

大正十三年ノ百三十五萬圓ヨリ昭和二年ノ三百十萬圓ニ激增セルモノ一面當局ノ指導獎勵  
 ニ負フ所アリト雖モ本法實施ノ效果タラスンハアラサルヘシ次ニ從來輸入ニ俟チタル絹布  
 陶磁器貴金屬製品其他ノ贅澤品ハ漸次内地品ノ需要ニ轉向シ内地移入ヲ促進セル結果自然  
 内地產業ノ發達ヲ助成シ相互ノ經濟關係ヲ一層密接ナラシムルニ至レルモノトス  
 如上ノ事情ヨリ推シ臺灣ニ於テハ尙將來本法ノ存續ヲ適當ト信スルト共ニ現ニ臺灣ニ輸  
 入セラルルモノニ就キテハ特ニ改廢ヲ必要トスルモノアルヲ認メサルナリ

年 別	輸入總貿易高	贅澤稅品輸入高	贅澤稅品稅額	輸入總貿易高ト贅澤稅品輸入高トノ割合(百分率)	備 考
大 正 十 年	四〇、四三三、二九〇	一、二二一、九一四	三六二、九三八	三・〇	<small>勅令第一六九號ニ依リ陶磁器類ハ本表ニ含まス</small>
十 一 年	三六、九二一、八七四	九五五、〇六八	二六二、三九一	二・六	
十 二 年	三九、一一一、三六七	八二六、六五三	二二四、八二六	二・一	
自大正十年 至同十一年 三ヶ年平均	三八、八二二、一七七	一、〇〇一、二一一	二八三、三八五	二・六	
大 正 十 三 年	二一、〇八〇、九二七	七九、九九五	七九、八七七	〇・四	
自大正十三年 至同十四年 二ヶ年平均	二一、〇八〇、九二七	七九、九九五	七九、八七七	〇・四	
十 四 年	五六、四八九、〇六〇	一三一、一七五	一三〇、九五二	〇・二	
十 五 年	六二、〇〇七、六六六	一五二、六六一	一五〇、九九四	〇・二	
昭和 二 年	六五、八四〇、三九六	一五六、五三九	一五五、三一九	〇・二	
昭和 三 年	一九、三九七、八五七	五三、八四三	五三、五六八	〇・三	

贅澤稅品輸入高ト稅額ニ相違アルハ犯則品ヲ含ムニヨル

自大正十年至大正十二年 釐澤稅法實施前三箇年輸入平均高表

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
三一	蔬菜果實及核子	斤	二〇一、三七一	七〇、六三八	小包及器具ヲ含ム
三二	茶	斤	三〇、四一四	三、八一三	同
三三	蜂蜜	斤	六、一四二	二、七七六	同
三四	真珠	匁	三、四〇六	一、七〇九	同
九四	皮毛骨角齒牙甲殼類製品	斤	一九、四七八	七、七七四	同
一一七	石	斤	一七、六二九	二、三七五	同
一三六	甘	斤	四、七七二	四、五二五	同
一三七	丁	斤	五、四八七		同
一三八	沈	斤	一五、五六四	三、九八一	同
一三九	檀	斤	二九、八六五	七、三一八	同
二〇五	龍腦文片及人造龍腦	斤	七、六一一	一、二五五	同
二二三	線	斤	二二、〇五三	四、九五二	同
二三四	煙	斤	七、九八四	二、一〇八	同
三〇三	雜物及別號ニ掲ケサル輸入貨物 一天價價ヲラシム其價ノハイ ル貨物	斤	一五、〇五〇	四、四四五	同
三五五	靴 其他ノ履物	斤	一八、六四八	三、七二六	同
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類、同 附屬品及其ノ部分品、一	斤	七、五三五	三、七五二	同
三九二	書	斤	一五、六二七	一、四六五	同
四一四	石 及 石 製 品	斤	五、八六〇	二、三三六	同
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器	斤	二一、二七八	八、五二六	同
六二六	木製品(別號ニ掲ケサルモノ)	斤	二〇、五五五	二、六九一	同
	二、其 甲、花梨木、鐵刀、木 其他ノ諸品	斤	一、七六四	四、七五二	同
計			一、〇〇一、二二二	二八三、三八五	

備考

- 一、本法指定品目中酒類ハ本島ニ於テハ專賣ニ屬スルヲ以テ除外セリ
- 二、陶磁器中勅令第一六九號ニ依リ除外セラレタルモノヲ除ク

大正十三年 自七月三十一日 釐澤稅品輸入高及稅額調

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
三二	蔬菜果實及核子	斤	二七、五八二	二七、五四八	
三三	茶	斤	一一、〇八〇	一一、〇七三	
三四	蜂蜜	斤	二、二一〇	二、〇九六	
九一	真珠	匁	四〇、九	四〇、八二二	

品名	数量	量	價額	稅額	備考
九四 皮毛骨角齒牙甲殼類製品			二、四五七	二、四五二四三	
一一七 石		一〇七	二五	二四八〇	
一三六 甘		一、二四九	四六八	四六八八二	
一三七 丁		七七一	三七九	三七八六一	
一三八 沈		九七七	一、〇六六	一、〇六五一三	
一三九 白		一七、六八七	五、一一七	五、一一七一九	
二〇五 龍腦艾片及人造龍腦		二五	一五〇	一四八六三	
二二三 線		四、七六八	一、〇七八	一、〇七八五七	
二三四 煙		七、二〇〇	二、四五四	二、四五四二五	
三〇三 絹織物及別號ニ掲ケサル絹織物 一天電機、フランク、その他、 ル織物		二〇五	一、七八四	一、七八〇〇二	
三三三 其他ノ履物		五三一	五三一	五二〇六四	
三五六 別號ニ掲ケサル衣類同附 屬品及其ノ部分品一		二、三一〇	二、三一〇	二、三〇八四八	
三九二 書		二、五八一	二、五八一	二、五八〇三八	
四一四 石及石製品		一、三九八	一、三九八	一、三九〇八三	
四三九 別號ニ掲ケサル陶磁器		二、一九六	二、一九六	二、一八五七六	
六二六 木製品(別號ニ掲ケサルモノ)		二、一八	二、〇三八	二、〇三二八六	
其他ノ諸品		一四、七三五	一四、七三五	一五、三四一二二	
計			八〇、〇四八	八〇、五六八二一	

一一一

大正十四年贅澤品輸入高調

品名	数量	量	價額	稅額	備考
三二 蔬菜、果實及核子		三、八六五	四九、六五一	四九、六二四三〇	
四四 蜂		二、七四九	二、三一四	二、三一〇三八	
九一 眞		一〇三	五八二	五八〇九九	
九四 皮毛、骨角、齒牙甲殼類製品		一〇三	五五六	五五五〇一	
一一七 石		七、七六一	七、七六一	七、七四六八八	
一三六 甘		三、八五	一七一	一七一三八	
一三七 丁		五、七八	二八八	二八八一九	
一三八 沈		二、五八六	四、〇六九	四、〇六九〇一	
一三九 白		一八、二〇一	四、九七五	四、九七二六七	
二〇五 龍腦艾片及人造龍腦		六六	三七四	三七一八九	
二二三 線		五、六八六	一、五七九	一、五八二一七	
二三四 煙		一〇、七八一	四、一五八	四、一五八三〇	
三〇三 絹織物		三七九	四、八三九	四、八三六二〇	
其他ノ絹織物					
計			八〇、〇四八	八〇、五六八二一	

一一一

税表番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三五五	靴、其ノ他ノ履物			三七八	三七四二八	
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類一			五六九	五六八六〇	
三九二	書			二、〇一五	二、〇一二四	
四一四	石及石製品			一、九一二	一、九〇三七五	
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器			一、四六九	一、四六一八九	
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ 其ノ他ノ諸品	斤	三、〇二五	二、二六四	二、二五五〇〇	
計				一三二、一七五	一三〇、九五〇八九	

大正十五年贅澤品輸入高調(昭和元年ヲ含ム)

税表番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三一	蔬菜、果實及核子			四二、〇六四	四一、九八四九二	
三二	茶	斤	三八一	一九八	一九九三五	
四四	蜂	同	七六六六	一、二五七	一、二五七二一	
九一	眞珠	同	一〇八	四六七	四六六七八	
九四	皮毛、骨角、齒牙、甲殼類製	斤	二五	六、六〇二	六、五六六八九	
一七	石	斤	二五	一六	一六二九	
一三八	沈	同	四、八九三	六、四四八	六、四四七五四	
一三九	白	同	一、四六七	四〇三	四〇三一五	

税表番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
二〇五	龍腦、艾片及人造龍腦	同	四九	二七四	二七三六〇	
二二三	線	同	八、二四五	一九〇三	一九〇一七八	
二三四	煙	同	二一、三七二	六、五六四	六、五六四〇〇	
三〇三	絹、天織、絨物	同	九三一	七、五二五	七、五〇四四三	
三五五	靴、其ノ他ノ履物	同	九三九	九三九	九三七八五	
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類一			一、一三〇	一、一二六五二	
三九二	書			二、二九三	二、二八九二二	
四一四	石及石製品			三、五一四	三、五一一六六	
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器			一四、三七五	一四、二七〇五〇	
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ 其ノ他ノ諸品	斤	四、九〇一	三、八〇一	三、七九四二五	
計				一五二、六六一	一五〇、九九四〇四	

昭和二年贅澤品輸入高調

税表番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三二	蔬菜、果實及核子	斤	四四五	四二、一三六	四二、〇九五一九	
三三	茶	同	九、九八八	三〇四	三七五七六	
四四	蜂	同		一、三六二	一、三六〇二〇	

九一	真珠	一四三	五〇五	五〇三〇五
九四	皮毛、骨角、齒牙、甲殼類製	一八九	五、九五六	五、九二九二二
一一七	石	一三八	一三八	一三七一一三
一三八	沈	二、九七四	四、七四四	四、七六〇三五
一三九	白	六八〇	一九五	一九四二四
二〇五	龍腦、艾片及人造龍腦	五八八	一、七九四	一、七九四〇三
二二三	線	四、五七七	一、三〇〇	一、三〇〇七六
二三四	煙	九、二六六	二、五三一	二、五三〇九二
三〇三	絹	一	二二	二二八二
同	一、天鵝絨、フロッシ、其、他、二、其、他、ノ、絹織物	八二六	七、二一三	七、二〇二六九
三五五	鞋、其、他、ノ、履物		二、二二一	二、〇九〇一八
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類		一、五三六	一、五三二四九
三九二	書		一、〇五〇	一、〇四五四三
四一四	石及石製品		一、八〇九	一、七九九八〇
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器		一〇、五〇九	一〇、四九一三〇
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ	二、四二六	一、七四五	一、七三二〇四
計	其、他、諸、品		六九、四六九	六八、四二二三七
			一五六、五三九	一五五、三一八九七

一一六

諮問第三

横濱税關長答申

昭和三年横濱港貿易豫想額

本年一月乃至四月ノ當港貿易額ハ輸出二億二千三十二萬圓、輸入二億一千八百十四萬六千圓、合計四億三千八百四十六萬六千圓ニシテ差引出超額二百十七萬四千圓ナリ。而シテ之ヲ前年同期ニ對比スレハ輸出六百二十二萬三千圓(三分増)、輸入七百七十萬六千圓(四分増)、合計千三百九十二萬九千圓(三分増)ノ各増進ニシテ極メテ順調ノ狀勢ヲ示セルカ出超額ニ於テハ百四十八萬三千圓(四割餘減)ノ減少ナリ。

次ニ五月以降ニ於ケル當港貿易額ノ豫想ヲ試ムルニ本年ハ前年ニ於ケル財界「バニツク」ノ後ヲ享ケシト雖大體ニ於テ之カ整理モ了リ一般經濟界ノ基礎ハ堅實トナリ且ツ金利ノ低落ハ諸般ノ經營ニ便ニシテ産業ノ發展、工業ノ勃興等著々トシテ躍動ノ氣運ニ在リ、殊ニ今秋ハ御即位ノ御大典ヲ舉行サルル最モ慶賀スヘキ年柄ニモアレハ一般ノ人氣好轉ヲ期待スルモノアルハ否ム可カラサル所ニシテ又同時期ニ於テ米國大統領ノ選舉モ行ハルヘク而シテ之カ成行ハ徒ニ樂觀ヲ許ササルモ昨秋ハ彼地農家ノ收入多カリシ爲メ勢ヒ購買力ノ旺盛ナルハ論ヲ俟タス。

加之彼ノ抑制政策モ稍々緩漫ノ風聲アリテ對外爲替ノ安定ト共ニ我カ輸出貿易ヲ助長セシムルノ好材續々タリ、其他歐洲財界ノ恢復南洋方面ニ於ケル我輸出品販路ノ擴張等夫々有利ニ展開サレ而シテ又輸入貿易ニ在リテモ贅澤稅一部ノ低下竝ニ鐵、木材等ノ關稅引上問題ニ動カサレテ之等ノ輸入ヲ促進セシムヘキニヨリ、五月以降ノ當港對外貿易ハ輸出入共ニ順調ニ誘引セラルルモノト觀察セラル。只支那南北戰爭竝ニ濟南事件ハ遺憾ナカラ對支貿易上ニ相當打撃トナルヘキモ之トテモ恐ラクハ一時的現象ニ過キササルモノト信スルカ故ニ結局五月乃至十二月ノ貿易額ハ

輸 出	五億六千二百萬圓
輸 入	四億一千百萬圓
合 計	九億七千三百萬圓

ニ達スヘキ豫想ニシテ之カ年計ハ

輸 出	七億八千二百三十二萬圓
輸 入	六億二千九百十四萬六千圓
合 計	十四億一千四百四十六萬六千圓
出 超	一億五千三百七十七萬四千圓

ノ見込ナリ

別表參照

而シテ之カ内容ニ付少シク説明ヲ加フレハ大略左ノ如シ

輸 出

小麦粉 本年一月乃至四月ノ輸出額ハ三百五十七萬五千圓ニシテ前年同期ニ比シニ二百十九萬二千圓(約一・六倍)ノ躍進ナリ。是北支方面ヲ中心トシテ滿洲、關東州ニ於ケル需要激増ト上海粉ノ操業意ノ如クナラサリシニ因ル。濟南事件ノ突發ハ本品向後ノ貿易ニ妙カラサル打撃ナランモ元來支那ノ騷亂及ヒ日貨排斥ハ殆ト年中行事ニシテ一時之カ爲メニ貿易上ノ支障トナルコト明カナルモ大風一過スレハ却テ需要激増スルノ例ニシテ(旁)レカゴ)小麦ノ激減ヨリ外麥ノ昂騰ヲ報セラレ一般ノ人氣ヲ強硬ナラシメ專ラ内地粉界ニ刺戟ヲ與ヘツツアレハ五月以降ニ於ケル輸出額ハ少クモ前年同期ノ一割二分増七百五十萬圓ヲ降ラサルヘシ

精糖 一月乃至四月ノ輸出額ハ四百五十八萬二千圓ニシテ前年同期ニ比シ七割九分餘ノ増進ヲ示セリ。本品ハ主トシテ支那ヲ顧客トスル關係上支那政爭問題ヨリ延イテ濟南事件ノ紛糾ハ相當我ニ惡影響ヲ醸ス憂ヒアルモ從來當港ヨリノ輸出精糖ハ明治、大正、鹽水港製糖ノ三社ノ製品ニ過キサリシカ四月以降ニ於テ新ニ大日本製糖會社ヨリ多量ノ輸出ヲ企テラレ其ノ活躍振リハ極メテ顯著ナルヲ以テ五月以降本品ノ輸出額ハ前記四社ヲ合シテ少クモ六百五十萬圓ヲ示シ年額ニ於テ前年ノ二割三分増即千八百八萬餘圓ノ見込ナリ

蟹罐詰 一月乃至四月ノ輸出額ハ四百三十四萬七千圓ニシテ前年同期ニ比シ倍増ノ趨勢ニ在リ。本品ハ累年漸増ノ状態ニアリ而シテ之カ原因ハ主トシテ工船ノ改良、海外販路ノ擴張ニ努力セル結果ニ外ナラスト雖モ逐年之カ需要ノ旺盛ナルモ見逃シ難キ所ナリ。

本品ハ米國ヲ第一顧客トスルニヨリ彼地財界ノ潤澤ナル現況ヨリ推シテ五月以降ハ最少限度ニ見積ルモ千二百萬圓ニ達シ結局本年ハ前年ニ比シ二百萬圓ノ増進ヲ示スヘシ

層絲 一月乃至四月ノ輸出額ハ百七十六萬九千圓ニシテ前年ニ比シ百六萬餘圓(三割七分減)ノ減退ナリ之レ生絲ノ低落ニヨリ久シク歐洲方面ヨリノ買氣出動セサルト地遣トシテ使用サレル爲メニシテ最近ハ一層不味ノ状態

ニ在リ要スルニ本品ノ輸出額ハ前年ニ比シ五分減ノ六百七十六萬九千圓内外ナレヘシ

生絲 一月乃至四月ノ輸出數量ハ十二萬一千二百八十三擔、價額一億六千三百六十八萬五千圓ニシテ之ヲ前年同期ニ比較シ數量七千九百九十三擔(六分増)ノ増進ヲ示シ累年漸増ノ活況ヲ示セルモ前年末以來絲價留外ノ低下ヲ告ケタルヲ以テ之カ價額ハ數量ノ増加ニ拘ラス却テ四百五十九萬四千餘圓(三分減)ノ減退ヲ示セリ

謂フ迄モナク本品ハ我カ國輸出貿易ノ白眉ニシテ從テ當港輸出貿易ノ消長ハ一ニ懸テ本品ノ推移ニ支配サル而シテ之カ輸出額ノ豫想ヲ試ムルハ最重要事ニシテ延テハ本邦輸出貿易ノ大勢ヲ決スルモノナリ

今本品最近ノ輸出貿易ノ消長ヲ觀ルニ前年内地財界ノ恐慌以來絲價ハ一路低落ノ一途ヲ辿リ年末千三百圓臺割ヲ演シ爲ニ二回ニ涉リテ帝黨ノ共同保管及ヒ製絲ノ操業短縮トナリ、且此間日銀利下ケ、對米爲替ノ激落等相次テ起リ多事多端ナリシカ本年ニ入り對米爲替モ漸ヲ追ヒテ昂騰引締模樣トナリ四十七弗八分ノ七見當ニ落付キ旁々海外ノ消費依然トシテ旺盛ナリシカハ本年一月乃至四月ノ輸出數量ハ前記ノ如ク躍進ヲ示シタリ、而シテ絲價ハ現況ヨリ觀テ他ノ何レノ商品ニ比スルモ餘リニ低價ニシテ内地蠶業ノ採算上不利ノ感アルモ之カ生産ハ一層多量ナル可ク豫想セラルルニ拘ラス之カ消費ハ内地、歐洲共ニ何レモ急増ヲ期待シ難ク只幸ニ之カ第一顧客タル米國ニ於テハ絲價ノ低廉ヨリ織物界及莫大小界ニ一段ノ需要ヲ喚起シ加フルニ彼地農家ノ收入増加カ因ヲ爲レ之カ消費ハ意外ニ良好ナルノ情勢ナレハ五月以降ニ於ケル本品ノ輸出數量ハ恐ラク三十萬擔ヲ下ラサルヘク、而レテ内地市場ノ絲價ハ多少ノ強氣含ミヲ唱ヘラルルカ故ニ一擔ノ輸出平均價ハ千四百五十圓ト見レハ今後ノ輸出額ハ四億三千五百萬圓ニ達スヘク本年ヲ通算スレハ數量四十二萬一千二百八十三擔價額五億九千八百六十八萬五千圓トナリ前年ニ比シ約百分ノ二ノ増額トナルヘシ

絹織物 一月乃至四月ノ輸出額ハ千六百五十一萬三千圓ニシテ前年同期ニ比シ二百八十一萬四千圓(二割一分増)ノ増進ヲ示セリ之カ原因ハ前年來ノ絲價安ニ伴フ本品相場ノ低落ニヨリ海外筋ノ買氣ヲ喚起シタルニ因ル可シ

ト雖當港本品ノ輸出貿易ハ最近著シキ進展ヲ示シ就中羽二重、縮緬等ノ賣行一層良好ナルヲ以テ五月以降ノ輸出額ハ前年同期ノ二割増四千百萬圓ノ見込ナリ

其他 前記以外ノ品目ニ付テハ一月乃至四月ハ二千五百八十四萬九千圓ノ輸出額ヲ示シ前年同期ニ比シ二百五十二萬七千圓(二割一分増)ノ増進ニシテ對支貿易上ハ今後多少ノ障礙ヲ豫想レ得ラレサルニ非ルモ右障礙モ大勢ニハ差シタル影響ナカレヘキヲ以テ五月以降ハ前年同期ト大同小異ニ終ルヘク結局前年ノ三分増即チ八千八百四萬九千圓ヲ示スヘシ

輸 入

米 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百六十五萬四千圓ニシテ前年同期ニ比シ五百三十八萬三千圓(五割四分減)ノ減退ナリ之レ前年内地米作豫想外ノ大豐作ニ伴フ米價慘落防止策トシテ政府ノ買上及ヒ外米輸入制限ヲ斷行シタルニ因ルモノニシテ從テ五月以降ニ於ケル本品ノ輸入額ハ前年同期ニ比シ相當ノ減退ハ免レサルヘキヲ以テ本年ハ前年ニ比シ二割九分減千四百六十五萬圓程度ナルヘシ

小麦 一月乃至四月ノ輸入額ハ千五百二十九萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ七百五十八萬八千圓(九割九分増)ノ激増ヲ示セリ這ハ前年輸入手控ノ反動ト本年輸出製粉ノ活況トニ因ルモノニシテ五月以降製粉界モ亦相當活況ヲ呈スヘキハ豫想シ得ラルルトコロナルヲ以テ之カ原料タル本品ノ輸入ハ少クモ五月以後ニ於テ三千五百萬圓ヲ示スヘシ

大豆 一月乃至四月ノ輸入額ハ五百五十八萬圓ニシテ前年同期ニ比シ四十七萬圓(九分増)ノ増進ヲ示セリ本品ノ需要ハ殆ト固定レ居ルモノノ如ク年々急激ナル増減ヲ示サス從テ五月以降ハ六百五十萬圓ノ見込ナリ

砂糖 一月乃至四月ノ輸入額ハ千四十七萬九千圓ニシテ前年同期ニ比シ二百六十八萬圓(二割減)ノ減退ヲ示セリ

本品ハ前年來市況不味ニシテ沈衰ノ状態ニ在ルモ當港精糖ノ輸出ハ著シキ激増ヲ示セルヲ以テ之カ原料糖ノ輸入モ相當増加ノ見込ナリ即五月以降ノ輸入額ハ二千五百萬圓見當トス

硫安 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百二十二萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ二十七萬四千圓(六分減)ノ減退ヲ示セリト雖桑樹培殖ノタメ需要旺盛ナルニヨリ五月以降ニ於テハ前年同期ノ二割増千百萬圓ノ輸入額ヲ見ルヘレ

綫綿 一月乃至四月ノ輸入額ハ千九百一萬五千圓ニシテ前年同期ニ比シ三百一萬圓(一割四分減)ノ減退ヲ示セリ之カ原因ハ主トシテ前年作柄ノ不良ニヨリ値段ノ昂騰ヲ來シ買付ノ遅延セルコト及内地紡績ノ操業短縮等ニ因

ル可レト雖綿絲ノ輸出カ支那政狀ノ混亂セルニ不拘銀高ニヨル購買力ノ増進ヲ見込ミ前年ノ如ク惡化セザルヘク從テ五月以降ノ前年同期ノ五六分増三千四百萬圓ノ見込ナリ

羊毛 久シク不況裡ニ沈淪シタル内地(モスリ)ノ界ハ昨年來需給狀態著シク好轉シ之カ原料タル本品ノ輸入ハ一月乃至四月ニ於テ實ニ千五百五十八萬五千圓ノ巨額ニ達シ前年同期ニ比シ六百四十九萬三千圓(七割一分増)ノ

躍進ヲ示セリ本品ハ最近内地(モスリ)ノ各製造會社ニ於テ厚地毛織物ノ生産ニ力ヲ注キ將來之ヲ以テ主力トナスヤモ計リ難キ状態ニ在レハ(モス)ノ生産高ノ多少ニヨリ原料輸入ノ多寡ヲ斷難ク本品需要ノ前途ハ頗ル洋

洋タルモノアリ從テ五月以降ノ輸入額ハ前年同期ニ比較シ異常ノ躍進ヲ示スヘレ即三千五百萬圓ノ見込ナリ。毛織物 一月乃至四月ノ輸入額ハ三百五十七萬二千圓ニシテ前年同期ニ比シ三十一萬圓(約一割増)ノ増進ナリ。

本品ハ羊毛、自動車等文化的の必需品、漸増趨勢ニ隨伴レテ増加ノ見込ナレハ五月以降ノ輸入額ハ七百萬圓見當ナラン。

鐵類 一月乃至四月ノ輸入額ハ千三百八十八萬八千圓ニシテ前年同期ニ比シ三百二萬六千圓(一割八分減)ノ減退ナリ之レ内地造船界ノ不況、復興用材ノ一段落、内地品ノ増産等諸種ノ原因ニヨル可ク從テ五月以降ニ於ケル輸入

額ハ假令關稅引上ヲ企テラレ多少ノ見越輸入アリトスルモ前述ノ原因ニヨル本品需要ノ大勢ハ動カシ難ク前年同期ノ約五分減二千六百五十萬圓ノ見込ナリ。

木材 一月乃至四月ノ輸入額ハ千六百五十八萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ三百二十二萬四千圓(二割四分増)ノ増進ナリ

今復興途上ニ於ケル都市家屋建築ノ傾向ヲ觀ルニ震災前ノ夫レト比較シ形骸全ク一變セリノ感アリ之カ爲メ内地産ノ短尺モノニ比シ長尺ニシテ且價格ノ低廉ナルモノヲ要求スルニ至リ特種ノ日本趣味ヲ尊重ス

ルモノヲ除キテハ盡ク木材ノ供給ヲ仰クノ狀勢トナリ本品向後ノ輸入ハ益々旺盛ナル可ク旁外材一部ノ關稅引上問題ニ動カサレテ見越的輸入ヲ企テラレンヤモ關稅難ケレハ本品五月以降ノ輸入額ハ少クモ前年同期ノ一割五分増三千五百萬圓ノ見込ナリ

自動車及同部分品 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百四十五萬七千圓ニシテ前年同期ニ比シ百四萬七千圓(三割一分増)ノ激増ヲ示セリ。本品ノ需要ハ都鄙ヲ問ハス文化的交通施設トシテ最モ利便多キハ論ヲ俟タス年々増加ノ趨勢ニ在リ即五月以降ノ輸入額ハ一千萬圓ノ見込ナリ。

油槽 一月乃至四月ノ輸入額ハ千九百九萬二千圓ニシテ前年同期ニ比シ百七十二萬四千圓(一割三分減)ノ減退ヲ示セリ之レ米價安ニヨル農民ノ購買手控ニ因ル可レト雖本年ハ前年ニ於ケル諸肥品薄ト地方筋ノ買氣大ニ動キタ

レハ五月以降ノ前年同期ノ一割七分増千九百萬圓ノ輸入額ヲ示スヘレ

其他 前掲以外ノ輸入額ハ本年一月乃至四月ニ於テ九千三百八十一萬一千圓ヲ示レ前年同期ニ比シ四百七十七萬一千圓(八分増)ノ増進ナリ

而シテ五月以降ニ於ケル消長ヲ窺フニ國勢ノ進展ニ伴フ貿易額ノ自然的増加ハ當然ノ理明ナレハ先ツ最少限度ニ見積ルモ前年同期ノ四分増一億七千五百萬圓ノ數字ヲ見ルナラン

要之本年當港輸入貿易ハ過去竝ニ現狀ヨリ觀察シテ前年ノ五億七千四百八十二萬圓ニ對シ

九分増即六億二千九百十四萬六千圓ト豫想サル



横濱港輸出入價額 (總括)

品名	昭和二年		昭和三年		前年トノ増減割合
	至四月	至五月	至四月	至五月	
輸出額	二四〇,〇九七	五三九,九〇九	三三〇,三二〇	五八二,〇〇〇	四九
輸入額	二二〇,四四〇	三六四,三八〇	二二八,一四六	四一〇,〇〇〇	九
出入計	三六,六五七	一七四,五二九	一〇二,一七四	一七二,〇〇〇	二一

(イ) 内譯

品名	昭和二年		昭和三年		前年トノ増減割合
	至四月	至五月	至四月	至五月	
小麦	一,三八三	六,六七二	三,五七五	一一〇,七九	三七
糖	二,五五五	六,四七七	四,五八二	六,五〇〇	二二
絹織物	二,〇二九	一,二五三	四,三三七	一六,三四七	一四
生糸	二,八三〇	四,一九九	一,七六九	五,〇〇〇	五
絹織物	二,〇九〇	四,一九九	二,二八三	四,七六九	二
其他	二,二四〇,九七	五,三九,九〇九	三,〇〇〇,〇〇〇	四,三三,〇〇〇	三

(ロ) 輸入

品名	昭和二年		昭和三年		前年トノ増減割合
	至四月	至五月	至四月	至五月	
小麦	一〇,一三七	一〇,四三二	四,六五五	一四,六五五	二九
大豆	七,七〇三	一八,五〇七	一五,二九二	五〇,一九一	九二
砂糖	五,一〇〇	五,二六〇	五,五八〇	一一,〇八〇	二七
安綿	一三,一五九	一四,〇四九	一〇,四七九	二五,〇〇〇	三〇
綿	四,四九五	八,七二六	四,三三二	二九,三三二	一五
羊毛	三,〇三五	三,〇三五	一,九〇一	三,四〇〇	二
毛織物	九,〇九二	一八,八三八	一五,五八九	五〇,五八九	八一
織物	三,二六二	五,五七〇	三,五七二	七,〇〇〇	二〇
木類	一六,八三四	二七,七二八	一三,八〇八	四〇,三〇八	一〇
木材	一三,三五七	三〇,二六三	一六,五八一	四〇,三〇八	一八
自働車及同部分品	三,四一〇	八,二二二	四,四九七	一四,四九七	二四
油	二,八八六	一六,一九九	一,〇九二	三〇,〇九二	三
其他	八,九〇〇	一六,八四一	九,三八二	二八,八八二	四
計	二二,〇四〇	三六,三三〇	二二,八二二	六二,一九六	九

單位千圓 △印減

單位千圓 △印減

(一) 輸出

昭和三年豫想額	昭和二年實蹟額	増減額	増減歩合
六三七、八六二	七〇五、七二九	六七八、六〇〇	〇・〇九六

右豫想額算出ノ基礎トシテ既往二ケ年及本年一月以降四月迄ノ輸出實蹟ヲ通觀スルトキハ

年 別	期 別			平均一ヶ月輸出額	全年輸出額ニ對スル各半期分ノ歩合
	上 半 期	下 半 期	全 年		
大正十五年 (昭和元年)	上 半 期	下 半 期	全 年	五六、七五六	〇・四九九
昭 和 二 年	上 半 期	下 半 期	全 年	六三、六一〇	〇・五〇〇
	上 半 期	下 半 期	全 年	五八、四一五	〇・四九六
昭 和 三 年	上 半 期	下 半 期	全 年	五九、二〇五	〇・五〇三
	上 半 期	下 半 期	全 年	五二、七九三	〇・四九三

ニシテ前年七月以降各月ノ輸出額ハ大體ニ於テ五千七、八百萬圓臺ヲ維持シツツ來レルヲ以テ本年上半期ハ概シテ前年下半期以降本年四月迄ノ趨勢ヲ迪ルモノト見ルヲ得ヘキモ唯本年ニ入りテ各種織物類ノ輸出ニ幾分減退ノ傾向アルヲ以テ前年同期ニ比シ若干減少ヲ來

スヘク一方濟南事件ニ伴フ日貨排斥運動ノ蔓延如何ニ依リテ對支輸出ニ意外ノ頓挫ヲ來スナキヲ保セサルモ目下ノ情勢ニ於テハ格別悲觀ノ要ナカルヘキニ由リ本年上半期ノ豫想額ハ本年 自一月 至四月 平均一ヶ月實蹟額五千二百七十九萬三千六百八十圓ノ六倍三億一千六百七十六萬二千圓程度ヲ以テ大體見當ト爲スヘシ、而テ下半年期ハ例年季節關係上上半期ニ比シ輸出増加ノ趨勢ヲ示スヲ以テ之ヲ見込ミ本年下半年期ノ輸出豫想額ハ三億二千百十萬圓程度ト見ルヲ相當トスヘク一年ヲ通シ總額六億三千七百八十六萬二千圓ノ豫想ヲ得タリ。

- A 爲替相場カ前年「モラトリアム」終了後ノ低落以來比較的安定シテ輸出ヲ好轉セシムヘキ傾向アルコト
- B 依然内地物價安ノ持續スルヲ以テ窮境打開ノ爲引續キ輸出促進ニ努力シツツアルコト
- C 當初對支貿易ニ反動的好況ヲ期待セシモ這回ノ出兵ニ依リ樂觀ヲ許ササルコト
- D 前年來印度方面ハ棉花不作ニ因リ稍購買力ヲ減退スヘキ傾向アルコト
- E 米、佛、獨ニ於ケル大統領選舉カ幾分輸出ニ影響アルヘキコト
- F 支那其ノ他東南洋方面ニ對スル大阪港直接輸出ノ傾向益々加ハリツツアルコト

神戸港輸出重要品本年豫想額表

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減歩合	増減事由
生糸	一六五、四六七	一五七、五八八	七、八七九	〇・五	引續キ安値場ヲ見込ムモノ多キタメ
生金巾及シメ生	三〇、九六〇	三七、六七八	六、七一八	〇・一八	原棉ノ割高、短縮、印度不作ノタメ
綾木綿	二八、六九七	四七、八二九	一九、一三一	〇・四〇	同
富士絹	二六、六〇五	三三、二六九	六、六六四	〇・二〇	昨秋末ヨリ、及地賣價強キタメ
縮絹	二一、二七六	二〇、二六三	一、〇一三	〇・五	流行盛ナル傾向アルタメ
羽二重	二〇、六四二	二二、一〇八	一、四六六	〇・一	昨秋末ヨリ、及地賣價強キタメ
メリヤス肌衣	一六、七六一	一六、二七三	四八八	〇・三	南洋各地ノ好況ヲ見越シタルタメ
マツチ	八、六一二	八、一四八	四六四	〇・六	支那動亂ニ因リ、本邦品ニ有利ナルタメ
帽子	七、六〇一	七、三八〇	二二一	〇・三	爲替有利ナルタメ
綿フランネル	六、九九九	九、三三三	二、三三四	〇・二五	原棉ノ割高、短縮、印度不作ノタメ
精製糖	六、八四五	六、二二三	六二二	〇・一〇	前年出減ノ反動増ノタメ
貝製鈕	六、五九二	七、〇九八	五〇六	〇・七	市價低落ノタメ
硝子製品	五、六五二	八、〇四〇	二、三四五	〇・二九	印度向不況ノタメ
ボロンシ	五、五二五	七、〇六五	一、四一三	〇・二〇	昨秋末ヨリ、及地賣價強キタメ
綿子	五、二七二	九、二〇八	三、六八三	〇・四〇	原棉ノ割高、短縮、印度不作ノタメ
樟腦		五、五四九	二七七	〇・五	人造樟腦出超増加ノタメ

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減歩合	増減事由
ゴムタイヤ	四、九〇一	四、七五八	一四三	〇・三	原料ノ低落ト爲替有利ナルタメ
屑綿屑綿	四、八三六	四、五六七	二六九	〇・六	欧米方面ノ買氣強キタメ
小麦粉	四、五五八	三、五〇六	一、〇五二	〇・三四	爲替ノ有利ト原料高ノタメ
地氈	四、五〇九	四、九五七	四四八	〇・九	米價ニ於ケル關稅引上ケノタメ
薄荷	四、四一六	三、九二六	四九〇	〇・一三	市價騰貴ノタメ
陶磁器	四、二九二	四、一三九	一五三	〇・四	爲替有利ナルタメ
寒天	四、〇二六	三、〇九七	九二九	〇・三〇	同
印刷紙	三、九三〇	三、四一七	五一三	〇・一五	前年出減セシ反動増ノタメ
印刷料	三、八三四	三、四八五	三四九	〇・一〇	内地生産過多ノタメ
綿織糸	三、八一二	四、七六五	九五三	〇・二〇	内地ノ短縮綿布ノ出増ニヨル
靴具	三、五二四	三、五九三	六九	〇・二	獨逸品ノ出超増加ノタメ
薄荷油	三、二二八	一、八三八	一、三九〇	〇・七六	市價騰貴ノタメ
除虫菊	三、二一四	三、〇六一	一五三	〇・五	同
綿製浴巾	三、一九〇	三、〇四一	一四九	〇・五	南洋方面ノ買進ヲ見越シタルタメ
絹物	三、一六八	三、〇七三	九五	〇・三	爲替有利ナルタメ
絹屑	二、六三六	二、九八一	一五四	〇・五	引續キ内地織ノ安キ見込
珪瑁	二、六三五	四、三九四	一、七五八	〇・四〇	原料ノ割高、短縮、印度不作ノタメ
椎茸	二、六三三	二、五一〇	一二五	〇・五	爲替有利ナルタメ
		二、六八七	五四	〇・二	支那再度ノ動亂ノタメ

品名	大正十五年一月	大正十五年二月	大正十五年三月	大正十五年四月	大正十五年五月	大正十五年六月	大正十五年七月	大正十五年八月	大正十五年九月	大正十五年十月	大正十五年十一月	大正十五年十二月	大正十五年合計	大正十五年平均	大正十五年趨勢
絹製手巾	二五七〇	二七〇五	一三五	〇〇五	羽二重ト同一現由										
真田(菱程製)	二四五六	三〇六二	六〇六	〇一九	需要地ノ嗜好變遷ノタメ										
真田(麻製)	二二三七	三、七二八	一、四九一	〇四〇	同										
綿ブランケット	二、二〇四	二、七七一	五六七	〇二一	原棉ノ割高振廻ノタメ										
清酒	二、〇三一	一、八四六	一八五	〇一〇	今秋ノ御大典ヲ氣構ヘタルタメ										
昆布	二、〇一五	一、五五〇	四六五	〇三〇	天津滿洲方面ノ出増ヲ期待セシ										
木蠟	一、六八五	一、七七四	八九	〇〇五	産地出廻減ヲ見越シタルタメ										
貝柱	一、六五八	一、三八二	二七六	〇二〇	前年出減セン反動増ノタメ										
マツチ軸木	一、二八五	一、三三三	六八	〇〇五	支那動亂ノタメ										
箱板	八二〇	一、〇二五	二〇五	〇二〇	名古屋方面ヨリ直接輸出スルモ										
菜子油	五七二	一、六五〇	一、〇七八	〇六五	前年來ノ反動減										

自大正十五年一月當港輸出價額連月比較表  
至昭和三年四月

區分	昭和三年	昭和二年	大正十五年	昭和元年
一月	四八、一二七	五五、〇六四	六二、五一四	
二月	五三、四〇八	五一、三三三	五五、四〇四	
三月	五九、〇四〇	五九、八五二	六五、二八二	
四月	五〇、五九八	五五、三七六	五七、八五七	
計	六三七、八六二	七〇五、七二九	六八〇、六八二	

(二) 輸入

昭和三年豫想額	昭和二年實蹟額	増減額	増減歩合
八八七、四四五	九六六、一九二	七八、七四七	〇〇八一

右豫想額算出ノ基礎トシテ既往二ケ年ノ各半期別及本年一月以降四月迄ノ輸入實蹟ヲ通觀スルニ當港ニ於ケル輸入ノ主位ヲ占ムル線綿ニ就テ全年ヲ通シ其ノ趨勢ヲ見ルヲ適當トスルヲ以テ暫ク之ヲ措キ

年別	期別	平均一ヶ月輸入額	全年輸入額ニ對スル各半期分ノ歩合
大正十五年(昭和元年)	上半期	五〇、六六五	〇五四六
	下半期	四二、〇七八	〇四五四
昭和二年	上半期	四五、〇六八	〇五二九
	下半期	四〇、一四九	〇四七一
昭和三年	上半期	四三、九九一	
	下半期		

ニシテ本年上半期ハ格別四圍ノ事情ニ變化ナキ限リ大體本年一月ヨリ四月ニ至ル趨勢ヲ迪ルヘキ形勢ニ在ルヲ以テ本年上半期ノ豫想額ハ本年自一月平均一ヶ月實蹟額四千三百九十九萬一千六百十一圓ノ六倍二億六千三百九十五萬圓程度ト爲スヘシ而テ本年下半期ハ前年ノ如キ財界ノ動搖ナキハ勿論御大典ヲ眼前ニ控ヘテ漸次好況ニ轉スヘキ氣運ヲ豫想セラル

ルヲ以テ其ノ豫想額ハ二億二千三百四萬三千圓程度ナルヘシ依テ兩期ヲ併算スレハ本年ノ  
 繰綿ヲ除キタル輸入豫想額ハ四億八千六百九十九萬三千圓ニシテ之ニ繰綿ノ本年輸入豫想  
 額四億四十五萬二千圓ヲ合計スレハ一年ヲ通シ總額八億八千七百四十四萬五千圓ノ豫想ヲ  
 得タリ

尙前記豫想ヲ爲スニ當リ注意スヘキ内外財界ノ事情ヲ示セハ左ノ如シ

- A 「モラトリアム」終了後漸次財界安定セシト雖爾來預金ノ一流銀行ニ偏在スル傾向アリ  
 リ中流以下商人ニ於テ金融難ヲ訴フルニ至リシコト
- B 内地農産物依然安値ニシテ一層購買力ヲ減退セルコト
- C 内地財界ノ不況ハ深酷ニシテ容易ニ立直リノ望ナキコト
- D 内地事業界不振ニシテ引續キ操短ヲ爲スモノ多キコト
- E 從來神戸港輸入ニ計上セラレシ貨物ニシテ荷捌ノ便宜上直接大阪港ニ於テ輸入スル  
 モノ漸増ノ傾向ニ在ルコト

神戸港輸入重要品本年豫想額表

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減割合	増減事由
品	四〇〇、四五二	四五四、八八四	五四、四三二	〇・一三	前年度ヨリ持越多キト操短續行ノタメ
毛織	三二、九九四	三八、七四三	五、七四九	〇・一七	前年ノ反動減
羊毛	三一、五八六	二六、三二二	五、二六四	〇・一六	「トップ」減退ノ結果脂毛ニ増加スル傾アリ

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減割合	増減事由
生	二四、五二九	二五、八二〇	一、二九一	〇・〇五	内地不景氣ノタメ
羅紗及セルヂス	一九、六〇八	一八、六七四	九三四	〇・〇五	下半年ノ入氣恢復ヲ氣辨ヘタルタメ
硫酸アムモニア	一七、八三八	一四、八六五	二、九七三	〇・一六	農作物安値ノタメ本品ヲ多量ニ使用スル傾アリ
麻類	一四、二六八	一三、五八九	六七九	〇・〇五	前年米入減ノ反動
砂糖類	一三、七六九	一四、四九四	七二五	〇・〇五	内地不況ノタメ
豆類	一三、〇六二	一一、八七五	一一、八七	〇・一〇	産地安値ノタメ
小麦類	一一、九〇七	一四、三四一	二、四三四	〇・二〇	操短續行ト産地割高ノタメ
米	一一、六五四	二二、〇〇八	一〇、三五四	〇・四一	前年内地秋作ノ豊穰ナリシタメ
豆	一一、七六四	一一、三八三	六一九	〇・〇五	農作物安値ノ爲メ備尾ニ節約ヲ加フル傾アリ
鐵板(非電鍍)	一一、二七九	一〇、七四二	五三七	〇・〇五	前年ノ反動増
紡績機	八、六八八	八、八六五	一七七	〇・〇二	入籍用ノ備置完了ノタメ
製紙用パルプ	七、二五四	七、六三六	三八二	〇・〇五	操短續行ノタメ
アニリン染料	六、一六九	五、二二八	九四一	〇・一五	前年ノ反動増
苛性曹達	五、四四二	四、一八六	一二五六	〇・三〇	同
革類	五、三九九	五、六八三	二八四	〇・〇五	内地不況ト和製品増産ノタメ
鳥卵	五、〇四四	五、九三四	八九〇	〇・一五	爲替ノ不利ト内地産出増加ノタメ
パイプファイ及シダー	四、八八七	四、九九七	一一〇	〇・〇二	内地不景氣ノタメ
アルミニウム塊	四、八六三	三、二四二	一、六二一	〇・五〇	水閣相場安値ノタメ
鉛塊	四、六五〇	五、八一三	一、一六三	〇・二〇	内地不景氣ノタメ

錫	棉	包	紙	銑	曹	羊	貝	菜	コ	硝	揮	牛	軸	亞	智	石	漆	鐵	紙	力	板
塊	子	裝	用	鐵	達	毛	子	子	ン	子	發	肉	木	鉛	利	炭	等	等	等	等	等
塊	子	紙	紙	鐵	灰	ト	穀	精	ス	薄	油	(生)	材	塊	石	炭	形	形	形	形	板
一、三二二	一、三八八	一、四〇八	一、五九五	一、六〇〇	一、六二八	一、六四六	一、七二〇	一、九五四	二、〇九二	二、六五四	二、六七四	二、八四一	二、九三四	二、九八〇	三、〇四一	三、一八一	三、一八四	三、二四六	三、二〇一	三、二〇一	三、二〇一
一、四五八	一、四六一	二、三四六	一、三二九	二、六六七	五、五〇九	一、六六三	一、八一〇	二、〇一四	二、一三五	四、四二〇	三、一四六	二、九九一	二、六六七	三、七二五	三、二〇一	三、二〇一	四、〇一五	四、二四三	四、二四三	四、二四三	四、二四三
一、四六六	七三	九三八	二六六	一、〇六七	三、八八一	一六	九〇	六〇	四二	一、七六六	四七二	一五〇	二六七	七四五	一六〇	六五	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一
〇・二〇	〇・〇五	〇・四〇	〇・二〇	〇・四〇	〇・七一	〇・〇一	〇・〇五	〇・〇三	〇・〇二	〇・四〇	〇・一五	〇・〇五	〇・一〇	〇・二〇	〇・〇五	〇・〇二	〇・〇五	〇・〇五	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
内地不景氣ノタメ	菓子糖ト同一理由	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動増	前年ノ反動減	本品製造機増設ノタメ	相場低落ノタメ	農作物ノ安値ト支那不作ノタメ	同	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動減	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動減	前年ノ反動増	前年ノ反動減	同	内地不景氣ノタメ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ

一三四

自大正十五年一月至昭和三年四月當港輸入價額連月比較表

牛皮	水牛皮	鐵線(電線)	鐵共
一、二八三	七四〇	一、九六九	九二五
六八六	一八五	〇・三五	〇・二〇
同	同	同	同
和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ	和製品ノ出超増加ヲ見越シタルニ

大阪税關長答申  
大阪税關管内ノ本年ノ貿易豫想額ヲ各港別ニ表示スレハ左ノ如シ

出	輸	區分	港別
本年ノ豫想額	前年ノ實績	増減(見込額)	右増減(歩合)
大阪港	名古屋港	四日市港	武豊港
敦賀港	七尾港	伏木港	宮津港
計			

一三五

計入		出輸		超出(×)入		入		輸	
右増減(△)歩合	増減(△)見込額	前年ノ實績	本年ノ豫想額	右増減(△)歩合	増減(△)見込額	前年ノ實績	本年ノ豫想額	右増減(△)歩合	増減(△)見込額
一割四分	八六八五五	六二八、二七四	七二九、二一九	一分八分	二九、二四六	二四四、九二四	二九四、一七〇	一分一分	二九、二四六
六分七分	七五九一〇	二九、二八一	一三六、八〇〇	二分五分	六、三三四	七七、三八九	八三、七三三	二分四分	二、九一〇
五分五分	三、〇四六	四三、一四二	四〇、〇九六	四分四分	一、四四三	三六、九三二	三三、四七八	四分四分	一、四四三
二分一分	一、七七一	二二、六四五	二二、〇五九	四分四分	一、四四三	二二、五八五	二二、〇五七	四分四分	一、四四三
七分七分	一、五八三	八、三三八	一〇、〇〇〇	四分四分	一、四四三	六、〇〇〇	六、〇〇〇	四分四分	一、四四三
三分	一八七	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三
二分一分	一八七	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三
一分一分	一八七	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三
一分一分	一八七	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三	一、〇六二	二、六二四	四分四分	一、四四三

備考

一、大阪、名古屋及四日市各港貿易豫想額ノ内譯ハ別紙ノ通  
二、其他ノ諸港中

武豊港ノ輸出貿易ハ殆ント見ルヘキモノナク、本年ノ輸出減少ハ前年爆發藥類ノ輸出アリシカ如キ特殊ノ事由ナキ見込ナルニ因ル。  
輸入ノ減少ハ同港ノ輸入重要品タル滿洲産大豆ニ對スル需要カ割安ナル北海道産大豆ノ需要ニ移リタルト揮發油及大豆粕ノ需要減退ノ見込ナルニ因ル。

(別紙)

一、大阪港貿易豫想額内譯

區分	品名	本年ノ豫想額	前年ノ實績	増減額	増減歩合	増減見込事由
精糖		三、九五二	一、九七六	一、九七六	一〇〇	本品ノ輸出増加ハ其ノ主要販路タル支那ニ於ケル輸出額ノ北進ニ伴ヒ中支方面ノ需要漸次増加スヘク且内地相場ノ安値ハ一層其ノ輸出ヲ促進スルノ見込ナルニ因ル

敦賀港ノ輸出ハ主トシテ對露輸出ナルカ、日露貿易關係ノ改善セララルニ伴ヒ漸増ノ傾向ニ在リ。本年ノ輸出増加ハ主トシテ漁網及紙類ノ輸出好望ニ因ル。輸入ハ前年ニ比シテ大差ナシ。  
七尾港ノ輸出モ對露西亞ヲ主トスルモノナルカ、同國ノ革命以來微キトシテ振ハス、前年ノ輸出額ハ僅ニ三百二圓ニシテ殆ント云フニ足ラス。本年モ輸出増進ノ見込ナシ。  
輸入増加ハ七尾「セメント」會社ノ設立ニ伴ヒ製造機械ノ輸入セラレタルト近年過磷酸肥料ノ需要増加セルニ依リ其ノ原料タル磷礦石ノ入荷増ノ見込アルトニ因ル。  
伏木港ノ輸出増加ハ同港輸出ノ大宗タル打綿ノ前年來滿洲方面ニ於ケル販路著シク開拓セラレ、其ノ輸出相當好望ナルニ因ル。  
輸入増加ハ米材ノ需要増進、磷礦石、マンガン、鑛石、石炭及食鹽等ノ消費増加ニ因リ此等物品ノ入荷増ノ見込アルニ因ル。  
宮津港ノ輸出ハ大正九年以降皆無ニシテ本年モ依然局面開展ノ見込ナシ。  
輸入減少ハ北丹地方ニ於ケル震災復興材料トシテノ木材ノ輸入ハ既ニ一段落ヲ告ケタルト豆精及石炭等ノ需要不振ナルトニ因ル。





(輸出) 綿織物

本品ノ主要仕向地タル支那ニ於テハ前年ノ買控ヘニ因ル品薄ト農作物ノ增收ニ因ル購買力ノ増進ハ相俟テ本品ニ對スル需要ヲ促シ、殊ニ加工綿布ニ至リテハ英國品ヲ壓倒シ着々其ノ販路ヲ蠶食レツツアレハ、同方面ニ對スル輸出ハ相當ノ増加ヲ期待レ得ヘク、其ノ他英領印度及蘭領印度方面ヘモ相當ノ出増ヲ期待レ得ヘキカ故ニ結局本品ハ約二割増ノ見込ナリ。

(輸出) メリヤス製品

本品ハ近年大量生産ノ爲其ノ價格低落セルノミナラス其ノ品質著シク向上シ海外販路ノ擴張ヲ見其ノ輸出ハ逐年増加ノ趨勢ニ在リ。殊ニ年初以來絲價ノ低落ニ伴フ製品相場ノ低落ハ海外筋ノ需要ヲ喚起シ、就中支那方面トノ間ニハ前年ノ買控ヘニ因ル在荷薄ノ爲商談著シク進捗シ、印度及英國方面ノ輸出モ亦極メテ順調ナルヲ以テ結局前年ニ比シ約三割見當ノ増加見込ナリ。

(輸入) 棉花

昨年ノ財界動亂ニ際シ紡績會社ハ操業短縮ヲ實行シ本年ニ入りテモ尙之ヲ繼續シツツアルカ、各社ニ於ケル繰數ノ増加ノ爲、本年ノ棉花消費量ハ大體前年ト大差ナカルヘキモ、價格ノ關係上其ノ輸入價額ニ於テハ約一割五分増加ノ見込ナリ。

(輸入) 羊毛

本品ノ輸入數量ハ前年ト大差ナキ見込ナルモ原毛相場ノ騰貴ノ爲結局本品ハ前年ニ比シ約二割増ノ豫想ナリ。

(輸入) 木材(パイン、ファー、シダー、ヘム、ロツク及スプールス)

本品ハ關稅引上見越ノ爲前年末ヨリ本年ニ入り相當多量ニ輸入セラレ市價ハ漸次軟氣配ヲ示シ市場ハ滯貨ニ苦シミツツアルヲ以テ本年下半期ノ輸入ハ相當減少スヘキモ、沿海州材ハ逐年輸入増加ノ傾向ニ在リテ五月以降ノ積取期ニハ相當量ノ輸入ヲ見ルヘク、結局本品ハ前年ニ比シ約五分ノ増加見込ナリ。

一、名古屋港貿易豫想額内譯

區分	品名	本年豫想額	前年實績	増減額	増減歩合	増減見込事由	
輸	麥酒	三、六〇〇	三、〇〇〇	六〇〇	二〇	販路開拓ニ依テ支那及印度方面ノ需要著シク増加スヘキ見込ナルニ因ル	
	綿織物	一四、五九九	一四、五九九	〇	〇	本品ハ英領印度及蘭領印度ヘノ輸出好望ヲ期待シ前年ト差異ナキ見込ナリ	
	陶磁器	二〇、四〇一	二〇、四〇一	〇	〇	北米合衆國ニ於ケル本品ノ販路ハ歐洲品ニ依リ著シク浸透セラレツツアルモ南方面ト差異ナキ見込ナリ	
	時計計	一、九四〇	一、七六四	一七六	一〇	本品ノ出増ハ本年ニ入り支那方面ヨリ續續注文到來シ商談順調ナルニ因ル	
	木材	四、二一〇	三、八二八	三八二	一〇	本品ノ出増ハ内地ニ於ケル相場ノ騰貴ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者カ名古屋港利用ニ努メツツアルノ傾向アルニ因ル	
	其他ノ諸品	八、三二七	八、三〇〇	二七	〇・三	本品ノ輸入ハ前年ヨリ買控ニ對シテ若干ノ増加見込ナルニ因ル	
	計	五三、〇七七	五一、八九二	一、一八五	二・二		
	出	米	三、一七一	七、九二八	四、七五七	六〇	本品ノ入減ハ輸入割減令ノ實施ヲ見ルニ至リタルト製粉界ノ不況トニ因リ之カ原料タル米ノ輸入カ手控ヘタルニ因ル
		小麥	六、一七五	五、一四六	一、〇二九	二〇	本品ノ入増ハ内地産小麥相場ノ昂騰ニ伴ヒ外國産小麥ノ割安ナルニ至リタルト日本製粉會社名古屋工場カ本年八月ヨリ其ノ事業ヲ開始スル見込ナルニ因ル
		棉花	一〇、四一三	一一、五七一	一一一五八	一〇	本品ノ入減ハ前年ヨリ買控ニ對シテ若干ノ増加見込ナルニ因ル
羊毛		二七、六七三	一八、四四九	九、二二四	五〇	本品ノ入増ハ原毛價格ノ騰貴ニ加フルニ各毛織工場等ノ能力増大シタルト南米アメリカ等ノ羊毛ノ輸入増大シタルト南米ニ因ル	
石炭		六、一八一	五、一五一	一、〇三〇	二〇	本品ノ入増ハ外炭ノ割安ナルト機炭ヲ木炭ニ代用スル傾向アリテ其ノ需要著シク増加スル見込ナルニ因ル	

入	出	増減	見込	増減	見込	増減	見込
木	九、〇八五	一〇、〇九五	一、〇一〇	一、〇	一、〇		
油	五、六七二	七、〇九一	一、四一九	二、〇	二、〇		
其他ノ諸品	一五、三五三	一一、九五八	三、三九五	二、八	二、八		
計	八三、七二三	七七、三八九	六、三三四	〇、八	〇、八		

三、四日市港貿易豫想額内譯

入	出	増減	見込	増減	見込	増減	見込
大豆	八四四	一、〇五五	二、一一	二、〇	二、〇		
菜子及芥子	一、九三八	一、四九一	四四七	三、〇	三、〇		
棉花	二〇、二二〇	二五、二七六	五、〇五六	二、〇	二、〇		
胡麻子	七二六	一、〇三七	三一一	三、〇	三、〇		
豆糟	一、八五七	二、六五三	七九六	四、〇	四、〇		
其他ノ諸品	五、八九三	五四一九	四七四	〇、九	〇、九		
計	三一、四七八	三六、九三一	五、四五三	一、五	一、五		

長崎税關長答申

一、  
當關ニ於ケル貿易ノ大勢ハ一ツニ對支貿易ノ盛衰ニ支配セララル所ナルカ今回ノ支那動亂乃至對支出兵カ我貿易上ニ及ホスヘキ影響ハ輕々シク豫斷スルコト能ハサルモ大體ニ於テ本年ノ貿易額ハ輸出二千五百三十萬圓、輸入四千五百五十萬圓、合計六千六百八十萬圓ノ見込ニシテ前年ニ比シ總額ニ於テ五百四十萬圓ノ減ナリ

輸出入額	昭和三年(豫想)	昭和二年	比較
輸出額	二五、三〇〇	二二、七〇二	(+) 一、六〇〇
輸入額	四一、五〇〇	四八、五四四	(-) 七、〇〇〇
合計	六六、八〇〇	七二、二四六	(-) 五、四四六

二、  
今年ノ輸出貿易ハ石炭及綿絲増出ノ爲メ昨年ヨリモ多少好轉スル見込ナリ

品名	昭和三年(豫想)	昭和二年
石炭	一九、〇〇〇	一七、三〇六
綿絲	一、四〇〇	九六九
水産物	一、〇〇〇	一、四一三

精糖	九〇〇	八四四
其他	三〇〇〇	三二七〇
計	二五、三〇〇	二二、七〇二

一四四

主ナル輸出品ニ就キ消長豫想ノ理由ヲ略記スレハ左ノ如シ  
 (一) 石炭 約千九百萬圓内外ノ見込

(理由) 管内石炭ノ約四割五分ヲ輸出スル上海市場ニハ目下濟南事件ニ絡マル日貨排斥ノ氣構ヘアリテ本品ニ就テモ最近六月以後積止メノ入電アリタル位ナルカ本品ハ日貨排斥ニ就テ鈍感ナルカ故ニコノ方面ヨリ出荷減ニ陥ルコトハ全然ナカルヘシ  
 次ニ内地炭界ハ目下貯炭ノ増加ニ備マサレテ送炭調節率ヲ高メタル程ナルヲ以テ海外ニ活路ヲ求ムルニ至ルヘク現ニ崎戸炭、唐津炭、杵島炭ノ如キハ旺シニ輸出ニ努メツツアリ故ニ今年ハ結局約百五十三萬噸約千九百萬圓見當ニ達スル見込ナリ

(二) 綿織絲 約百四十萬圓見當ノ見込  
 (理由) 今日マテノ處今年ノ出荷ハ昨年ニ比シ著シク好轉シ居ルモ最近本品ノ最大市場タル香港ニ日貨排斥ノ氣構ヘホノ見ユルニ依リ向後ノ出荷ハ多少ノ打撃ヲ受クヘク從ツテ今年ノ輸出高ハ結局六千圓百四十萬圓見當ニ止マルヘシ

(三) 水産物 約百萬圓ノ見込  
 (理由) 支那各地及香港ニハ最近日貨排斥ノ氣構ヘアリテ上海ノ如キ既ニ五月中旬本品ノ積止メヲ通知起シ而シテ香港向ニ就テモ居留華商ハ警戒シテ買控ノ態度ニ出テツツアルカ故ニ今年ノ輸出ハ之ヲ約百萬圓内外ト豫想セハ大過ナカラシ

(四) 精糖 約八十五萬圓内外ノ見込

(理由) 最近上海方面ニハ日貨排斥ノ氣配アリテ本品ニ就テモ六月以降積止ノ入電アリタリ上海ノ現状ヨリ推シ昨年同様六萬俵九十萬圓ト見ハ大過ナカラシ

今年ノ輸入貿易ハ肥料棉花礦油鐵材機械類木材等カ昨年ニ比シ若干増加ノ見込ナルモ外米ノ輸入カ激減スヘキニ因リ結局輸入總額ハ昨年ノツレヨリモ約七百萬圓ノ劣勢ニ陥ルヘシ

品名	昭和三年(豫想)	昭和二年
外國米	四〇〇〇	一六、一一四
豆類	二五〇〇	二、六〇七
砂糖	八〇〇	一、〇一四
肥料	一一、〇〇〇	九、一九六
棉花	八〇〇〇	七、七二五
礦油	三、〇〇〇	二、七〇八
鐵材	三、〇〇〇	一、七一二
機械類	二、〇〇〇	九、五五五
木材	一、二〇〇	五、五五三
其他	六〇〇〇	五、九六〇
計	四一、五〇〇	四八、五四四

主ナル輸入品ニ就キ消長豫想ノ理由ヲ略記スレハ左ノ如シ

一四五

(一) 外國米 約四百萬圓見當ノ見込

(理由) 昭和二年度ノ内地米作ハ全國的ニ觀レハ豐作ナリシモ九州及沖繩ハ凶作ニ陥リタリ從ツテ例年ナラ

ハコノ不足額ノ大部分ヲ外國米ニテ補フ譯ナルモ今年ハ外國米輸入制限令存スル爲メ自然臺灣米ヲ以テ補填サレニ至ルヘシ仍テ管内今年ノ輸入高モ約五十萬擔四百萬圓ヲ超ユルコトナカレヘシ

(二) 豆類 約二百五十萬圓内外ノ見込

(理由) 管内輸入豆類ノ約八割近クハ大豆ナリカ昨年度内地大豆ノ不作尻ヲ受ケタル爲メ今年一月乃至四月

間ニ於ケル大豆ノ輸入ハ頗ル旺盛ナルモ内地大豆作トノ關係上昨年同期ニ比シ若干劣勢ニ陥ルヘク今年中ノ大豆輸入ハ約三十萬擔内外約二百萬圓ノ見込ナリ而シテ大豆以外ノ豆類ノ輸入額ハ昨年度ノ五十萬圓ト見テ大差ナカレヘシ

(三) 砂糖 約八十萬圓ノ見込

(理由) 今年ハ臺灣糖増收ノ爲メ製糖工場ニ於テ輸入原料糖ノ消費ヲ手控ヘツツアルノミナラス二年末ニ於

ケル輸入糖ノ在庫品モ約七萬擔存シタルカ故ニ對支輸出精糖約八萬俵ヲ製造スルニハ少量ノ輸入ニテ足レ譯ナリ仍テ今年ノ輸入ハ結局昨年ノ二割減即チ八十萬圓見當ト見レハ大過ナカレヘシ

(四) 肥料 約千百萬圓見當ノ見込

豆	粕	五、一〇〇千圓
獸	骨	二、五〇〇
菜	子	二、三〇〇
磷	石	三、三〇〇
其	他	七、七〇〇
計		一一、〇〇〇

(理由)

(1) 豆粕 今年ハ米價浮エサル爲メ農家ノ購買力減退セルニ搦テ、豆粕亦産地油房ノ操短ニ祟ラレ割高相場

ヲ示レツツアルカ故ニ本年ノ輸入高ハ約二百二十萬玉、五百十萬圓見當ニ過キサルヘシ

(2) 獸骨 昨年ハ財界混亂ノ爲メ買付著レク手控ヘラレタルカ今年ハ事情餘程改善ノ跡アルヲ以テ輸入モ舊

態ニ復レ約五十萬擔約二百五十、六十萬圓内外ニ達スル見込ナリ

(3) 菜子粕 昨年ハ内地ニ於ケル財界混亂ト産地支那ニ於ケル出廻リ澁滞トニ依リ輸入高激減シタルカ今年

ハ産地ヨリ上海市場ヘノ出廻リ圓滑トナリ且ツ内地肥料輸入商モ昨年ノ如キ手許不如意ニ陥ラスシテ存リニ

買進ミツツアルカ故ニ今年ノ輸入高ハ一昨年程度ノ五十萬擔二百萬圓内外ニハ達シ得ル見込ナリ

(4) 磷礦石 本品ハ大日本人造肥料會社鏡工場ノ需要品ニシテ本年六月ヨリ三角港ニ於テ輸入開始ノ豫定ナ

ルカ今後毎年約三萬噸宛輸入ノ計畫ナルモ今年ハ約一萬噸約三十三萬圓ノ輸入ニ止マラン

(五) 棉花 約八百萬圓内外ノ見込

(理由) 昨年ハ印度棉カ割高ナリレ關係上米棉雜物ノ需要増加シタルカ今年ハ反對ニ米棉カ五百萬俵カラノ

減收ニ祟ラレ割高トナレリツノ結果米棉雜物ヲ棄テ印度棉若クハ支那棉ヲ需要スルニ至ルヘシ仍テ今年ノ輸入高ハ左ノ通り見込マハ敢テ大過ナカラン

米	棉	五〇、〇〇〇擔
印	度	九〇、〇〇〇擔
支	那	一〇、〇〇〇擔
全	計	一五〇、〇〇〇擔

(六) 礦油 約三百萬圓ノ見込

約八、〇〇〇、〇〇〇圓

(理由) 礦油ノ輸入高ハ最近漸増ノ一路ヲ迎リツツアルカ今年モ前年ニ比シ約二割近クノ増加ヲ告ケル見込  
ナリ蓋發動機船其他ノ燃料トシテ原油ノ需要増加シツツアル結果ナリ

(七) 鐵材 約三百萬圓ノ見込  
(理由) 管内輸入鐵材ノ大部分ハ造船材料ナルカ今年ハ三菱造船所ニ於ケル新造船及修繕船多キ爲メ約二百萬圓近クノ輸入アル見込ナリ

(八) 機械類 約二百萬圓ノ見込  
(理由) 本品ハ殆ント全部造船材料ナルカ今年ハ三菱造船所ニ於ケル新造船多キ爲メ少トモ二百萬圓見當ニハ達スヘシ

(九) 木材類 約百二十萬圓ノ見込  
(理由) 輸入木材ハ造船材料ヲ主トセルモノナルカ今年ハ需要増加ノ傾向アルカ故ニ内輪ニ見積ツテモ昨年ノ約倍額即チ百二十萬圓内外ニハ達スヘシ見込ナリ

門司稅關長答申

(△印減)

港別種別	自一月至四月實績		自五月至十二月		全年	
	三年	二年	三年見込	二年實績	三年見込	二年實績
入超	二,一七二	二,三九七	二,一〇六	二,一〇六	三,三〇七	四,五九三
合計	四,九六七	四,五八九	七,九八六	七,三八〇	一一,一四二	一一,九三九
輸入	二,七三六	三,四七三	四,九八六	四,七三六	七,七三三	八,一四二
輸出	一,五九三	一,〇七五	二,九六〇	二,一四四	四,五一九	三,八〇一
増減額	一,一四三	二,四〇二	二,〇二六	二,五九二	三,一九三	四,三四一
増減割合	〇,四九	〇,五三	〇,二六	〇,三三	〇,二二	〇,二七

港	下關港		若松港		博多港		徳山港		萩港	
	合計	輸出	合計	輸出	合計	輸出	合計	輸出	合計	輸出
入超	九六六	一四八	一,五三六	三,七三三	七,八〇三	五八	二,〇三三	七,三〇四	七,二八七	六
合計	四,九六七	九六六	二,一〇二	一,一〇二	二,一〇二	二,一〇二	二,一〇二	二,一〇二	二,一〇二	二,一〇二
輸出	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五	一,〇七五
増減額	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三	一,一四三
増減割合	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九	〇,四九



輸出總計	其他諸品	綿織糸	麥酒	木蠟	機械類	鐵類	麻囊	果實類	真鍮黃銅	陶磁器	水産物	藥材類	紙類	綿織物(内門可)
一九九六二	四、八七三	三九	一五九	四四	一〇九	一一七	二二九	二九二	三九六	三一二	六四三	五一四	一〇八七	一〇七七 (九四七)
一五、五五八	三、四八九	二五三	一〇二	一一四	一一一	五一	一三五	二一〇	一七六	一九七	四八〇	四二二	七三六	一、〇〇〇 (九〇五)
四、四〇四	一、三八四	二一四	五七	八〇	二	六六	九四	八二	二二〇	一一五	一六三	九二	三五二	七七 (四二)
〇、二八	〇、四〇	〇、八五	〇、五七	〇、六五	〇、〇二	〇、一三	〇、七〇	〇、三九	一、二五	〇、五八	〇、三四	〇、二二	〇、四八	〇、〇八 (〇、〇五)
五七、八七六	一三、六九八	二五四	四〇二	五〇〇	五六一	五七七	七四六	九四六	一、一四六	一、一八〇	一、九四三	二、二〇二	二、二三七	二、九七〇 (二、五四〇)
五〇、五一七	一一、五三七	五〇九	二六八	五〇二	七〇一	四八一	四九七	七二八	七六四	七八七	一、七一一	一、九一一	一、八六四	二、二九〇 (二、一九〇)
七、三五九	二、一六一	二五五	一三四	二	一四〇	九六	二四九	二一八	三八二	三九三	二三〇	二九一	三七三	三四九 (一五〇)
〇、一五	〇、一九	〇、五〇	〇、五〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、五九	〇、三〇	〇、二五	〇、五〇	〇、一三	〇、一〇	〇、二〇	〇、一三 (〇、〇七)

精糖 内地供給依然トシテ過剩見越ナルニ加ヘ輸出向ノ管内工場亦極力新販路ノ開拓ニ努メシ爲天津、大連、浦鹽方面ノ積出相當活況ヲ呈シツツアリ中支方面ハ排日運動懸念ノ爲一時積出ヲ中止シ居レルモ時局安定ノ上ハ引續キ商談回復ノ見込ナレヲ以テ門司積ハ前年ニ比スレハ二割内外増加ノ見込ナルモ若松積ハ同地明治製糖上海分工場

製品ヲ支那市場ニ供給スヘキヲ以テ前年ト大差無カルヘク差引合計一割六七分ノ増加ニ止マルヘシ  
 月平均十五六萬樽ノ輸出ヲ見ルヘク本年總計百九十萬乃至二百萬樽ニ達スヘキ見込ナルカ故ニ一樽四圓内外トシテ本年輸出額約八百萬圓ノ豫想ナルモ支那方面ノ時局懸念ノタメ積出中止ノモノアリ結局七百五十萬圓内外ニ止マルヘシ

小麥粉 昨春鈴木商店破綻以來事業縮小中ナリシ當地日本製粉工場ハ其後三井物産ノ手ニ移リ北支那天津ヲ始メ南洋方面ノ新販路開拓ニ成功シ月平均四五萬袋ノ積出ヲ見フタリ最近排日運動ノ懸念無キニ非ルモ未ダ著シキ影響ヲ見ス更ニ今後内地ノ不需期ヲ迎ヘテ月平均積出額七八萬袋本年總計八十萬袋ニ達スヘク前年ニ比シ約倍増ノ見込ナリ

石炭 仕向先支那方面ハ支那炭ノ出廻願調ニシテ殊ニ開平、淄川等ノ各炭坑ハ動亂見越ノ爲前年來多量ノ貯炭ヲ保有スルノミナラス最近出炭及賣込ヲ急キツツアル模様ニシテ門司港ノ如キ年初以來積出皆無ノ状態ナリシカ更ニ軍事輸送ノ爲船復ノ不足運賃高トナリ今後モ相當不振ヲ續クル見込ナリ  
 綿織物 管内積出ノ多クハ下級綿布ニシテ近年支那品ニ壓倒セラレ逐年減少ノ傾向ニアレ共本年爲替ノ軟調ト原棉高ノ刺戟ヲ受ケ幾分採算有利トナレハ折柄支那政局ノ不安氣構ノ爲積出手控ノ模様アリ結局下關港分ヲ併セ合計二三百萬圓内外即チ前年ノ一割増程度ニ止マル見込ナリ

紙類 支那時局ノ北漸ト瑞典ノ紙業罷工ノ影響トニ依リ年初以來中支方面ノ需要ヲ増加シ輸出活況ヲ呈シシカ四月初メ同業業ノ終想シタルト不需期ニ向フト共ニ排日勃發ノ氣構船腹不足等ノタメ一時不勢ヲ呈スヘシ然ルニ本年富士製紙會社江別工場及其他合計十臺ノ抄紙機増設運轉並ニ京阪市場ノ供給依然潤澤ナルト爲替ノ下落トニ依リ今後ノ輸出ハ前年同期ト略大差ナカルヘク實績ヲ加ヘテ結局二割ヲ増加スヘシ

水産物 實績ニ於テ三割内外ヲ増加セルハ春來鮮魚ノ豐漁ナリ結果ナルカ支那時局ノタメ輸出期ニ入レル鹽干魚ハ勢ヒ積出手控方針ヲ採ルヘク尙産地直送ニ依ルモノ漸ク増加スヘキヲ以テ今後ノ輸出ハ多キヲ期待シ難シ  
 陶磁器 實績ニ於テ既ニ前年ノ五割増ヲ示セルカ目下中部支那方面ハ時局不安ニ依ル代金回收難シ恐レ出荷中止ノ狀アモ南洋方面ハ前年輸入手控ノ折柄爲替相場ノ下落ニ刺戟セラレ商談活況ヲ呈レワツアリ支那ヲ除キテハ一般ニ市況良化セルヲメ今後モ引續キ相當好況ヲ續ク見込  
 眞鍮黃銅 印度方面ハ從來内地製銅業者ノ義務輸出カ著シク採算不利トナレタメ注文ヲ拒絶スルニ至リシモ本春來泰天兵器廠用棒材ノ大量注文ニヨリ前年ニ比シ約倍増シ本年中同方面ノミニ四五百噸ノ輸出ヲ見ルヘク而シテ其他ヲ合セ門司積總計千二百噸ノ輸出トナリ前年ニ對シ五割ヲ増加スヘレ  
 麻糞 歐洲方面向滿洲大豆輸送旺盛ノタメ包装用トシテ既ニ九十萬枚即チ前年總額ノ過半ヲ輸出シ今後モ引續キ増進ノ見込ナリ  
 鐵類 支那方面工場向棒材ノ需要相當活況ヲ呈シ來リシカ今後ハ前年ト略大差ナカルヘシ  
 機械類 電氣機械ノ如キ内地需要相當良好ナルト支那時局不安見越ノタメ本年輸出ハ減少スヘシ  
 木蠟 實績ニ於テ前年同期ノ三分ノ一内外ニ過キサレモ歐洲方面植物油ノ好況ニ漸次商談進行ノ模様アリ輸出期ヲ迎ヘ爲替有利ノタメ今後少クモ前年同様五十萬圓ハ下ラサル見込  
 麥酒 内地生産過剩ノ對策トシテ極力輸出ニ努メワツアリテ目下南支方面ハ動亂懸念ノタメ積出停止中ナルモ大連其他ハ漸次需要期ニ入ルト共ニ引續キ好勢ヲ示レワツアリ本年二萬乃至二萬五千兩ノ輸出ハ確實ナリト云フ  
 綿織糸 本年引續キ操業短縮ノタメ生産減少セルノミナラス支那糸ニ壓倒セラレテ逐年減少ノ傾向ニアリ最近内地織布用ノ消費ヲ増加セルト管内生産品市場向ノ大部ハ大阪方面ニテ處分セラレルモノ多キタメ當地積出ハ今後益々激減ノ見込

輸入重要品見込額前年對照

(△印減)

品名	自一月至四月實績				全年見込			
	三年	二年	増減額	増減割合	三年見込	二年實績	増減額	増減割合
綠綿	四、七三三	六、二一七	△一、四八三	○、二四	一一、六六八	一一、五四二	△一、一八四	○、一〇一
糖	五、六七七	九、三六九	△三、六九二	○、四〇	一五、三一八	一七、七〇五	△二、三八七	○、一〇二
(內若松)	(一、四五三)	(二、四一五)	△一、九六二	○、四〇	(五、四〇〇)	(五、三二六)	△七四	○、一三
油	二、三〇七	四、二七九	△一、九七二	○、四七	七、二二三	一〇、〇二八	△二、八〇五	○、二七
(內門司)	(二、一〇二)	(四、一五四)	△二、〇五二	○、四九	(六、八二一)	(九、六六二)	△二、八四一	○、二九
小麥	二、八三七	二、二二二	△六二五	○、二八	八、八四七	五、六二二	△三、二二五	○、五七
石炭	一、七五五	一、八四二	△八七	○、〇五	六、六一〇	六、八二七	△二一七	○、〇三
(內若松)	(一、四九七)	(一、五九三)	△九六	○、〇六	(五、四二〇)	(五、三六六)	△五四	○、一〇
鐵類	五、四一〇	四、四一三	△九九七	○、二三	一五、七四三	一一、二七四	△四、四六九	○、三九
礦油	八、七四〇	三、九七九	△四、七六一	一、二〇	一八、七八二	一五、〇一四	△三、七六八	○、二五
(內德山)	(六、六八八)	(二、五六四)	△四、一三四	一、六一	(二、九一五)	(一、〇五七)	△一、八五八	○、二八
硫安	七、八〇	八、一一	△一、三一	○、〇四	三、九五七	三、七一一	△七六六	○、二四
米及	七、五五	二、四六九	△五、〇八一	○、七〇	二、〇六五	四、五八八	△二、五二三	○、五五
生及	八、四六	八、五五	△九	〇、〇一	二、四五六	二、七二七	△二七一	○、一〇
豆	二、六四四	一、五〇五	△一、一三九	〇、七五	四、五四六	四、〇九八	△四八八	○、一三
(內若松)	(二、九二八)	(一、一五九)	△一、七六九	〇、六六	(三、〇〇〇)	(二、七七七)	△二、二二三	○、〇八
機類	六、四九	一、一六六	△五、三一	〇、四四	一、七一八	二、四五四	△一、三三六	○、三〇
煙草	三、九三	五、九二	△一、九九	○、三三	一、四五八	二、〇八三	△六二五	○、三〇
木材	七、七六	五、三三	△二、四三	〇、四四	二、四一四	一、六九四	△七二〇	○、四二
(內門司)	(五、五五)	(三、七九)	△一、七六	〇、四七	(一、八九九)	(一、二六六)	△一、六三三	○、五〇
牛	二、七三	五、五三	△二、八〇	〇、五一	七、二二九	一、〇三六	△六、一九三	○、三〇
鳥卵	二、五五	三、六九	△一、一四	〇、三一	八、五八	一、〇〇九	△七、五七一	○、一五



錫	三,七四八	二,五四三	一,二〇五	〇,四七	一,一七五〇	一〇,五六五	一,一八五	〇,〇一一
(内若松)	三,三三三	二,一三〇	一,二四三	〇,五八	一,〇二五〇	九,一〇六	二,一四四	〇,〇一一
曹達灰	二六九	二六八	—	—	一,一〇〇	一,〇二二	七八	〇,〇〇七
錫	三六三	五二四	一六一	〇,三二	一,〇〇二	一,二五二	二五〇	〇,二〇
礬石	三六九	一〇七	二六二	二,四五	一,一三四	九〇七	二二七	〇,二五
智利硝石	二八五	二八六	—	—	六一四	六八二	六八	〇,一〇
其他諸品	四,八二五	五,一七五	三,五〇	〇,〇六	一〇,八二〇	一五,二三二	四,四一一	〇,三〇
輸入總計	四八,六九〇	五〇,〇六八	一,三七八	〇,〇二	一三,一八二	一三,〇七四	二六二	—

經綿 當地輸入ノ上中國及九州一關ノ紡績工場其他ニ振向ケラレルモノ年間四五萬噸内外ナリ而シテ各工場ハ普通

五、六ヶ月ノ原棉手持ヲ常トスルモノナレカ本年引續キ操業短縮ノタメ原料手當ヲ縮少セルト相場高ニヨル買付  
 手控ノ結果輸入期ノ過半ヲ過キテ入荷數量ハ前年ニ比レ三割五分(價額ハ二割四分)減ヲ見セリ而シテ今後ハ輸入  
 減退期ニ入ルト共ニ原棉相場高、爲替關係、支那時局等ノタメ依然短縮ノ操業ナルヲ以テ結局本年輸入數量ハ  
 前年ノ二割乃至三割五分減ノ見込ナルカ價額ニ於テハ略前年ト大差無キ豫想

砂糖 本年臺灣産糖ノ激増ヲ移シ内地糖況不勢ノタメ外國糖ノ輸入手控傾向アリ精糖輸出モ外糖安ト支那時局ノタ  
 メ今後一般ニ悲觀サレ居レモ當地大日本製糖工場ハ輸出向精糖ノ製産ヲ主トシ一日ノ消費量三百五十噸内外ヲ  
 續ケ居レタメ全年ノ輸入數量ニ於テハ略前年ト大差無ク百二十六萬餘擔ニ達スル見込ナルモ相場下落ノタメ價  
 額ハ相當減少ノ豫想

油類 内地米及生糸其他農産物ノ價格下落ニヨル農村購買力ノ減少ト滿洲大豆ノ歐洲輸出旺盛ノタメ大連油房ノ豆  
 粕生産激減ニ伴フ相場高ト相俟テ割安ナル破安、石灰、窒素等カ代用セララルル傾向ヲ加ヘ輸入最盛期ニ際シテモ見  
 込ニ活況無ク本年輸入ハ數量價額共激減ノ見込

小麦 當地輸入ハ全部製粉原料用ナルカ從來ノ生産制限モ近ク撤廢ノ模樣アリ最近三井物産會社ニ於テ日本製粉工  
 場二千五百バールレノ經營ヲ引受ケ内外向共著シク製産ヲ増加スル見込ナルヲ以テ今後輸入ハ激増ノ豫想

石炭 本年引續キ送炭制限ヲ繼續セルニ拘ハラズ出炭貯炭共前年ニ比シ著シク増加セル一面對支輸出減ニヨル内地  
 供給ノ潤澤ト軍用船使用増加ニヨル船腹不足運賃高ノタメ一般ニ輸入不振ノ見込ニシテ殊ニ德山港輸入ハ海軍用  
 煉炭原料著減ノ見込ニシテ若松港輸入特殊炭ハ略前年同様ナルヲ以テ總額ニ於テ若干ノ減少ニ止ル豫想

鐵類 八幡製鐵所ニ於テ本年度ヨリ鋼材八十五萬噸ノ生産ヲ見ル豫定ナルタメ一般鋼材ノ輸入ハ減退スヘキモ、リイ  
 ヤロツド「其他品薄物ハ相場暴騰ノタメ相當増加ノ傾向アリ鉄鐵ハ八幡製鐵所用及淺野製鐵所用ノ一定量ヲ主ト  
 スルタメ前年ト略大差無キ見込ナルカ德山港ニ於ケル薄鐵板用「シートバー」及八幡製鐵所用屑鐵ハ原料使用増加  
 ノタメ大量輸入ヲ見ル豫想ニシテ就中屑鐵ハ本年十七萬噸使用ノ豫定中可及的廣汎ニ互リ購入ニ努ムル意圖ナル  
 ヲ以テ輸入モ從テ激増スヘク右特殊品ノタメ管内鐵類輸入ハ激増スル見込

礦油 從來特別輸入ノ取扱ヲ受ケシ德山海軍燃料廠用重油カ一般輸入ニ編入セラレタレ上本年同廠ニ於テ大量ノ補  
 充輸入ヲ要スル見込ナルヲ以テ同港ノミニテ約一千三百萬圓ニ達スヘク原油ハ最近門司港附近ニ於テアイヂング  
 サン石油會社カ油槽ヲ新設シテ中國四國方面ノ需要ニ應スルタメ博多港輸入ノ一部カ門司港ニ振替ヘラレ見込  
 ナリ其他ハ品目改正ノタメ局部的ニ多少數字上ノ變動ヲ見ルヘキモ本年礦油輸入ノ増加見込ハ德山港關係ニ因ル  
 モナリ

硫酸「アムモニア」農村方面ノ豆精需要減退ニ乘テ割安ナル本品ハ逐年販路ヲ開拓シツツアリ殊ニ本年前者ノ相場  
 暴騰ニ比レ本品ノ値上リ程度輕微ナル爲益此ノ傾向ヲ助長シツツアリ一面電化工業、日本窒素、クロード窒素會社  
 等ノ生産モ相當増加スヘク尙大日本人造肥料會社ニ於ケル破安ノ使用減少スヘキヲ以テ輸入ハ多少ノ増加ニ止マ  
 ルヘシ

米及粉 前年ノ豐作尻ヲ受ケ市況著シク不勢ナルニ加ヘ政府ノ輸入制限策ハ爲替ノ不利ト相俟ツテ一層輸入ヲ減少

セシノ殊ニ當地ハ政府買上米穀置ノタメ各倉庫共充實ノ姿ナルヲ以テ本年輸入ハ激減ノ見込

生誕談 英領馬來輸出制限撤廢聲明ニヨル先安見越ノ爲日本足袋其他ノ護謨工場ハ一般ニ前年通ノ使用ニ止メ買付  
手控方針ヲ執レルヲ以テ數量ニ大差ナキモ價額ハ幾分減少ノ見込

豆類 大豆ヲ始メ滿洲方面作柄豫想ニ反シテ良好ナラサリシ上歐洲向輸送旺盛ニ伴フ相場昂騰見越ニ刺戟セラレ實  
績ニ於テ著増ヲ示セシモ出廻期ノ一過ト共ニ今後ノ輸入ハ相當減少スル見込ナルカ價額ニ於テハ増加スヘシ

機械類 電氣機械ハ八幡製鐵所電化設備ノ一段落後ハ一般工場ニ於ケル補充品ノ輸入ヲ見ルノミニテ割安ナル内地  
品ノ普及ニ伴ヒ輸入減退ノ傾向アリ紡績機械モ大日本紡織兒島工場、明治紡戸畑工場其他ニ於テ深夜業廢止ニ伴  
フ設備増加ノ結了ト共ニ之カ輸入ハ今後減少スヘシ

鑛石 管内輸入ノ鐵鑛七八百萬圓、其他ノ鑛約二百萬圓ハ全部八幡製鐵所ノ原料用ニシテ本年出銑高七十三萬噸ノ  
豫定ナルカ最近大治ノ貯鑛十八萬噸アリ積出モ相當順調ニ復レ今年中同地生産四十五萬噸ヲ又海峽殖民地產契約  
品五十七萬噸支那桃沖ヨリ二十五萬噸、計百二十七萬噸ヲ輸入スル豫定ニシテ支那時局惡變セハ海峽殖民地ヨリ  
補充レ又滿鐵領ハ南洋產四萬噸、支那產三萬五千噸合計八萬五千噸ノ輸入見込ナルカ運賃其他ノ關係ニテ輸入價  
額ハ前年ヨリ相當増加スル豫想

木材 門司及博多兩港輸入木材ノ大部分ハ米國材ニシテ本年本國ノ生産過剩、太平洋方面ノ運賃安及近ク北洋材積  
取期ノ切迫ヲ移レテ一般ニ市況不勢ナルモ當地ハ前年ニ比レ貯材減少レ一方建築費低落ノタメ住宅建築増進ノ傾  
アリ漸次出廻期ニ入りテ輸入ハ相當増加ノ見込

牛肉、鳥卵 牛肉ハ天津、青島方面ノ時局不安ノタメ積取減少レ朝鮮牛ノ補充的移入ヲ見ルタメ又鳥卵ハ連年動亂ノ  
タメ支那卵ノ生産減少セルノミナラス内地卵ノ増産近海運賃ノ昂騰ト相俟ツテ輸入不引合ノタメ兩者共ニ三割減  
少ノ豫想

曹達灰 管内旭硝子及日本曹達工業兩社ノ年産合計四萬五千噸内外ニ上リ一面旭社ハ自家製品ヲ市場ニ供給スル  
共ニ硝子原料トシテハ割安ナル代用品芒硝ノ使用ヲ増加シツツアリ他方苛性曹達ノ賣行良好ノタメ同原料トシテ

大日本人造肥料工場ノ使用増加ト相殺シ輸入ハ前年ト大差無キ見込  
煙草 政府ノ委託生産ニ係ル關東州東亞煙草會社製「ゴールデンバット」ノ輸入毎年二百萬圓内外ナリレモ本年内地  
工場ニ於テ同品ノ増産ヲ實行スルニ至リシタメ輸入著減ノ見込

礫石 昨秋來過燐酸肥料ノ好況ヲ移シテ春來輸入激増セルモ漸次不需期ニ入ルト共ニ肥料聯合會ノ生産協定問題  
出現スル等各社共自發的ニ生産調節ヲ計ルニ至リ勢ヒ今後ノ輸入ハ幾分手控ヘラレル模様ナルカ全年總額ハ相當  
増加ノ見込

函館税關長答申

當關管内各港ニ於ケル本年ノ貿易豫想額ハ輸出二千六百十五萬圓、輸入二千五百二十萬  
圓合計五千三百三十五萬圓ニシテ前年ノ實績ニ比シ輸出ニ於テ五十萬二千圓ヲ輸入ニ於テ六  
萬一千圓ヲ減シ輸出超過額九十五萬圓トナリ前年ニ比シ四十四萬一千圓ノ減退ヲ見ルヘシ

出 入 出 入	本年豫想額	前年實績	前々年實績	前年ニ比レ	前々年ニ比レ
輸 入	二六、一五〇	二六、六二五	二七、五四〇	五〇・二	一、三九〇
輸 出	二五、二〇〇	二五、二六一	二〇、七三六	六一	四、四六四
出 入 計	五一、三五〇	五一、九一三	四八、二七六	五六三	三、〇七四
出 入 計	九五〇	一、三九一	六、八〇四	四四一	五、八五四

(單位千圓)

(一) 輸出

一六〇

(單位千圓)

品名	全年		本年		自一月至四月	
	本年豫想額	前年実績	増	減	本年	前年
豆	六、二〇〇	六、七〇八	△	五〇八	二、四八三	一、三五八
豆	二、五〇〇	二、七六〇	△	二六〇	一、二二五	六一一
布	一、三七〇	一、三四四	△	二六	二二八	一八六
錫	一、〇〇〇	八六六	△	一三四	二二二	二三六
鐵	一、四〇〇	一、八三五	△	四三五	八〇	七〇〇
其他ノ水産物	二、〇〇〇	一、九八一	△	一九	二一三	三二三
罐頭詰食物	一、二〇〇	一、六〇一	△	五〇一	一八六	一三一
印刷紙	九〇〇	六四二	△	二五八	四四四	二〇〇
石炭	一、一五〇	八八四	△	二六六	五三七	三〇六
鐵道枕木	二〇〇	二二三	△	二三	一一二	一三五
其他ノ木材	四九五〇	五、二八〇	△	三三〇	一、四八三	一、一八七
其他	三、三八〇	二、五二八	△	八五二	三二八	三八八
計	二六、一五〇	二六、六五三	△	五〇二	七、五二一	五、七六一

豆類 昨年下半年ニ於ケル異常ナル輸出増加ト本年産品ハ輸出検査ノ標準引上トノ爲前年ニ比レ下半年ニ於テ激減ヲ見ルヘタ爲ニ總額八百七十萬圓内外ニ止リ七十六、七萬圓ノ減少ヲ豫想セラル

水産物 三陸航路ノ開始、香港航路ノ促進等ノ爲輸出増加ノ狀勢ニアルモ支那ノ動亂排貨等ニ鑑ミレハ増加ヲ期待

(二) 輸入

(單位千圓)

品名	全年		本年		自一月至四月	
	本年豫想額	前年実績	増	減	本年	前年
米	一、三〇〇	四、一七二	△	二、八七二	七三七	八〇九
小麦	一、五〇〇	一、〇三八	△	四六二	五六七	二一八
大豆	三三〇	四九八	△	一七八	二二〇	三五一
食糧	七七〇	七九〇	△	二〇	六	四八

セラレス二十五六萬圓ヲ減シ五百七十萬圓見當ニ終ルナラシカ

罐頭詰食物 青森港ニ於ケル生産減ノ爲百十萬圓内外ニ過キサルヘシ約五十萬圓減少ノ見込

印刷紙 道内ノ増産ニ四割ヲ増加シ九十萬圓内外ノ輸出ヲ見ルヘシ

石炭 道内貯炭ハ漸増ノ趨勢ニアルヲ以テ百十五萬圓内外ノ輸出ヲ見二十六、七萬圓ノ増加ヲ見ルヘシ

木材類 鐵道枕木ハ前年同様二十萬圓内外ノ見當ナルモ其他ノ木材類ハ四月迄ニ於テハ増加ヲ示セルモ支那關東州仕向ハ排貨、運賃高ト沿海州材ノ壓迫トヲ受ケ激減ヲ見ルヘキヲ以テ總額四百九十五萬圓内外ニ減退シ三十萬圓ノ減少ヲ見ルヘシ

其他ノ雜品 北樺太ニ於ケル油田、炭田及沿海州ニ於ケル伐木事業等ノ所要物資ノ増加主因トナリ八十五萬圓内外ヲ増加シ三百三十八萬圓ニ上ルヘキ見込

右ノ内豆類及其他ノ雜品ヲ除ク各品ハ支那ノ排貨ニ輸出ノ伸展ヲ阻害セララルコト多大ナルモノアルヲ以テ排貨ノ強弱ト其ノ終熄ノ遲速トハ輸出額ニ大ナル差額ヲ來スヘク排貨ノ終熄意外ニ早キヲ得ハ前表ヨリ百五六十萬圓ノ増加ヲ期シ得ヘシ

一六一

原	石	燐	石	鐵	鐵	木	穀	豆	其	計
油	油	石	炭	礦	力	材	類	精	他	
六、〇三〇	一、四五〇	七六〇	四〇〇	一、〇四〇	六二〇	一、六〇〇	八八〇	四五〇	五、八五〇	二、二三〇
四、七三五	一、三七七	六〇二	三四〇	六六六	五八一	一、七八五	六五三	三八四	六、〇一九	一、六二一
一、二九五	七三	一五八	六〇	三七四	三九	一八五	二二七	六六	一六九	六〇九
一、二二六	三四一	一七三	一八〇	二四九	二八	五九五	一二六	二一一	四、五六五	九三〇
一、一七二	二七四	九一				八五四		一一六	四、〇三三	四四六
五四	六七	八二	一八〇	二四九	一七二	二五九	一二六	九五	五三二	四八四
									一、五四二	一、五四二

一六二

米 前年ニ於ケル道内ノ産額ハ二百五十萬石ト課ハレ未曾有ノ豐作アリシト輸入制限令ト爲前年ノ四百十七萬圓ヨリ百三十萬圓内外ニ激減スヘク豫想セラレ

小麦 小樽港ニ於ケル製粉工場ハ三井ノ手ニ依リ整理セラレタルト小麦粉ノ市價昂騰トニ漸ク活況ヲ呈レタルヲ以テ五割増ノ百五十萬圓ノ輸入ヲ見ルヘレ

豆類 前年ハ滿洲産ト道内産トノ値開増大レ多額ノ輸入ヲ見タルモ本年ハ三十二萬圓内外ノ輸入ニ終リ十七八萬圓ノ減少ヲ見

食鹽 真岡港ニ關東州鹽ノ大量輸入ノ計畫アルカ如キモ未ダ具體化セズ大體前年ト大差ナク七十七萬圓内外ノ見込

原油 青森港ニ於テタンクノ増設、土崎港ニ於ケル輸入増加ト爲六百萬圓内外ニ達シ百三十萬圓ノ増加ヲ豫想セラレ

石油 函館港ニ於ケル輸入増加ノ豫定ナルヲ以テ百四十五萬圓内外ニ上リ約七萬圓ノ増加ヲ見ルヘシ

パラフ井ソラックス 在荷簿ニ二割五分内外ヲ増加シ七十六萬圓内外ノ輸入アルヘキ見込

燐礦石 今後尙七千噸ノ原礦ヲ要スル趣ナルヲ以テ輸入額ハ四十萬圓ニ上リ前年ニ比シ六萬圓内外ノ増加ヲ見ルヘシ

石炭 釜石、室蘭ニ於ケル鐵ノ増産計畫ニコークス用トシテ、又北樺太炭山ノ設備ノ改良トニヨリ百萬圓ニ上リ三十萬圓内外ノ増加ヲ見ルヘク期待セラレ

鐵礦 揚子江沿岸ヨリ輸入セラレル爲目下ノ状態ニ於テハ前年ト大差ナク六十萬圓内外ノ見込

鐵力 在荷ノ豐富ニ一割餘ヲ減シ百六十萬圓内外ノ見込

木材類 沿海州材ノ輸入増加ニ八十八萬圓内外ニ上リ二十二三萬圓ノ増加ヲ見ルヘシ

穀 需要ノ漸増ニ一割五分ヲ増加シ四十五萬圓内外ニ上ルヘシ

豆類 前年室蘭港ニ船用炭積取ノ爲寄港シタルモノノ便宜輸入シタルモノ三十五萬圓アリタルニ依リ十七萬圓内外ヲ減シ五百八十五萬圓ニ減退ノ見込

其他ノ雜品 室蘭港ニ於ケル機械類、小樽港ニ於ケル智利硝石、函館港ニ於ケル鐵材等ノ増加主因トナリ六十萬圓内外ヲ増加シ二百二十三萬圓内外ニ上ル見込

一六三

昭和三年中朝鮮貿易ノ豫想

本年ノ朝鮮貿易ハ輸出三億六千五百十五萬餘圓輸入三億八千八百七十八萬餘圓合計七億五千三百九十四萬餘圓ニ達シ輸入超過二千三百六十二萬餘圓ヲ計上スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ輸出六百二十三萬餘圓輸入五百三十七萬餘圓合計一千六百六十萬餘圓ヲ増加シ貿易ノ權衡ニアリテハ八十六萬餘圓ノ入超過退ヲ招致スヘキ豫想ナリ今之ヲ對外國貿易ト對内地貿易トニ區別スルトキハ次ノ如シ

一、對外貿易ノ豫想

本年ノ對外貿易ハ輸出三千九十六萬餘圓輸入一億一千八百萬餘圓輸入超過八千七百四萬餘圓ニ達スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ輸出二百八十二萬餘圓輸入四百六萬餘圓ヲ増加シ出入貿易ノ權衡ハ百二十三萬餘圓ノ入超過增加ノ豫想ナリ蓋シ輸出ニアリテハ精糖ノ對支販路擴大ヲ増加ノ主因トシ輸入貿易ノ増加ハ滿洲粟ノ入荷不振ニ拘ラヌ前年輸入税免除ノ關係ヨリ内地ニテ通關手續ヲナシタル外米ノ直輸入ニ轉換スルモノ多キヲ主要事由トス輸出入各重要品ノ豫想ハ別項ニ掲ク

二、對内地貿易ノ豫想

本年ノ對内地貿易ハ移出三億三千四百十九萬餘圓移入二億七千七百七十八萬餘圓移出超過六千三百四十一萬餘圓ニ達スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ移出四百四十六萬餘

圓移入百三十一萬餘圓ヲ増加シ出入貿易ノ權衡ハ二百九萬餘圓ノ出超過增加ヲ來スヘキ豫想ナリ

前記移出貿易ノ増加ハ魚類、大豆、生糸、牛等ノ増出ヲ主因トシ移入貿易ノ増進ハ綿布、絹布、鐵材及肥料ノ需要増大ヲ主要事由トス詳細ハ別項ニ説明ノ通り絨上ノ豫想ニツキ本年四月迄ノ實績ト五月以降ノ見込トヲ區別シ且前二年ノ實績ト對照スレハ左ノ如シ

昭和三年貿易豫想及過去二年實績 (單位千圓)

年計	自一月至四月實績			自五月至十二月			年計
	元	二	三	元	二	三	
輸 出	九、六六四	八、五三二	九、五四四	一、九六〇	一、五二五	三、〇九六	二四、七七九
輸 入	四五、八八三	四六、二七五	四七、二四九	六七、六六八	七六、六八四	一一八、〇〇三	二二、九三三
移 出	一一〇、五三七	一一一、九九六	一二七、五一八	二〇八、七九五	二一〇、六五七	三三四、一九六	三三八、一七五
移 入	八九、五三一	八五、四七八	八〇、〇九九	一八三、九九五	一六八、一三六	二七〇、七八三	二四八、二三五
輸 移 出	一一〇、二〇一	一一〇、五二九	一三七、〇六三	二二八、三九五	二五五、八九一	三六五、一五八	三六二、九五四
輸 移 入	一三五、四一四	一三一、七五三	一二七、三四八	二五一、六六三	二四四、八二〇	三八八、七八六	三七一、一六八

次ニ對外國及對內地各貿易重要品ニツキ豫想スル所左ノ如シ

一、輸出重要品過去二年実績及本年豫想

品名	單位	數			價		
		昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
魚類	千斤	一二,九五八	一二,九五八	一三,四二五	一,二〇七	一,二〇七	一,六九一
砂糖	同	三八,六九五	二九,七六五	一六,五六〇	四,五四一	三,四九三	二,二二一
紅蔘	斤	三四,六八〇	三三,八七九	三五,四八一	一,八七三	二,〇三二	一,七一四
綿織物	千斤	一,二八七	一,二二六	一,一四九	九九〇	九四三	一,三六一
綿織物	千方碼	五,八〇一	五,五二五	四,一二三	一,七二九	一,六四七	一,二六二
木材					二,九一二	一,九四一	一,五六五
其他諸品					一七,七一〇	一六,八六七	一四,九六二
合計					三〇,九六二	二八,一三三	二四,七七九

(説明)

魚類 滿洲方面ニ於ケル奉票ノ動搖ニ基キ昨年ノ輸出不振ニ了レルカ本年モ同方面ノ形勢思ハレカラス最近ノ支那時局カ如何ニ變動スヘキカ逆睹シ難キモ之ハ姑ク豫想ニ入レス前年同様ノ出荷ト見タリ

砂糖 一兩年來販路擴張ノ氣運ニアル北支那方面ト今後ノ取引ハ支那最近ノ事變ニヨリ混沌豫想シ難キモ大連支那人ノ仲次ヲ以テスル等販路ノ確保困難ニアラサルヘク又滿洲方面ヘハ奉天産糖ノ没落後之ニ代ツテ殆ント獨占的勢力ヲ得ツツアリ昨年ノ輸出額ハ一昨年ニ比シ殆ント八割ノ劇増ヲ呈シタリ然レテ前年ヲ以テ既ニ普及一段落ヲ告ケタル状態ナルモ尙三割増加ハ可能ナル見込

紅蔘 最近二年ノ平均額ヲ計上セリ

綿糸及綿布 關島方面ノ需要自然増加數量五分ノ見込

木材 本年夏季ニ於ケル安東側鴨綠江材ノ流筏狀況尙豫想シ難キモ同地ハ現ニ在荷拂底シ新義州方面ヨリノ輸出倍加ノ狀勢ニアリ年内ヲ通シテ五割増加ノ見込ナリ

其他雜品 以上ノ諸品ヲ除ケル輸出品ハ概シテ零碎ノ物品ニシテ一概ニイヒ難キモ前年ニ比シ自然増加五分ノ見込ヲナセリ

二、輸入重要品過去二年実績及本年豫想

品名	單位	數			價		
		昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
米	千石	五二一	五二	六三五	九,六四一	一,一四九	一四,六八六
粟	同	一,七七〇	二,五二九	二,一八四	二三,八九五	三一,六四九	三一,八〇二
黍	同	一〇九	一五一	六七	一,四〇二	一,九一八	八八五
豆類	千斤	八六,四二三	七八,五六六	五三,〇四〇	四,五三一	四,一一九	三,一五八
砂糖	同	四九,三六〇	四四,三六五	二七,四七一	四,七六三	四,二七八	二,四三二
天日鹽	同	二四三,六九九	二七〇,七七七	二七七,三四二	二,〇八三	二,一三四	二,六〇三
葉煙草	同	五,一〇七	八,五七一	一,六四三	二,六八一	三,五七五	一,七八六
揮發油	同	二,〇三八	一,八五三	一,四八二	一,三三一	一,二一〇	一,一九三
石油	同	一三,八二五	一一,五二一	七,四八一	六,四二五	五,三五四	三,四五一
石蠟	同	一,八三九	一,六四二	一,八三九	一三,八七一	一一,三〇三	一三,八七一

品名	單位	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
綿織物	千方碼	六、〇二五	六、〇二五	一〇、五二八	二、〇四九	二、〇四九	三、六二六
麻織物	同	一三、三三四	一三、三三四	一一、一五〇	五、五三二	五、五三二	五、四三〇
毛織物	同	九六一	八七四	七二六	二、〇六四	一、八七六	一、七二九
石炭	千噸	六八一	六一九	四六四	七、八一七	七、一〇六	五、三三六
諸機					一、五〇二	一、一五五	八九四
木料					六、〇九四	六、七七一	六、三六〇
肥料	千斤	二、〇二二	二、二三六	二、一〇八	八、二九七	九、二一九	一〇、〇二四
其他諸品					一四、〇二五	一三、三五七	一四、六五八
合計					一一八、〇〇三	一一三、九四三	一二三、九三三

一六八

(説明)

米 昨年ノ輸移入總數量八十二萬石ニ對シ鮮米豐作ノ結果三割減即チ需要總數五十萬石ノ見込ニシテ内九割ヲ直輸入一割ヲ内地經由ト見做シ價格ハ十八圓五十錢ノ見込因ニ前年ハ内地ノ免稅ニテ内地經由多量ナリシナリ

粟 前品同様三割減ノ見込市價ハ年平均十二圓五十錢ヲ以テセリ

黍 前年ハ特ニ輸入多大ナリシモ本年最近ノ狀勢ハ著シク減少セリ鮮產増加ノタメナルヘレ依テ前二年ノ平均額ヲ計上シタリ

豆類 間島方面ノ集散範圍擴大ノ傾向アリ前年ニ比シ一割増ノ見込

砂糖 移入ノ部ニ説明セリ

天日鹽 朝鮮產増加ニ依リ一割減ノ見込

葉煙草 前年ノ移入品ノ持越少カラサル見込ナルヲ以テ前二年ノ平均額ヲ舉ケタリ

揮發油 自動車用ヲ主トシ前年ニ比シ一割ノ見込

石油 石油會社ハ昨年來頻ニ在庫品ノ充實ヲ圖リツツアリ前年ニ比シ二割ノ増入ヲ見込メリ

并蠶糸 昨年ハ内地機業地ニ於ケル需要不振ノタメ輸入減少セルモ本年ハ一昨年ノ出荷狀態ニ恢復ノ見込ナリ

綿織物 内地綿布ノ壓迫アリ昨年程度ノ入荷ニ止マルモノト見込マル

麻織物 支那ノ事變ハ從來殆ント影響ナレ依ツテ本年モ前年同様ト見込メリ

毛織物 自然増加一割ノ見込

石炭 前品ト同様

機械類 新設工場用品ニ於テ前年ニ比シ三割方増進ノ見込

木材 新義州方面増加ノ見込ナシ豆滿江流後ハ今ノ所全然豫想シ難シ依テ最近ノ狀況ニヨリ假ニ一割減トセリ

肥料 豆糟ヲ主トセルモノナルカ硫安ノ旺盛ニ押サレ氣味ニテ一割減ノ見込ナリ

其他ノ雜品 自然増加五分ノ見込

三、移出重要品過去二年實績及本年豫想

品名	單位	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
米(玄米換算)	千石	六、九七五	六、四五五	五、七七五	一八八、三二五	一九一、五七四	一九二、二五九
大豆	同	一、五八四	一、四四〇	一、三九三	二五、〇八〇	二二、八〇〇	二四、二九三
其他ノ豆	同	七三	七三	五六	一、〇五四	一、〇五四	八七五

一六九

魚類	海苔	砂糖	牛皮	綿	生糸	石炭	金	銀	鐵	牛	製紙用パルプ	木材	木炭	海産藻	肥料	其他ノ諸品	合計
千斤	同	同	同	同	同	千噸	千斤	同	同	頭	千斤	材	千斤	同	同		
九五、〇〇四	一、〇〇一	一一、一八二	三、〇六五	九、六三七	一、四五九	一一、二八三	二六、八四二	二二、三二五	一五八、九五七	五二、七一一	三、一八二	三九、四五九	四、三六〇	一九、二一一			
八六、六九七	一一、一三三	一一、一八二	二、七六四	九、六三七	一、八二四	九八七	二〇、六八二	二八、一二七	一七六、六一九	四二、〇六四	六、三六二	三五、八七二	四、三六〇	一七、四六五			
一〇三、三二二	八二九	四一九	三、〇六五	八、二五四	二、二〇二	七二四	三三、〇〇一	一六四、九八七	一七七、三六七	四七、九二一	一六、九三八	二八、一九八	三、一九九	一九、三三〇			
一一、四一六	二、四五一	二、四五二	一、八四一	四、一八六	二、五五七	一六、二二九	一、三九九	九二八	五、〇八六	四、二六〇	四〇七	一、三〇八	一、二七九	七、七九〇			
一一、七六〇	二、七三四	二、四五二	一、四四九	四、一八六	四、七三〇	一三、六〇七	一、四五二	一、〇八四	五、六五二	三、三一八	八一三	一、一八九	一、一六三	七、〇八二			
一三、〇七一	二、〇九七	一、〇三三	一、八四一	四、五四六	七、三二二	一一、五七三	二、二三七	七二二	五、四二一	三、八七三	二、三三四	三、五〇七	九一二	八、六二五			
一三、八七一	二、〇九七	一、〇三三	一、八四一	四、五四六	七、三二二	一一、五七三	二、二三七	七二二	五、四二一	三、八七三	二、三三四	三、五〇七	九一二	八、六二五			
三三、四一六	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九	三三、〇七九			

一七〇

(説明)

米 昨年ニ於ケル朝鮮米ノ收穫一千七百二十九萬石ニシテ元年度ニ比シ百九十九萬石ノ增收ナリ此增收額、中鮮内消費増加額ヲ見込ミ移出増加トナルヘキモノ約四割即チ七十九萬石ニシテ昨年十一月、二兩月ニ於テ既ニ出荷増進トナレル數量二十七萬石本年一月以降十月マテノ増加見込五十二萬石ナリ而シテ本年ノ作柄ハ未タ全然豫想ツキ難キモ假ニ前年ト同様ノ收穫アルモノトシ其ノ出荷量モ前年ト同量トスレハ結局本年中ノ移出高ノ前年ニ對スル増加ハ前記五十二萬石トナルニ依テ本年ノ移出數量ヲ算出シタリ而シテ價格ハ本年一月ヨリ四月迄ノ平均一石二十六圓二十錢ナルモ最近稍昂騰ノ氣配アリ年内平均トシテハ二十七圓程度ノ見込ナルヲ以テ之ニ依テ移出價額ヲ算出セリ

大豆 昨二年度ノ産額四百七十四萬石ニシテ前年ニ比シ九分ノ增收ナルカ間島方面ヨリノ出廻モ増加ノ見込ナルヲ以テ本年内移出量ハ前年ニ比シ一割増トセリ

其他ノ豆 前年ト同額ノ見込

魚類 昨年ハ特ニ不漁ナリシモ本年ハ稍良好ノ經過ヲ示シツツアリ前二年ノ平均ニ達スル見込ナリ

海苔 本年ハ産地凶作ニシテ前年ニ比シ一割方減退ヲ免レサル見込ナリ

砂糖 前年ト同額ニ達スル見込ナリ

牛皮 昨年ハ移出特ニ不振ナリシモ本年ハ支那皮高ノ影響ヲ受ケ年頭以來出荷好況ヲ呈セリ一昨年ト同額ニ達スヘキ見込ナリ

生糸 本年ノ作柄豫想シ難シ依テ前年ト同額ノ出荷見込トセリ

前 生糸工場ノ發達ト共ニ年々出荷減少ヲ示セリ本年モ前年ニ比シ數量ニ割減ヲ免レサルヘシ前價ハ本年四月迄ノ平均ニ依レリ



生糸 繭産額ノ増加ト製糸業ノ發達ニ依リ年々出荷増進ノ勢ニアリ本年ノ養蠶成績未タ測リ難キモ本品ノ移出高ハ年來ノ趨勢並本年最近ノ出荷狀況ニ徴シ昨年ニ比シ三割増ノ見込ニテ價額ハ本年四月迄ノ平均ニ依リ算出セリ

牛 昨年ハ特ニ移出不振ナリシモ本年ハ内地各方面ノ需要少カラス殊ニ最近支那出兵關係ヨリ肉牛向注文多シ而シテ朝鮮ニテハ米價安ノタメ例ニ依リ畜牛ヲ手放スモノ多キ有様ナルヲ以テ一昨年ノ移出額ニ比シ尙一割増ヲ見込ナリ

石炭 年々増進ノ趨勢ニアレトモ昨年ノ出荷尙仕向先ニテ賣残リアルヤニテ本年ハ不振ヲ示セリ然レトモ一昨年程度ノ移出量ハ可能ノ見込ナリ

金鐵 金鐵産出ハ昨年ニ比シ増進ノ見込ナルモ其ノ品質ニ於テ年々依リ少カラス高下アリ豫測困難ナルヲ以テ過去二年ノ平均額ヲ計上セリ

鐵 鐵製鐵所ノ需要ニ係リ其ノ使用高ハ略一定セルモノノ如キモ年内積送高ハ船隻等ノ都合ニテ必スシモ一定セス依テ過去二年ノ平均額ヲ計上セリ

鐵 鐵ニ於テハ多少増進スヘキモ條竿板鐵ノ在荷漸減ノ結果前年ニ比シ一割減ヲ免レサルヘシ

製紙用パルプ 本品ノ生産工場ハ新義州ニ一個アルノミニテ昨年来パルプノ移出ヲ減シ洋紙ノ製出ニ力ヲ注キツツアリ爲ニ本年ノ本品移出ハ前年ニ比シ半減ヲ免レサル見込

木材 本年ハ内地ノ需要増進ノ狀勢ニアリ前年ニ比シ約一割増ノ見込ヲナセリ

木炭 朝鮮木炭ノ内地ニ於ケル需要ハ年々増進ノ傾向ニアリ本年モ又一割増ノ見込ナリ

海藻 本年ノ採取狀況未タ豫想シ難キ狀況ニアリ依テ前年同様ノ額ヲ計上セリ

肥料 主トシテ魚肥ニシテ本年今後ノ盛其ノ他ノ漁況ニ依リ産額ノ消長ヲ免レサルモ昨秋以來ノ庫残り品

モ少カラサル狀況ナルヲ以テ前年ニ比シ移出一割増ノ見込ヲナセリ

其他雜品 前年ニ比シ自然増加五分ノ見込ヲ以テ計上セリ

四、移入重要品過去二年実績及本年豫想

品名	單位	數量		價額(千圓)	
		昭和三年	同二年	昭和三年	同二年
米	千石	四五	六五	一、二三三	一、七六〇
外米	同	五二	七七五	一、〇七一	一、六三三〇
小麥	同	六、一、二五六	五、〇、四七	七、三一五	六、〇九六
砂糖	同	二九、三七一	二四、三七六	四、一七一	三、四七七
清酒	石	一、二、二五六	一、二、二五六	一、四一〇	一、四一〇
麥酒	千利	四、五六九	四、三五一	二、一六〇	二、〇五七
綿織	同	七、五〇九六	六、八、二六九	三、九〇五	三、五五〇
打綿	同	三、七、五五八	四、二、三七七	二、一九九	二、三九三
綿織	同	七、七六二	七、七六二	六、四七二	六、四七二
綿織	同	一、五九、六〇六	一、五二、〇〇六	三、八、二二六	三、六、四〇六
絹織	同	二、六六五	二、五三八	三、四八二	三、三一二
絹織	同	九、〇八七	七、二七〇	一、〇、四五〇	九、二六六
紙類	同			六、一八八	五、七三二
護膜	同			七、五六三	七、二〇三
紙類	同				六、八九八

石炭	セメント	鐵	レール類	諸機	木	肥料	其他諸品	合計
千噸	千斤	同	同	同	同	同	同	同
三四四	一五六、四五九	一一〇、六〇八	四四、八五一					
三一三	一四二、二三五	九二、一七三	四〇、七七四					
二七七	一一六、九四三	六五、五六〇	二一、〇九三					
三、九八九	三、〇三五	一一、九二七	三、六三二	七、八五二	四、〇六一	九、〇五五	一三一、三八八	二七〇、七八三
三、六二六	二、九〇四	九、九三九	三、三〇二	八、二六五	三、八六八	六、九六五	一二五、一三一	二六九、四七三
三、二二〇	二、四七七	七、六六一	一、八二〇	六、八五六	三、三四四	七、一八三	一二〇、四六九	二四八、二三五

一七四

(説明)

米(内地産) 昨秋ノ朝鮮米農作ノ結果ハ前年ニ比シ數量三割減ヲ免レサル見込ナリ

外米 輸入ノ項ニ説明ス

小麦粉 昨夏朝鮮ニ於ケル小麦ノ不作ナリシタメ自然本品ノ移入増進ヲ來セリ本年ハ前年ニ比シ二割方増進スレモト達觀セリ

砂糖 輸出精糖八百九十九萬斤ノ増加見込ニテ從テ之カ原料糖ハ輸入移入ノ兩方面ニ増加スヘク兩者ノ何レニ増加スヘキカハ時ノ相場ニ依リ逆睹シ難キモ半々ノ見込ヲ以テ計上セリ但シ精製歩減一割ノ計算ニ依レリ

清酒 前年ト同額ノ見込

麥酒 前年ニ比シ自然増加五分ノ見込

綿糸 紡績工場ニ於ケル消費一割増加ノ見込

打綿 本年秋冬期ノ需要狀態尙豫想シ難キモ前年ノ移入品稍賣殘リアル見込ナルヲ以テ前二年ノ平均額ヲ計上セリ

綿織糸 前年同様ノ見込

綿織物 自然増加五分ノ見込

毛織物 前品ト同様

絹織物 支那絹布代用人絹ノ普及等ニテ一兩年來非常ノ勢ヲ以テ増進ヲ來リ昨年ハ一昨年ニ比シ數量五割(價額ハ一割五分)ヲ増加セリ而レテ既ニ大半行渡レルモ尙數量前年ニ比シ二割五分ノ増加ハ確實ナルヘキ見込ニシテ價額ハ本年三月迄ノ平均ニ依レリ

羅漢靴 昨年ハ一昨年ノ持越關係ニテ減退ヲ示セルモ本年ハ前二年平均額ヲ以テ實需移入額ト見ルヲ得ヘシ

紙類 前年ニ比シ五分ノ自然増加ヲ見込メリ

石炭 前年ニ比シ船車工場方面ノ需要一割増加ノ見込ナリ

セメント 北鮮地方工用品ヲ主トシテ前年ニ比シ數量一割増ノ見込價額ハ本年三月迄ノ平均ニ依レリ

鐵類 水電並製肥工場等ノ建設材料トシテ前年ニ比シ二割増加ノ見込ナリ

軌條類 本年モ鐵道補修工用等ニ相當需要増加スヘキモ一方成鏡線工事モ漸次完成ノ域ニ達シツツアリ

工場引込線材料モ前年相當入荷セラレタル後ナレハ本年ノ入増率ハ一割程度ト思ハル

諸機械 新設工場用品引續キ相當増入ノ狀態ニアルモ從來内地ニテ輸入手數ヲナセシ外國品ノ漸次朝鮮手續ニ換ヘ傾向モアリ本年ノ移入額ハ前年ニ比シ五分方ノ減退ヲ免レサルヘシ

一七五

木材 枕木ノ需要増加等ニテ前年ニ比シ五分増ノ見込  
肥料 硫安ノ施用劇増ヲ示シツツアリ前年ニ比シ三割増ノ見込ナリ  
其他雜品 前年ニ比シ自然増加五分ノ見込

臺灣總督府稅關長

昭和三年臺灣外國貿易豫想

臺灣外國貿易中對支貿易ハ其ノ五割ヲ占メ頗ル重要ナル關係ニ在リ本年初期三四ヶ月ハ動亂小康ヲ得テ貿易ハ前年來不振ノ反動的ニ好轉セシモ最近山東出兵事件ニ關聯シテ各地ニ於ケル排貨運動漸ク猛烈ナラントスルノ傾向アリ從來ノ例ニ徴シ輸入ニ於テハ甚ダシキ影響ヲ蒙ラサルヘキモ輸出ニ於テハ打擊相當甚大ナルヘシ而シテ英米又ハ南洋方面ニ於ケル茶、樟腦、肥料、重油等ノ輸出入ハ依然活況ヲ豫想サルル處ナルモ米カ輸入制限令ニ砂糖カ再製輸出ノ不振ニ遮キラレ殊ニ前者ハ在荷豐富ト相俟テ前年ノ如キ好況ヲ見ル能ハサルヘキヲ以テ結局本年貿易ノ前年ニ比シ稍々衰退スルニ至ルヘシ即チ左ノ如シ

輸 入	輸 出	本年 豫 想		前 年 實 績		減 額	
		數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額
計	計	四〇、七〇九、四〇〇	四、九四〇、〇〇〇	四四、五九七、七〇七	六、一七四、四八八	三、八八八、三〇七	九分
		六〇、五九〇、五〇〇	六、四五四、二〇〇	六五、八四〇、三九六	六、四五四、二七四	五、二四九、八九六	八分
		一〇、二九九、九〇〇	一、一〇二、六〇〇	一〇、四三八、一〇三	一、一〇二、六二一	九、一三八、二〇三	八分三厘

次ニ主要品ヲ列擧シ其ノ概要ヲ説述スレハ

輸出重要品

品 名	數量 單位	昭和三年 豫 想		昭和二年 實 績		増 減 率
		數量	價 額	數量	價 額	
石 炭	噸	四四八、三〇〇	四、九四〇、〇〇〇	五六〇、三九〇	六、一七四、四八八	二 割 減
包 種 茶	斤	八、六七三、〇〇〇	六、四五四、二〇〇	八、六七三、三一	六、四五四、二七四	現 狀
烏 龍 茶	同	七、九八二、〇〇〇	五、一〇二、六〇〇	七、九八二、一一三	五、一〇二、六二一	同
鹹 魚 及 乾 魚	同	二四、二四五、七〇〇	三、九九八、七〇〇	三〇、三〇七、二二四	三、七四八、四二二	二 割 減
綿 織 物	碼	一一、一六六、七〇〇	二、八六二、二〇〇	一三、五一八、六一〇	三、一八〇、二三七	一 割 減
砂 糖	斤	一五、九六五、八〇〇	二、〇四〇、五〇〇	一九、九五七、三二四	二、五五〇、六八七	二 割 減
錫	同	五四六、一一〇〇	二、一七九、一〇〇	五四六、一四五	二、一七九、一三三	現 狀
樟 腦	同	二、五五四、二〇〇	二、八四二、六〇〇	一、七〇二、八〇〇	一、八九五、一〇六	五 割 増
酒 精	升	五、九〇五、二〇〇	一、八五四、九〇〇	五、九〇五、二八一	一、八五四、九五	現 狀
其 他		三九、〇一七、八〇〇	七、四四、七〇〇	五五、七三九、七五三	一〇、三九三、九〇二	三 割 減
計			四〇、七〇九、四〇〇		四四、五九七、七〇七	二 割 減

増減説明

一、石炭 支那各地ニ於ケル支那内國炭(開平、撫順等)ノ出廻増加ト排貨運動ニ依リ減  
二、包種茶 南洋在留支那人ノ排貨懸念アルモ大ナル影響ナカルヘク前年同様

三、烏龍茶 近年不振ノ傾向アルモ製品ノ改善向上ト爲替ノ有利ト相俟テ前年程度ヲ得ル見込  
 四、鹹魚及乾魚 前年輸ノ不漁ノタメ本年ニ於ケル仲繼輸出不振且ツ排貨運動ニ依リ減  
 五、綿織物 外國品ノ出廻ト排貨運動ニテ減  
 六、砂糖 主要市場上海ニ於テ排貨熱熾烈ナルト市價ノ低落ニテ減  
 七、錫 漁況ノ如何ニ依リ支配サレルヲ以テ豫測シ難キモ先ツ前年程度ノ見込  
 八、樟腦 近年人造樟腦ニ壓セラレ甚シク不振ナリシモ最近當局ノ措置宜シキヲ得テ逐月額勢ヲ挽回シツア  
 リ五割増ヲ豫想ス  
 九、酒精 原料豊富ナルモ排貨ト課税問題ニ阻止サレ前年以上ノ伸長困難  
 十、セメント 島内需要旺盛ト排貨並ニ高雄工場ノ罷業ニ依リ減産ニ依リ減

輸入重要品

品名	數量單位	昭和三年豫想		昭和二年		増減率
		數	價額	數	價額	
米	斤	九九、八四三、三〇〇	七、七二三、六〇〇	一九九、六八六、八二一	一、五四四、七三三八	五割減
大豆	同	三二六、六三六、一〇〇	一、三五一、八七〇〇	二八七、八五一、〇二〇	一、二八九、七七一	一割増
油	同	一一五、一一〇、四〇〇	九、五三三、七〇〇	一一三、七四五、八八〇	八、六六七、〇〇〇	一割増
硫酸アムモニウム	同	三〇、三四〇、八〇〇	二、八六四、〇〇〇	三七、九二六、〇〇七	三、五八〇、〇七九	二割減
砂糖	同	三、九六〇、四〇〇	二、六九二、二〇〇	三、九六〇、四〇四	二、六九二、二〇四	現狀
木材	立方尺	四六、〇八九、八〇〇	二、七五二、二〇〇	四三、九二〇、八五三	二、六二一、一九二	五分増
大豆	斤	五八、六五、二〇〇	二、九二九、八〇〇	四、八八七、六八九	二、四四一、四六三	二割増

品名	數量單位	昭和三年豫想		昭和二年		増減率
		數	價額	數	價額	
燈油	ガロン	三、〇一一、九〇〇	一、三九五、四〇〇	三、〇一一、九四〇	一、三九五、四七五	現狀
穀	斤	四三、六一七、一〇〇	一、六六八、三〇〇	三六、三四七、六二一	一、三九〇、二八六	二割増
小麥	同	一三、六一四、六〇〇	九四四、四〇〇	一三、六一四、六七七	九四四、四七四	現狀
煙草	同	二、一一四、七〇〇	九一〇、〇〇〇	二、一一四、七九五	九一〇、〇三九	同
鐵材	同	一一、二四九、四〇〇	九〇七、一〇〇	一〇、二二六、七八四	八二四、六三九	一割増
包	枚	六、一〇四、三〇〇	六五六、三〇〇	五五四九、四〇二	五九六、六四二	同
重油	ガロン	四、〇七〇、九〇〇	六〇六、五〇〇	三、七〇〇、八五六	五五一、三七〇	同
其他			一一、四八八、三〇〇		一一、四八八、三八六	現狀
計			六〇、五九〇、五〇〇		六五、八四〇、三九六	

増減説明

一、米 内地臺灣共前年ノ豊作尻ヲ受ケ在庫豊富ナルト現ニ制限令ニ依リ輸入困難ノ爲メ五割減  
 二、大豆油精 施肥年々増加ノ趨勢ニ在リ蓬萊米(内地種米)増植ト相俟テ増  
 三、硫酸アムモニウム 同上  
 四、砂糖 對支輸出不振ト島内産糖増加ニ遮キラレ減  
 五、木材 土木工事相當活況ヲ呈セルモ内地材ノ移入激増傾向アリ之カ爲メ前年程度以上ニ出テサル見込  
 六、大豆 滿洲方面出廻如何ニ依ルモ島内消費ハ漸増ノ見込ニ付少増  
 七、ガンニ一養 米糖ノ増産ニ伴ヒ増  
 八、燈油 消費自ラ限度アリ前年程度トス  
 九、穀 養豚業ノ隆盛ト蓬萊米ノ増植ニ伴フ施肥増加ニ因リ需要漸増

- 十、小麦 島内製粉事業ノ現状ヨリ觀テ前年程度
- 十一、葉煙草 經濟界ノ現状ヨリ觀テ前年程度トス
- 十二、鐵材 各種土木建築工事ノ發展ニ伴ヒ増入ノ見込
- 十三、包席 砂糖増産ノ爲メ増加
- 十四、重油 最近急激ナル需要増加ヲ示セリ本年モ更ニ進展ノ見込

(終)

### 協議事項議事

#### 本省提出協議事項

(本項ニ付テハ各税關長歸任ノ上文書ヲ以テ意見提出スルコトニ決定セリ)

海港檢疫法第三條ニ依ル明告書ハ之ヲ統一スル爲目下主務省ニ於テ攻究中ニ付右實施ノ上ハ同書ニ記載ナキ大體左ノ尋問要項ヲ其ノ裏面ニ掲記シ明告書ト同様各關ニ共通セシメ各種ノ入港尋問ハ可成之ヲ省略シテハ如何

記

- 一 船ノ長サ
- 二 吃水
- 三 來著日時
- 四 入港ノ目的
- 五 出港豫定日時
- 六 當港積豫定貨物ノ種類、噸數及其ノ仕向地
- 七 積荷中牛、馬(驢及騾ヲ含ム)、緬羊、山羊、豚、犬、鶏、鶩、竝其ノ屍體及加工セサル肉、骨、皮、毛及蹄ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地、竝仕向地

- 八 航海中發病又ハ斃死シタル家畜ノ有無若アラハ其ノ種類、頭數及症狀竝之ニ對シ爲シタル處置
- 九 家畜傳染病ノ發生シタル船舶又ハ家畜傳染病流行地ヨリ來リタル船舶トノ交通ノ有無
- 十 船中ニ常用外ノ爆發物又ハ高度燃燒物ノ有無若アラハ其ノ品名、數量
- 十一 植物及其ノ果實種子、病菌又ハ害虫搭載ノ有無若アラハ其ノ品名、數量
- 十二 積荷中阿片、コカイン、モルヒネ及其ノ鹽類ノ有無
- 十三 航海中海難若ハ危險物ノ發見其ノ他總テ異狀ノ有無

### 稅關提出協議事項

#### (一) 關稅法ニ關スル事項

一、日獨通商航海條約第七條ニ依ル原產地證明書ハ之ヲ必要トスル場合及其ノ發給ノ條件ニ付テハ當該締約國ハ之ヲ公示(稅關手續簡捷ニ關スル國際條約第十一條第二項第一號參照)スルコトトナリ居レルモ未タ其ノ運ヒニ至ラサルヲ以テ其ノ間稅關ニ於テ原產地證明書ヲ發給スル場合左記取扱方如何(門司)

記

- イ、原產地證明書ノ記載事項ハ關稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ルコト
- ロ、證明手数料ハ關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手数料ト同ク一件ニ付貳圓徴收スヘキコト
- ハ、稅關カ貨物ノ原產地ヲ證明スルハ當該稅關ノ管轄區域内ノ地ニ於テ產出シ若ハ製造セラレタルモノ及其ノ管内ヨリ輸出セララルモノニ限ルコト尙右證明ヲ爲スニハ宣誓ノ方法ニ依ルコト

決議 參考(特ニ必要アルトキハ更メテ本省ヨリ通牒スヘキニ依リ夫レ迄ハ從來通り取扱フコト)

二、米及粳ノ輸入ニ付本年農林省令第一號第四條ノ規定ニ依リ稅關ニ提出スル書面ニ付テハ

一般ニ正副二通ニ對シ帝國領事館ノ證明ヲ受ケ其ノ正本ハ荷爲替取組ノ必要ニ因リ銀行ヲ經由發送スル關係上稅關ニハ右正副孰レカヲ提出シテ輸入免許ヲ受クルノ現況ナリ、此種ノ證明書ハ特ニ事情已ムヲ得サル場合ノ外取締上正本ニ限り之ヲ認ムルコトニ各關ノ取扱ヲ一定スルノ要アリト認ム(門司)

(理由) 當關ニ於テハ未タ副本ノ證明書ヲ認メタル事例ナキモ當業者ノ談ニ依レハ他關ニ於テハ之ヲ認メ輸入免許ヲ爲ス向モ有之ヤノ趣ナリ、斯テハ同一ノ證明ニ依リ二重ノ輸入ヲ企テシムルノ危險ヲ伴ヒ之カ取締ノ完全ヲ期シ難キヲ以テ特ニ事情已ムヲ得サル場合ノ外正本ニ限り之ヲ認ムルノ取扱ヲ適當ナリト思考ス

撤回 (各關ニ於テ原則トシテ正本ニ限り受理シ居レリ)

三、包裝ノ整備セル輸入分蜜糖ニ對シテハ現行検査指定個數ヲ左記ノ程度ニ低減スルコト(神戸)

輸 入 個 數	現 行 個 數	改 正 案 個 數
二〇〇個迄	一〇〇分ノ三〇	一〇〇分ノ一五
一、〇〇〇〃	一〇〇分ノ二〇	一〇〇分ノ一〇
五、〇〇〇〃	一〇〇分ノ一五	一〇〇分ノ七
一〇、〇〇〇〃	一〇〇分ノ一二	一〇〇分ノ六

一〇、〇〇〇以上

一〇〇分ノ一〇

一〇〇分ノ五

(理由) 包裝ノ整備セル分蜜糖(例之瓜哇雙目糖)ノ如キハ每五〇袋(總重量約八、五〇〇斤)ニ對スル秤差僅ニ數斤(〇・〇五%内外)ニ過キサルヲ以テ精確度ニ於テ提出案個數ノ指定ニテ充分ナリト思惟ス

決議 本省ニテ研究スルコト

(二) 關稅定率法ニ關スル事項

四、關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依ル礦油ニ對シ商工大臣ノ下附スル輸入許可書ニハ一定ノ期限ヲ附スル様商工省ニ交渉セラレタシ(橫濱)

(理由) 輸入期間ニ制限ナキ爲數年ニ互ルモ尙輸入許可書ノ未整理ナルモノアリ取扱上不便ナリ

決議 參考(商工省ト協議スルコト)

五、朝鮮總督府下附ノ燃料用礦油輸入許可書ヲ以テ内地ニ於テモ免稅油ヲ輸入シ得ルノ途ヲ講スルコト(門司)

(理由) 朝鮮ト内地トニ於テ燃料用礦油輸入許可書ヲ下附スル官廳ヲ異ニセル關係上朝鮮在籍漁船ハ縱令輸入許可書ヲ有スト雖内地沿岸ニ於テハ免稅油ヲ輸入シ得サルノ不便アルヲ以テナリ

決議 否決(朝鮮側ニモ反對アリ)

六、 驗體トシテ輸入スル物品ニ對シ免稅通關ノ途ヲ開クコト(門司)

(理由) 外國品ニ模シ輸出品ヲ製造シ又ハ外國品ノ性質成分等ヲ比較研究ノ爲驗體ト

シテ外國品ヲ輸入スル場合ニ課稅ヲ避ケンカ爲ナリ

例、 陶器會社行ノ陶磁器

染料會社行ノ染色布

決議 參考

七、 大正十年五月勅令第二百三十八號及其ノ施行ニ關スル同年五月大藏省令第十八號ヲ改正

セラレタキコト(大阪)

(理由) 右勅令第二百三十八號ハ逐年其ノ利用ノ普及ヲ見ツツアルモ輸出工業ノ實態

ニ順應シ一層其ノ利用ヲ便ナラシムル爲相當改正方ニ付考慮セラレムコトヲ

望ム

決議 本省ニテ研究スルコト

八、 關稅定率法第十一條第四號該當物品ニ對スル各關ノ取扱振如何(橫濱)

各關ニ取扱事例ナシ

九、 撮影シタル感光性寫眞用フィルム又ハ乾板ノ輸入ニ對スル各關ノ取扱振ヲ承リタシ(門司)

(理由) 近來新聞寫眞用又ハ報道用トシテ「フィルム」、乾板ヲ未現像ノ儘輸入スルモノ

多シ公安ヲ紊リ風俗ヲ害スルモノナキヲ保セサルモ之カ檢閲ノ設備ナキヲ以

テ内容ヲ誓ハシメ引取ラシメ居レリ

決議 稅關ニ於テ内容ヲ知悉スルコト困難ナルモ特ニ不審ナルモノニ付テハ警察ニ

通知スルコト

(三) 保稅倉庫法及保稅工場法ニ關スル事項

一〇、 保稅倉庫トシテ地區ヲモ認ムルノ制ヲ設クルコト(門司)

(理由) 屋外藏置ニ支障ナキ貨物ノ藏置場所トシテ及改正保稅倉庫法ノ手入作業ヲ行

フノ場所トシテ取締上支障ナキ限り之ヲ認ムルヲ可トス

撤回 (保管責任ヲ果シ得ルモノハ地區ト雖之ヲ倉庫ト認ムルコト)

一一、 保稅倉庫ニ於テ手入材料トシテ使用シタル貨物ニシテ滅失シ又ハ包裝、容器等ニ使用

セラレ本體貨物ニ合體シ獨立ノ存在ヲ失ヒタル貨物ニ對スル取扱方(門司)

イ、 手入作業ニ伴ヒ當然滅失スヘキ外國貨物ヲ手入材料トシテ使用スルコトヲ許可セ

ラルルヤ各關ノ取扱方承リタシ

ロ、 前項ノ場合之ヲ許可スルトキハ手入材料カ庫入ノ際檢査ヲ受ケタル貨物ナルトキ

ハ保稅倉庫法第三條第一項但書ノ解釋上庫出ノ際課稅スヘシト雖課稅ノ客體ナキ

カ如何ニ取扱フヘキヤ或ハ此ノ場合材料貨物ハ同條第二項稅關ノ承認ヲ得テ滅却

セラレタル貨物ト看做シテ輸入稅ヲ徵セサルコトニ取扱フヘキヤ又手入材料カ庫



入ノ際検査ヲ受ケサル貨物ニシテ本體貨物カ庫入ノ際検査ヲ受ケタルモノナルトキハ材料貨物ハ保税倉庫法施行規則第三十三條第二項ニ依リ税關ノ承認ヲ受ケ減却シタルモノト看做シ處理スヘキヤ

ハ、庫入ノ際検査ヲ受ケサル外國貨物ヲ手入材料トシテ使用ヲ許可スヘキヤ各關ノ取扱方承リタシ

ニ、前項ノ場合之ヲ許可スルトセハ

(一) 本體貨物庫入ノ際検査ヲ受ケサリシ外國貨物ナルトキハ保税倉庫法第三條第一項本文ノ規定ニ依リ本體貨物ノミ課税スヘキヤ

(二) 本體貨物庫入ノ際検査ヲ受ケタル外國貨物若ハ内國貨物タルトキハ便宜手入前材料貨物ノ検査ヲ爲シ庫出ニ際シ右検査成績ニ依リ課税スヘキヤ

決議 イ號 輸入手續ヲ履行セシメタル上使用セシムルコト

一二、内外貨物ヲ混用セル手入貨物ノ庫出ニ關シテハ手入ニ使用セル外國貨物ニ對シ輸入積戻、運送又ハ庫移等ノ申告ヲ爲サシメ之ニ伴フ内國貨物ノ庫出、輸出、運送又ハ庫移等ノ申告ハ便宜前記申告書ニ併記セシムルコトニ取扱ヒタシ(門司)

(理由) 保税倉庫法施行規則第十條ノ規定ニ依リ其ノ使用セル材料別ニ通關申告ヲ爲サシムルハ取扱上不便尠カラズ

決議 参考(併記セシムルヲ可トスルモ形式ヲ一定スルノ要アルヘシ)

一三、小規模ノ私設保税工場ニ於テハ相當ノ期間ヲ限り特ニ特許手数料ヲ免除スルノ途ヲ講スルコト(門司)

(理由) 經營者ノ負擔ヲ輕減シ生産費ノ低下ヲ圖リ以テ保税工場ノ利用ヲ助成シ輸出貿易振興ノ一助ヲラシメンカ爲ナリ

決議 参考

(四) 税關貨物取扱人法ニ關スル事項

一四、明治三十四年四月法律第十八號税關貨物取扱人法及同年五月大藏省令第八號同法施行細則ヲ改正セラレタキコト(大阪)

(理由) 税關貨物取扱人法ハ其ノ制定以來年ヲ閱スルコト久シク其ノ間改正ヲ見タルコトナキヲ以テ此ノ際相當改正ヲ加ヘ取締上ニモ實效アラシムルト共ニ斯業ノ健全ナル發達ヲ圖ラレムコトヲ望ム

決議 参考

(五) 貿易統計ニ關スル事項

一五、貿易統計輸出品目表單位ハ先般改正セラレタルモ左記品目ニ付テハ實施困難ナルヲ以テ之カ單位ヲ「打」ニ改ムルコトニ考慮セラレタシ(門司)

輸出品目番號	品名	單位
自五九號	飲食物罐詰及罐詰	容器共斤
至六八號		

一〇一號	化粧用クリーム	同
一〇二號	香水及香油	容器共斤及打
一一三號	齒粉	容器共斤
一二四號	白粉	同
一二五號	其ノ他ノ調製薰香類	同

(理由) イ、是等物品ハ容器共ノ重量ニ依リ商取引ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ營業者ト雖之ヲ知ラサルヲ普通トス、仍テ右ノ如キ單位ヲ申告セシムルコトハ困難ナリ

ロ、是等物品ノ容器ニハ種類多ク又内容品ニ於テモ價格ニ非常ノ差アルヲ以テ縱令容器共ノ重量ヲ知リタリトシテモ價格ノ高低ヲ推知スルコト困難ナリ

決議 參考

一六、貿易統計輸出品目表中左記品目ニ付テモ改正後實施ノ狀況ニ鑑ミ更ニ左表ノ單位ニ改正方考慮ヲ希望ス(門司)

輸出品目番號	品名	現行單位	改正希望單位
九 九 號	化粧用石鹼	斤及打	打
一二七號	賣藥	斤	筒
一三〇號	橫寸	斤	千哥

二九六號	封筒	斤及千個	千枚
自一八七號至二〇一號	其ノ他ノ綿布	斤及方碼	方碼

(理由) 前項ト同理由殊ニ化粧石鹼、賣藥、加工綿布ノ如キハ包裝ノ關係上正味斤ノ算出不可能ナルカ故ニ推定ノモノ多キヲ以テナリ

決議 參考

一七、輸入品貿易統計第五類油脂蠟及同製品中礦油ハ比重ニ依リ分類統計スルコトヲセスンテ油ノ品質用途ニ依ルコトトシタシ(門司)

(理由) 現行礦油貿易統計品目ハ

九 八 號	揮發油比重	〇七三〇ヲ超エサル礦油
九 九 號	石油 同	〇八七六ニヲ超エサル礦油
一〇〇號	機械油甲同	〇九二一八ヲ超エサル礦油
一〇一號	同 乙	其ノ他ノ礦油

トナルカ故ニ當關輸入ノ石油ハ僅ニ一スタンダード會社上松印、虎印、ライシングサン、會社白油、貝石油ノ四品ノミナルニ拘ラス尙左記輸入ノ揮發油、機械油、其ノ他ノ礦油ノ如キモノ迄石油トシテ計上セラルルコトトナリ實際ニ合致セサルモノトナルヲ以テナリ

イ、ライシングサン會社輸入品

品名	比重	用途	備考
ヘビーベンジン	〇七七六位	自動車用	

黒貝印一號 ○七四一位  
 同 二號 ○七五〇位  
 パワーオイル ○八五〇位  
 自動車用(ライトベンジンは比重〇・七三〇以下)トヘビーベンジンを保稅工場ニテ混油後輸入スルモノ  
 發動機用

品名	比重	用途
イーグル、スピンドル四號	〇八七〇位	機械潤滑用油
ホワイト、ロース、スピンドル	〇八七六位	同上
ホワイト、スピンドル	〇八七〇位	同上
トランスフオーマー、Z	〇八三〇	變壓器用
ベトロラ、Z	〇八七五	防錆用
ハ、ヴァキューム會社輸入品		
ヴェロシテ、オイル、ブリーチド	〇八六五位	機械潤滑用
同 E	〇八六〇位	同上
トランス、フオーマー A	〇八七〇位	變壓器用
同 D	〇八六五位	同上
同 E	〇八三五位	同上
フルリット、オイル	〇八六五位	リノリウム光澤用
S 一〇二四號	〇八七〇位	頭髮用
S 一〇二九號	〇八六五位	同上

決議 參考

一八、輸出品ノ統計項目編入方ニ付テハ何等ノ取極ナキヲ以テ各關ノ取扱ニ異ナルモノアルカ如シ、例ヘハ蒟蒻芋ヲ甲稅關ハ其ノ他ノ野菜ノ項目ニ、乙稅關ハ其ノ他ノ雜品中ニ入ルル等取扱區ヤナルモノ多ヤアルカ如キヲ以テ之ヲ統一スル爲輸出品ノ統計項目類別表ヲ編纂スルコト、尙統計ニ關スル類別通信ヲ開始スルコトトシタシ、右ハ大正五年稅關長會議ニ一應提出セラレシコトアルモ未タ實現セサルヲ以テ可成速ニ實行セラレタシ(門司)尙輸出類別表ヲ作成スルトセハ可成各關檢査課ニ於テ草案ヲ作成シタル上本省ニ提出シ本省ニ於テハ其ノ材料ニ據リ整理編纂スルコトトセラレタシ

決議 統一方考慮スルコト

一九、本省ニ電報報告ヲ爲ス旬報ハ免許ノ日附ニ據ルコトトナレルモ輸出品ニ付テハ船積完了ノモノノミヲ報告スルコトト改正相成タシ(門司)

(理由) 不積ノ場合ノ整理頗ル繁雜ニシテ就中當港輸出「セメント」計表下附ノ場合ノ如キハ全ク實際ト合致セサル爲當業者ノ苦情多シ

決議 否決

二〇、貿易月表ニ掲記ノ食料粗製品及製造品、原料品、原料用製品、全製品、其ノ他ニ類別スル方法ハ輸入ト輸出トニ於テ左記ノ例ノ如ク異レルヲ以テ之ヲ何レカ一方ニ類別スルコトニ致シタシ(門司)

品名	輸出	輸入
金剛類ノ屑及故	原料品	原料用製造
レール	全製品	原料用製品
金屬類ノ線索	原料用製品	全製品

二二、小包郵便物ノ輸入貿易統計ハ有税品ニ在リテハ税關ノ課税通知ニ基キテ納税済ノモノヲ掲上シ無税品ニ在リテハ郵便局ノ通知ニ係ル全體ノ價額ヨリ前記有税品價額ヲ引キ去リタル残りヲ掲上スルコトナレルヲ次ノ通改正シタリ(門司)

イ、検査課ニ於テ小包検査終了後有税品ハ小包郵便物検査書用紙ニ、無税品(免稅品)ヲ合ムハ別紙一、二號書式ニ夫々關係事項ヲ記載シ統計係ニ送附スルコト

ロ、統計係ハ右書類ニ依リ左ノ通臺帳ニ登記スルコト

(一) 關稅統計ノ相當品目ニ編入スヘキモノニ在リテハ從來ノ通

(二) 其ノ他ハ贅澤稅品該當ノモノト其ノ他トニ區別シ國別ニ依リ價額(有税品ハ税額ヲ併記スルコト)ヲ検査當日毎ニ集計スルコト

(理由) 左記ノ如キ事由ニ因リ統計ノ正確ヲ期シ難キヲ以テナリ

記

イ、郵便局ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ税關ニ報告ス

ロ、價額ハ有税、無税品ノ合算ナルモ郵便局ノ當務者カ小包ノ全個數ニ適宜ノ

單價ヲ乘シテ其ノ額ヲ通知スルモノノ如シ

ハ、有税品ハ納税済ノモノヲ郵便局ニテ整理シ十數枚取纏メタル後税關ニ送付シ來ル爲又ハ名宛人ノ都合等ニ依リ數個月ニ跨ルモノ多ヤアリ

決議 趣旨可決 各關ニ於テ郵便局ニ交渉ノ上實行スルコト

(六) 輸出入植物取締法ニ關スル事項

二三、植物隔離苗圃ヲ設置セラレタシ(横濱)

(理由) 植物類ノ病害ニハ入港時ニ於ケル一回ノ検査ヲ以テ罹病ノ有無ヲ確實ニ決定シ難キ場合少カラス玻璃室ノ隔離苗圃ヲ設ケ罹病ノ疑アル植物ヲ其ノ中ニ假植シテ長期ニ互リ検査ヲ行ヒ其ノ確實ヲ期セムコトヲ望ム

決議 參考

二四、輸移入植物ノ隔離停留場ヲ新設セラレタシ(神戸)

(理由) 從來學術研究等ノ用ニ供スル爲輸移入スル植物類ト雖病菌害虫附著シ又ハ附著ノ惧アルモノハ之ニ對スル保管ノ設備アラサルヲ以テ直ニ燒棄シ居レリ斯テハ學術ノ進歩發達ヲ妨クルノ甚シキニ因リ各關ニ隔離圃及隔離室ヲ設ケ病菌害虫附著ノ惧アルモノノミニ限リ一箇年停留セシメ健全ナルモノニ對シ其ノ輸移入ヲ許可セントス

決議 參考

(七) 官規官制及會計經理ニ關スル事項

二四、職員待遇改善ニ關スル件(門司)

イ、税關鑑査官ノ最高官等ヲ高等官三等トシ俸給モ一號表トスルコト  
ロ、監吏ノ平均俸給ヲ普通判任官ノ平均俸給ニ引上クルコト

決議 參考

二五、判任官進級ニ關スル件(橫濱)

(理由) 官吏ノ病氣危篤等ノ場合多年ノ勤勞成績ニ依リ増俸ノ必要アリト認ムルトキ高等官ニ在リテハ高等官官等俸給令ニ於テ之ニ別段ノ制限ヲ設ケラレサルモ獨リ判任官ニ對シテハ判任官俸給令ニ於テ級俸ニ依リ之等ノ場合ニモ制限ヲ設ケラレ進級ノ途ヲ有セサルカ如キハ彼此均衡ヲ得サルノ嫌アルニ付是等同一ナル待遇ヲ附與シ得ラルル様御講究アラムコトヲ望ム

決議 參考

二六、待遇職員ノ死亡賜金ニ關スル件(橫濱)

(理由) 待遇職員ハ退職ノ場合ニハ恩給法ニ依リ官吏同一ノ恩給ヲ受クルモ在職中死亡ノ場合ニハ官吏ハ俸給令ニ依リ其ノ遺族ニ對シ死亡賜金給與ノ途アルモ獨リ待遇職員ニハ之カ給與ノ規定ヲ存セサルハ彼此均衡ヲ得サルノ嫌アルニ付是等同一ノ待遇ヲ附與シ得ラルル様御講究アラムコトヲ望ム

決議 參考

二七、大藏省雇員俸給支給例ハ軍籍ニ在ル雇備人カ戰時又ハ演習召集ニ應シタル場合ニハ俸給ヲ支給セサル規定ナルモ陸海軍ヨリ受クル俸給料カ現俸給ヨリ少額ナルトキハ其ノ

差額ヲ支給シ得ル様改正スルコト(門司)

(理由) 他省トノ振合ヲ考慮スヘキハ勿論ナルモ現ニ海軍省ニ此ノ規程ヲ設ケアリ又官吏ノ應

召ニ際シテハ是等ノ給與規程ヲ有スルニ拘ラス同ク國家ノ公役ニ服スル雇備人ニ之カ恩典ヲ缺クハ時勢ノ趨向上面白カラス仍テ之カ改正補足ヲ爲サントスル所以ナリ

決議 參考

二八、書籍及「フヰルム」ニ對シ嚴密ナル檢閲ヲ爲ス爲臨時職員ヲ設クルコト(神戸)

(理由) 過般ノ共產黨事件ニ鑑ミ外國ヨリ輸入スル書籍類及「フヰルム」ニ對シテハ今後其ノ内容ニ就キ嚴密ナル檢閲ヲ要スヘキヲ以テ其ノ處置ニ遺漏ナキヲ期スル爲各關ニ之カ事務ニ從事スヘキ臨時職員ヲ設ケントスルモノナリ

臨時職員設置方手配中

二九、防疫員常設ニ關スル件(橫濱)

(理由) 税關構内ニ集散スル内外貨物ノ内ニハ傳染病流行地ヲ經過シ既ニ病毒ニ汚染シタルモノ無之ヲ保シ難キニ付之カ媒介ヲ爲ス鼠族昆虫類ノ驅除、汚物ノ掃除、塵芥ノ焼却等ヲ施行スル爲税關内ニ相當人員ノ防疫員ヲ常置セラレタキ

ニ付右御講究アラムコトヲ望ム

一九八

決議 參考

三〇、警官及檢疫醫ニ自宅開業ヲ許容スルコト(神戸)

(理由)

警官及檢疫醫ハ多ク衛生學的又ハ細菌學的研究ニ没頭シ實際臨床ニ遠カルノ傾向アルヲ以テ自然之ニ對スル技能ノ衰退ヲ來スニ至リ單リ本人ノ修養上面白カラサル影響アルノミナラス如キハ惹テ税關醫員ニ人材ヲ得ルノ途ニアラサルヲ以テ檢疫事務執行上支障ナキ限リ自宅診療ニ従事スルヲ得シメ以テ如上ノ缺陷ヲ補ハントスルモノナリ

撤回

三一、服制統一並現品貸與方ノ件(横濱)

(理由)

服制ヲ統一シ税關被服費ノ給與制ヲ廢シ港務部職員ノ如ク總テ之ヲ現品貸與制ニ改メ月俸五拾圓ヲ超ユル監視及戶外勤務ノ事務官補、鑑査官補、植物檢査官補ニモ之ヲ及ホサレンコトニ付テハ既ニ前年會議ノ決議ヲ經タル所ナリ而シテ右服制統一ノ場合ニハ現行正裝ノ外ニ禮裝(警察部長、警視、警部ノ如キ)ニ關シテモ御講究ノ上制定アラムコトヲ望ム

決議 參考

三二、制服ヲ統一シテ其ノ給與ヲ一定スルコト(門司)

決議 參考

(八) 雜

三三、税關棧橋及繫船岸壁使用規則改正ニ關スル件(横濱)

(理由)

現行ノ使用規則ハ其ノ使用ノ場合事前許可ヲ受クルコトトナリ居レルモ料金ヲ徴收スルニ方リ使用時間ノ延長又ハ短縮ノ場合ニ於テ是等ノ追徴頗ル繁雜ニシテ且誤謬ヲ生スルノ虞アルニ付使用料ハ使用後一定期間内ニ之ヲ納付スルコトニ改メラレムコトヲ望ム

撤回

三四、開港内ノ水面ヲ専用スル漁業權ヲ與ヘムトスル場合ニ於テハ豫メ税關ニ協議スル様農

林省ニ交渉セラレタシ(横濱)

決議 可決

三五、關稅定率法上ノ輸入禁制品並瘋藥類及銃砲火藥類等ノ取締並之ニ關スル地方廳トノ連

絡方等ニ關シ本省主催ノ下ニ各税關ノ協議會ヲ開催セラレタシ(大阪)

(理由)

關稅定率法上ノ輸入禁制品殊ニ公安ヲ害スヘキ書籍其ノ他ノ物品並瘋藥類及銃砲火藥類等ニ關シテハ最モ有效適實ナル取締ヲ爲スヲ必要トス、之ニ就テハ各税關ノ協力及地方廳トノ連絡ヲ必要トスヘキヲ以テ之ニ關スル具體的措置等ニ付充分ナル協議ヲ遂クル様配慮セラレムコトヲ望ム

一九九



### 關係省打合事項

#### 農林省關係

##### 宮木農林事務官

- 燃料用礦油（關稅定率法第七條四ノ二）輸入ノ件ニ關シ左記取扱方御配慮アリ度シ
- 一、稅關ニ於テ輸入許可後通關數量、使用量等商工省ニ通報アリ度シ
  - 二、輸入ノ際相當數量許可シタル場合ニ分括通關ヲ認メラレ度シ
  - 三、輸入許可後長期間引取ヲサルモノ及使途不明ナルモノニ對シ許可ヲ取消ス様致度シ

##### 横濱稅關長

開港港界内ニ漁業權ヲ行使スルモノアリ取締上支障多キニ因リ將來ハ成ル可ク許可セサル様又已ムヲ得サル場合ハ稅關ニ協議アリ度シ

##### 橋本農林事務官

右ニ付テハ先般遞信省ヨリモ開港港則施行區域内ニ於テハ漁業權ヲ認メサル様希望申出ノ次第モアリ農林當局ニ於テモ相當重視シ居レルモ漁業ニ付テハ長年月之ニ從事スルモノ多



シ從ツテ今日之ヲ禁止若ハ制限スルトキハ直ニ生活上死活問題ヲ應起スヘク又之ヲ補償スルトスルモ莫大ノ費用ヲ要スヘキニ因リ從來ノ漁業權ヲ有スルモノハ其ノ儘トシ今後ハ之ヲ許可セサル方針ヲ執リ度シ

主税局長

更新ノ場合如何

橋本農林技師

原則トシテ之ヲ許可シ居レリ

大阪税關長

地方廳限リ漁業ヲ許可シ得ルモノニ對シテハ其ノ都度税關ニ協議スル様農林省ヨリ通牒ヲ發セラレ度シ

橋本農林技師

考慮スヘシ

内務省關係

六月七日内務省關係打合會議ヲ開催ス、各税關長、主税局長、同省ヨリ潮次官、山田衛生局長、内野防疫課長其他係官臨席ス、席上内務次官ヨリ海港檢疫勵行方及銃砲火藥類輸出入並對支兵器彈藥類輸取出縮方等ニ關シ希望條項ヲ具シ挨拶アリ、次テ衛生局長、防疫課長ヨリ右條項ヲ敷衍シ説明スル所アリタリ  
内務次官指示事項及挨拶左ノ如シ

(指示)

御大禮ニ關スル檢疫施設ニ關スル件

今秋京都ニ於テ行ハセラルヘキ御大禮ニ關スル衛生上ノ施設事項中海外ヨリ來ル傳染病ニ對スル豫防ニ付テハ特ニ注意セサルヘカラサルトコロニ屬ス、各位克ク部下ヲ督勵シ過般通達シタル事項ヲ勵行シ檢疫豫防ノ效果ヲ全フセムコトヲ望ム

傳染病情報利用ニ關スル件

近時國際聯盟其ノ他ノ機關ニ依リ海外ニ於ケル傳染病發生ノ狀況カ迅速且比較的正確ニ之ヲ知り得ルコトトナリタルヲ以テ檢疫施行上ニ於テモ充分之ニ留意シ尙又船舶等ニ於テハ常時之ニ注意スルコトニ依ツテ其ノ自衛上ニ於テモ多大ノ便益ヲ得ルコトアルヘキニ依リ之カ周知ト利用トニ關シ適當ノ注意ヲ與ヘ以テ防疫上遺憾ナキ様取計ハレムコトヲ望ム

### 潮内務次官挨拶

二〇六

茲ニ各位御會同ノ機會ニ於テ一言内務省ノ希望スル所ヲ述ベ併セテ二三ノ點ニ付御考慮ヲ煩ハシ度イト存シマス。

今秋行ハセラルル御大禮ノ御滞リナク御終了アラセラルルコトハ舉國官民ノ衷心ヨリ祈ツテ已マヌ所デアルコトハ茲ニ申ス迄モナイコトデアリマス。内務省ニ於キマシテモ銳意各種ノ施設ヲ進メ殊ニ衛生ニ關シマシテハ萬遺漏ナキヲ期シ各方面ニ互リテ豫防警戒ニ努メ之ガ對策ヲ講ジツツアルノデアリマスガ海外ヨリ襲來スル「コレラ」「ベスト」等ノ防止ニ付キマシテハ特ニ深甚ノ注意ヲ要スルコトト考ヘルノデアリマス。此ノ場合ニ於テ各位ノ管掌セラルル海港檢疫ノコトハ對外防疫ノ第一線トシテ最モ重要ナル意義ヲ持ツモノデアリマスカラ幸ニ各位特別ノ御盡力ニ依ツテ外來傳染病ノ防遏上充分ナル效果ヲ擧グルコトヲ切望シテ已マヌ次第デアリマス。其ノ具體的方法ニ關シマシテハ既ニ夫々通達ノ次第モアリマスカラ之ガ實行上ニ付遺漏ナキヲ期セラルル様茲ニ重ねテ希望致シテ置キマス。

海港檢疫ノ事務ハ前申シマス如ク一面ニ於テ海外ヨリ輸入スル病毒ニ對シテ第一ノ遮斷線デアリマスカラ最モ嚴重周密デアラネバナラヌコトハ勿論デアリマスガ一面ニ於テ日ニ月ニ繁劇ヲ加ヘツツアル交通其ノ他ニ對スル一ツノ關門トナルノデアリマスカラ之ガ執行ハ最モ敏速ヲ旨トシ檢疫ノ爲ニ甚シク交通ヲ阻害スル如キコトナキ様充分ノ注意ヲ拂ハネバナラヌ

コトト存ズルノデアリマス。而シテ之ト同時ニ檢疫事務ハ常ニ合理的且適切ニシテ其ノ處置ニ對シテハ何人モ納得スル様充分ノ注意研究ヲ爲スノ必要ガアルト思ヒマス。

近年ニ於キマシテハ海外情報機關モ著シク改良セラレ進歩致シマシテ刻々ニ船舶ノ發航地寄港地ノ傳染病ノ狀況モ分明致シテ居ルノミナラズ無線電信ノ發達普及ハ來航スル船舶ノ狀況モ或程度迄之ヲ豫知スルコトガ出來ルノデアリマスカラ出來得ル丈ケ之ガ利用ニ努メテ事務ノ簡捷ト交通上ノ便宜トヲ計ル様ニ心懸ケネバナラヌコトト思フノデアリマス。

檢疫ノ施行ハ多クハ海上ニ於テ行ハルルノデアリマスカラ従事員ノ勞苦ノ大ナルコトハ重々諒察シテ居ルトコロデアリマスガ其ノ接スル相手方ハ永ラク航海ノ無聊ニ苦ミ一刻モ早ク上陸ヲ希望シテ居ル者デアリ又事情ニ馴レザル外國人モ多數アルコトデアリマスカラ其ノ之ニ接スルニハ親切丁寧ヲ旨トシ徒ラニ感情ヲ害スルガ如キコトナキ様注意スルコトハ最モ必要ナルコトデアルト思フノデアリマス。次ニ銃砲火藥類ノ輸出入ノ件ニ付キマシテ各位ノ御留意ヲ煩シ度イト思ヒマス。此ノ銃砲火藥類ノ輸出入ハ物ノ性質上國內ノ治安維持並國交ノ親善保持ニ關係スルコトノ多イノハ更メテ申ス迄モ無イコトデアリマス。從テ法令ヲ以テ嚴重ナル制限ヲ設ケ又特ニ絶對ニ之ヲ禁止スル場合ヲモ生ズル譯デアリマスガ法令取締リノ愈々密ナラムトスルト共ニ之ヲ濫ラムトスルノ手段モ亦益々巧緻ヲ極メ密輸出入事犯ノ今尙全ク其ノ跡ヲ絶タナイノハ各位ト共ニ甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリマス。

隣邦支那ニ於ケル和平促進ノ爲英米佛伊等ノ所謂聯合諸國ト協議ノ上支那全土ヲ通シテ

二〇七

其ノ權力ノ確立ヲ認メラルル政府ノ成立スルニ至ル迄ハ是等諸國及帝國カラ支那ヘ兵器彈藥ノ輸出ヲ嚴禁スルノ申合ヲ爲シテ居ルノデアリマス。從テ萬一ニモ支那ノ動亂ニ乘シテ紋上禁制品ノ密輸出ヲ圖ル様ナ者ガアリマシタラバ獨リ聯合諸國ニ對シテ帝國ノ信義ヲ失墜スル許リデナク隣邦ノ和平促進ノ爲ニモ非常ニ憂フベキコトデアリマス。カラ克ク之ヲ制壓シテ彼等ニ乘ズルノ機會ヲ與ヘヌ様致スコトガ又極メテ必要デアルト考ヘルノデアリマス。從テ之ガ取締ニ付テハ將來特ニ各位ニ對シテ一段ノ御助力ヲ希望スル次第デアリマス。尙地方警察官憲ニ對シテモ別ニ稅關官憲トノ連絡共助ニ關シ指示ヲ發スル筈デアリマス。カラ其ノ連絡方法等ニ關シ地方官憲ト十分ノ御協議ヲ願ヒ度イデアリマス。

以上ハ海港檢疫事務並銃砲火藥類ノ出入取締ニ關シテ各位ノ御留意ヲ願ツタ次第デアリマス。何卒諸方面ニ跨リ萬遺憾ナキヲ期セラルル様希望シテ止マナイ次第デアリマス。

### 主稅局長注意事項

六月七日會議閉會ニ際シ藤井主稅局長ヨリ左記事項ニ關シ指示セラレタリ

#### 一、稅關ト本省トノ連絡

執務上經伺ヲ要シ或ハ各關ノ連絡ヲ保ツヘキモノハ必要ニ應シ可成速ニ經伺ヲ爲シ又ハ協議ヲ遂ケ適當ノ處置ヲ講シ日常執務上ニ遲滯ナキヲ期スルコト

例ヘハ稅率ノ適用方等ニ關スル問題ノ如キハ最モ速ニ決定ヲ爲スニ非サレハ到底正確且統一アル稅法ノ施行ヲ庶幾シ難シ鑑査官會議ノ議題トナルモノ例年多數ニ上レルカ如キモノ等ハ類別通信等ノ方法ニ依リ可成速ニ疑問ヲ解決スルヲ適當トスヘシ

#### 二、出勤時間ノ勵行

稅關事務ハ特ニ敏活ヲ尙フ現業的事務ニシテ其ノ内容モ概ネ時間的ニ多數ノ事務ノ處理ヲ要スヘキモノナリト思惟ス

故ニ事務ノ進捗ヲ圖ラムカ爲ニハ執務時間ノ正確ヲ期スルコト最肝要ナリ

現在各關ニ於テハ大體開廳定時間以上ニ涉リ執務セラルル様ナルモ登廳時間ニ至リテハ尙遺憾ナキニアラサルカ如シ故ニ此ノ點ニ付一層勵行ヲ期セラレタシ之カ爲ニハ稅關長ヲ始メ各部課長等幹部諸君カ率先シテ時間勵行ヲ範示シ以テ能率ノ増進ヲ圖ラレ度シ

三、税關内部部課間殊ニ港務部ト税關固有ノ部課トノ吏員ノ入レ替ヘ

税關ノ執務振ヲ見ルニ餘リニ分業的ニ流ルルカ如キ向モアル様見受ケラレ動モスレハ機械的執務ニ陥リ事務ノ全般ニ互リ通曉セサルノ憾ナシトセス斯クテハ事務練達ナル職員ヲ得難ク惹テ事務ノ刷新改善ヲ庶幾スルコト困難ナルヘキニ因リ關内ニ於テ吏員ノ更迭ヲ行ヒ各部課ノ事務ヲ習熟セシムルト共ニ志氣ノ緊張ヲ圖ルコト

四、營繕ニ關スル經費

營繕ニ關スル經費ハ從來必要ナルモノノミヲ要求セラレ居ルコトハ勿論ナルヘキモ往々往ニシテ其ノ要求膨大ニシテ年々僅々其ノ一小部分ヲ認メラルルニ過キサル現狀ナリ故ニ將來ハ主トシテ緊急止ムヲ得サルモノヲ要求スルコトトシ且其ノ提出期限(三月十五日迄)ヲ嚴守スルコト

主務課長指書要項